

【表紙】

【提出書類】	有価証券届出書
【提出先】	関東財務局長殿
【提出日】	2022年12月1日提出
【発行者名】	三井住友D Sアセットマネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 猿田 隆
【本店の所在の場所】	東京都港区虎ノ門一丁目17番1号
【事務連絡者氏名】	土屋 裕子
【電話番号】	03-6205-1649
【届出の対象とした募集（売出）内国投資 信託受益証券に係るファンドの名称】	三井住友・年金プラン30 三井住友・年金プラン50 三井住友・年金プラン70
【届出の対象とした募集（売出）内国投資 信託受益証券の金額】	三井住友・年金プラン30 1兆円を上限とします。 三井住友・年金プラン50 1兆円を上限とします。 三井住友・年金プラン70 1兆円を上限とします。
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

第一部【証券情報】

（１）【ファンドの名称】

三井住友・年金プラン30

三井住友・年金プラン50

三井住友・年金プラン70

以下、上記3ファンドを総称して「当ファンド」ということがあり、それぞれを「各ファンド」ということがあります。また、「三井住友・年金プラン30」を「年金プラン30」、「三井住友・年金プラン50」を「年金プラン50」、「三井住友・年金プラン70」を「年金プラン70」という略称でいうことがあります。

（２）【内国投資信託受益証券の形態等】

追加型証券投資信託の受益権です。

* ファンドの受益権は、社債、株式等の振替に関する法律（以下「社振法」といいます。）の規定の適用を受け、受益権の帰属は、後述の「（11）振替機関に関する事項」に記載の振替機関および当該振替機関の下位の口座管理機関（社振法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。）。委託会社である三井住友DSアセットマネジメント株式会社は、やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

当初元本は1口当たり1円です。委託会社の依頼により、信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供された信用格付または信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供される予定の信用格付はありません。

（３）【発行（売出）価額の総額】

各ファンド1兆円を上限とします。

（４）【発行（売出）価格】

取得申込受付日の翌営業日の基準価額となります。

ただし、累積投資契約に基づく収益分配金の再投資の場合は、各計算期末の基準価額となります。

「基準価額」とは、信託財産の純資産総額を計算日における受益権口数で除した価額をいいます（基準価額は、便宜上1万口単位で表示される場合があります。）。

基準価額は、組入有価証券の値動き等により日々変動します。

基準価額は、販売会社または委託会社にお問い合わせいただけるほか、原則として翌日付の日本経済新聞朝刊の証券欄「オープン基準価格」の紙面に、それぞれ「年金30」、「年金50」、「年金70」として掲載されます。

委託会社に対する照会は下記においてできます。

照会先の名称	コールセンター	ホームページ
三井住友DSアセットマネジメント株式会社	0120-88-2976	https://www.smd-am.co.jp

お問い合わせは、午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）までとさせていただきます。

(5) 【申込手数料】

ありません。

(6) 【申込単位】

お申込単位の詳細は、お申込みの販売会社にお問い合わせください。

(7) 【申込期間】

2022年12月2日から2023年6月1日まで

申込期間は、上記期間満了前に有価証券届出書を提出することにより更新されます。

(8) 【申込取扱場所】

販売会社において申込みを取り扱います。

販売会社の詳細につきましては、前記「(4) 発行(売出) 価格」に記載の委託会社にお問い合わせください。

(9) 【払込期日】

取得申込者は、申込金額(取得申込受付日の翌営業日の基準価額×申込口数)を、販売会社の指定の期日までに、指定の方法でお支払いください。

各取得申込みにかかる発行価額の総額は、追加信託が行われる日に、委託会社の指定する口座を経由して、受託会社の指定するファンド口座に払い込まれます。

(10) 【払込取扱場所】

販売会社において払込みを取り扱います。(販売会社は前記「(4) 発行(売出) 価格」に記載の委託会社にお問い合わせください。)

(11) 【振替機関に関する事項】

当ファンドの振替機関は下記の通りです。

株式会社証券保管振替機構

(12) 【その他】

イ 申込証拠金
ありません。

ロ 日本以外の地域における募集
ありません。

ハ クーリング・オフ制度(金融商品取引法第37条の6)の適用
ありません。

ニ 振替受益権について

ファンドの受益権は、社振法の規定の適用を受け、ファンドの振替機関の振替業にかかる業務規程等の規則に従って取り扱われるものとし、ファンドの分配金、償還金、換金代金は、社振法および当該振替機関の業務規程その他の規則に従って支払われます。

(参考：投資信託振替制度)

- ・ファンドの受益権の発生、消滅、移転をコンピュータシステムにて管理するもので、ファンドの設定、解約、償還等がコンピュータシステム上の帳簿(「振替口座簿」といいます。)への記載・記録によって行われます。
- ・受益証券は発行されませんので、盗難や紛失のリスクが削減されます(原則として受益証券を保有することはできません。)
- ・ファンドの設定、解約等における決済リスクが削減されます。
- ・振替口座簿に記録されますので、受益権の所在が明確になります。

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

（1）【ファンドの目的及び基本的性格】

イ 当ファンドは、親投資信託である国内株式マザーファンド（B号）、国内債券マザーファンド（B号）、外国株式マザーファンド（B号）および外国債券マザーファンド（B号）の受益証券への投資を通じて、実質的に内外の株式、債券への分散投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。

以下、上記各親投資信託を総称して、あるいはそれぞれを「マザーファンド」ということがあります。

ロ 各ファンドについて、委託会社が独自に作成した合成指数をベンチマークとし、中長期的にベンチマークを上回る投資成果を目指します。詳細については、後述の「2 投資方針」をご参照ください。

ハ 委託会社は、受託会社と合意の上、各ファンドにつき、それぞれ金2,000億円を限度として信託金を追加することができます。この限度額は、委託会社、受託会社の合意により変更できます。

ニ 当ファンドが該当する商品分類、属性区分は次の通りです。

（イ）当ファンドが該当する商品分類

項目	該当する商品分類	内容
単位型・追加型	追加型投信	一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。
投資対象地域	内外	目論見書または信託約款において、国内および海外の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいいます。
投資対象資産 （収益の源泉）	資産複合	目論見書または信託約款において、株式、債券、不動産投信、その他資産のうち複数の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいいます。

（ロ）当ファンドが該当する属性区分

項目	該当する属性区分	内容
投資対象資産	その他資産（投資信託証券（資産複合（株式、債券）資産配分固定型））	目論見書または信託約款において、主として投資信託証券に投資する旨の記載があるものをいいます。「投資信託証券」以下のカッコ内は投資信託証券の先の実質投資対象について記載していません。なお、組み入れる資産そのものは投資信託証券ですが、投資信託証券の先の実質投資対象は株式および債券であり、ファンドの収益は株式市場、債券市場の動向に左右されるものであるため、商品分類上の投資対象資産（収益の源泉）は「資産複合」となります。
決算頻度	年1回	目論見書または信託約款において、年1回決算する旨の記載があるものをいいます。
投資対象地域	グローバル（日本を含む）	目論見書または信託約款において、組入資産による投資収益が日本を含む世界の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

投資形態	ファミリーファン ド	目論見書または信託約款において、親投資信託 (ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるもの を除く。)を投資対象として投資するものをい います。
為替ヘッジ	為替ヘッジなし	目論見書または信託約款において、対円での為替 のヘッジを行わない旨の記載があるものまたは対 円での為替のヘッジを行う旨の記載がないものを いいます。

商品分類表

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
単位型	国内	株式
		債券
	海外	不動産投信
追加型		その他資産 ()
	内外	資産複合

(注) 当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

属性区分表

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
株式	年1回	グローバル (日本を含む)		
一般	年2回	日本		
大型株	年4回	北米		
中小型株	年6回(隔月)	欧州	ファミリーファンド	あり
債券	年12回(毎月)	アジア		
一般	日々	オセアニア		
公債	その他	中南米		
社債	()	アフリカ	ファンド・オブ・ファンズ	なし
その他債券				
クレジット属性				
()				
不動産投信				
その他資産				
(投資信託証券(資 産複合(株式、債 券)資産配分固定 型))		中近東(中東)		
資産複合		エマージング		
()				
資産配分固 定型				
資産配分変 更型				

(注) 当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

属性区分の「為替ヘッジ」は、対円での為替変動リスクに対するヘッジの有無を記載しています。商品分類、属性区分は、一般社団法人投資信託協会「商品分類に関する指針」に基づき記載していません。商品分類、属性区分の全体的な定義等は一般社団法人投資信託協会のホームページ (<https://www.toushin.or.jp/>) をご覧ください。

(2) 【ファンドの沿革】

- | | |
|------------|--|
| 2000年9月19日 | 信託契約締結、設定、運用開始。
(設定時の委託会社は住友ライフ・インベストメント株式会社) |
| 2001年9月27日 | 「SLIバランス・プラン30」、「SLIバランス・プラン50」、「SLIバランス・プラン70」から「住友ライフ・年金プラン30」、「住友ライフ・年金プラン50」、「住友ライフ・年金プラン70」に名称を変更。 |
| 2002年12月1日 | 三井住友アセットマネジメント株式会社が、合併によりファンドの委託会社としての業務を承継。「住友ライフ・年金プラン30」、「住友ライフ・年金プラン50」、「住友ライフ・年金プラン70」から「三井住友・年金プラン30」、「三井住友・年金プラン50」、「三井住友・年金プラン70」に名称を変更。 |

(3) 【ファンドの仕組み】

イ 当ファンドの関係法人とその役割

(イ) 委託会社 「三井住友D Sアセットマネジメント株式会社」

証券投資信託契約に基づき、信託財産の運用指図、投資信託説明書（目論見書）および運用報告書の作成等を行います。

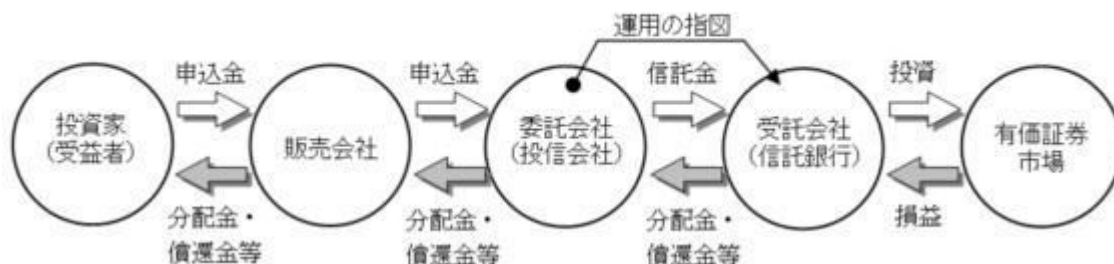
(ロ) 受託会社 「三井住友信託銀行株式会社」

証券投資信託契約に基づき、信託財産の保管・管理・計算等を行います。なお、信託事務の一部につき、株式会社日本カストディ銀行に委託することがあります。また、外国における資産の保管は、その業務を行うに十分な能力を有すると認められる外国の金融機関が行う場合があります。

(ハ) 販売会社

委託会社との間で締結される販売契約（名称の如何を問いません。）に基づき、当ファンドの募集・販売の取扱い、投資信託説明書（目論見書）の提供、受益者からの一部解約実行請求の受付、受益者への収益分配金、一部解約金および償還金の支払事務等を行います。

運営の仕組み



ロ 委託会社の概況

(イ) 資本金の額

20億円（2022年9月30日現在）

（ロ）会社の沿革

1985年7月15日	三生投資顧問株式会社設立
1987年2月20日	証券投資顧問業の登録
1987年6月10日	投資一任契約にかかる業務の認可
1999年1月1日	三井生命保険相互会社の特別勘定運用部門と統合
1999年2月5日	三生投資顧問株式会社から三井生命グローバルアセットマネジメント株式会社へ商号変更
2000年1月27日	証券投資信託委託業の認可取得
2002年12月1日	住友ライフ・インベストメント株式会社、スミセイ グローバル投信株式会社、三井住友海上アセットマネジメント株式会社およびさくら投信投資顧問株式会社と合併し、三井住友アセットマネジメント株式会社に商号変更
2013年4月1日	トヨタアセットマネジメント株式会社と合併
2019年4月1日	大和住銀投信投資顧問株式会社と合併し、三井住友D Sアセットマネジメント株式会社に商号変更

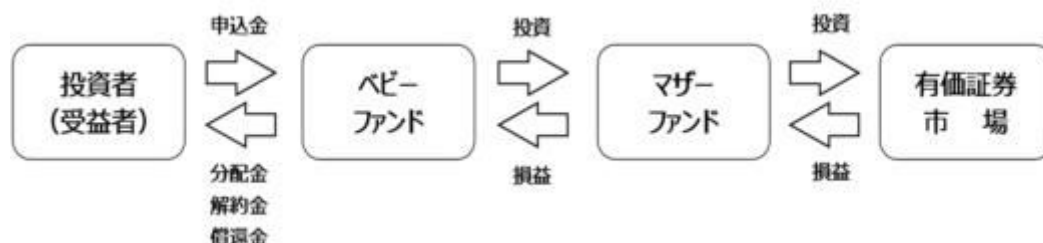
（ハ）大株主の状況

（2022年9月30日現在）

名称	住所	所有株式数 (株)	比率 (%)
株式会社三井住友フィナンシャルグループ	東京都千代田区丸の内一丁目1番2号	16,977,897	50.1
株式会社大和証券グループ本社	東京都千代田区丸の内一丁目9番1号	7,946,406	23.5
三井住友海上火災保険株式会社	東京都千代田区神田駿河台三丁目9番地	5,080,509	15.0
住友生命保険相互会社	大阪府大阪市中央区城見一丁目4番35号	3,528,000	10.4
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号	337,248	1.0

八 ファンドの運用形態（ファミリーファンド方式による運用）

「ファミリーファンド方式」とは、複数のファンドを合同運用する仕組みで、受益者の資金をまとめて「ベビーファンド」とし、「ベビーファンド」の資金の全部または一部を「マザーファンド」に投資することにより、実質的な運用は「マザーファンド」において行う仕組みです。



2【投資方針】

(1)【投資方針】

イ 基本方針

マザーファンドを組み入れることにより、実質的に内外の株式、債券に投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。

□ 投資態度

(イ) 各ファンドの標準的な資産配分および各資産の変動幅は、以下の通りとします。

a. 年金プラン30

	資産配分	変動幅	
		下限	上限
株式	30%	25%	35%
国内株式	20%	12.5%	30%
外国株式	10%	5%	15%
債券および短期金融資産	70%	65%	75%
国内債券	60%	45%	70%
外国債券	10%	5%	15%
短期金融資産	0%	0%	5%

b. 年金プラン50

	資産配分	変動幅	
		下限	上限
株式	50%	45%	55%
国内株式	33%	22.5%	45%
外国株式	17%	10%	25%
債券および短期金融資産	50%	45%	55%
国内債券	40%	25%	50%
外国債券	10%	5%	15%
短期金融資産	0%	0%	5%

c. 年金プラン70

	資産配分	変動幅	
		下限	上限
株式	70%	65%	75%
国内株式	47%	32.5%	60%
外国株式	23%	15%	35%
債券および短期金融資産	30%	25%	35%
国内債券	20%	5%	30%
外国債券	10%	5%	15%
短期金融資産	0%	0%	5%

(ロ) 各ファンドの運用にあたっては、それぞれ以下の比率により委託会社が独自に作成した合成指数をベンチマークとし、中長期的にベンチマークを上回る投資成果を目指します。

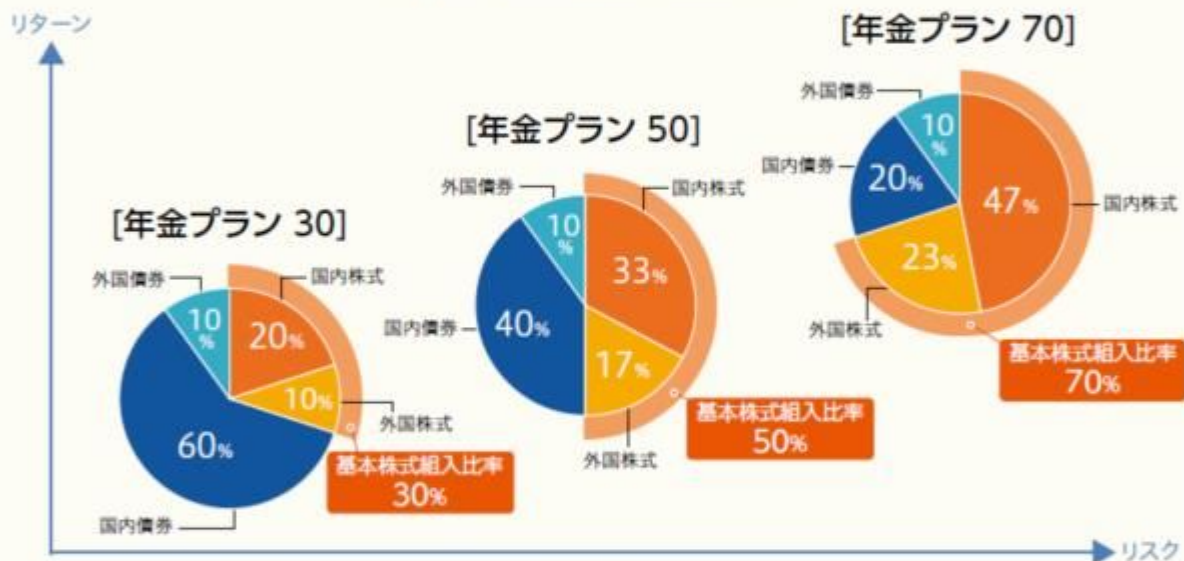
	年金プラン 30	年金プラン 50	年金プラン 70
TOPIX(東証株価指数)	20%	33%	47%
NOMURA-BPI(総合)	60%	40%	20%
MSCIコクサイインデックス(配当込み、円ベース)	10%	17%	23%
FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)	10%	10%	10%

(ハ) 実質外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行わないことを基本とします。

ファンドの特色

- 1 内外の株式・債券に投資する4つのマザーファンドの組入れを通じて、国内株式、国内債券、外国株式および外国債券への分散投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標とします。
- 2 各ファンドにつき、標準的な資産配分および各資産の変動幅を定め、その範囲内で運用を行います。

[各ファンドの標準資産配分]



※上図はイメージであり、実際とは異なる場合があります。

[各資産の配分変動幅]

		年金プラン30	年金プラン50	年金プラン70
株式	25%~35%			
	国内株式	12.5%~30%	22.5%~45%	32.5%~60%
	外国株式	5%~15%	10%~25%	15%~35%
債券および短期金融資産	65%~75%			
	国内債券	45%~70%	25%~50%	5%~30%
	外国債券	5%~15%	5%~15%	5%~15%
	短期金融資産	0%~5%	0%~5%	0%~5%

3

各ファンドにつき、委託会社が独自に作成した合成指数をベンチマークとし、中長期的にベンチマークを上回る投資成果を目指します。

〔各ファンドのベンチマークの資産別合成比率〕

	投資対象資産	年金プラン30	年金プラン50	年金プラン70
TOPIX (東証株価指数)	国内株式	20%	33%	47%
MSCIコクサイインデックス (配当込み、円ベース)	外国株式	10%	17%	23%
NOMURA-BPI(総合)	国内債券	60%	40%	20%
FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)	外国債券	10%	10%	10%

TOPIX(東証株価指数)、NOMURA-BPI(総合)、MSCIコクサイインデックス、FTSE世界国債インデックスは、それぞれ株式会社JPX新研、野村證券株式会社、MSCI Inc.、FTSE Fixed Income LLCが公表している指数です。
TOPIX(東証株価指数)、NOMURA-BPI(総合)、MSCIコクサイインデックス(配当込み、円ベース)、FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)は、国内株式、国内債券、外国株式、外国債券の代表的な指数であり、各ファンドの合成指数を構成するものです。なお、MSCIコクサイインデックス(配当込み、円ベース)およびFTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)は、前日の指数を当日の対顧客電信売買相場の仲値により委託会社が円換算したものです。

※各インデックスに関する知的所有権その他一切の権利は、指数を公表する各社に帰属します。また、当該各社は当ファンドの運用に関して責任を負うものではありません。

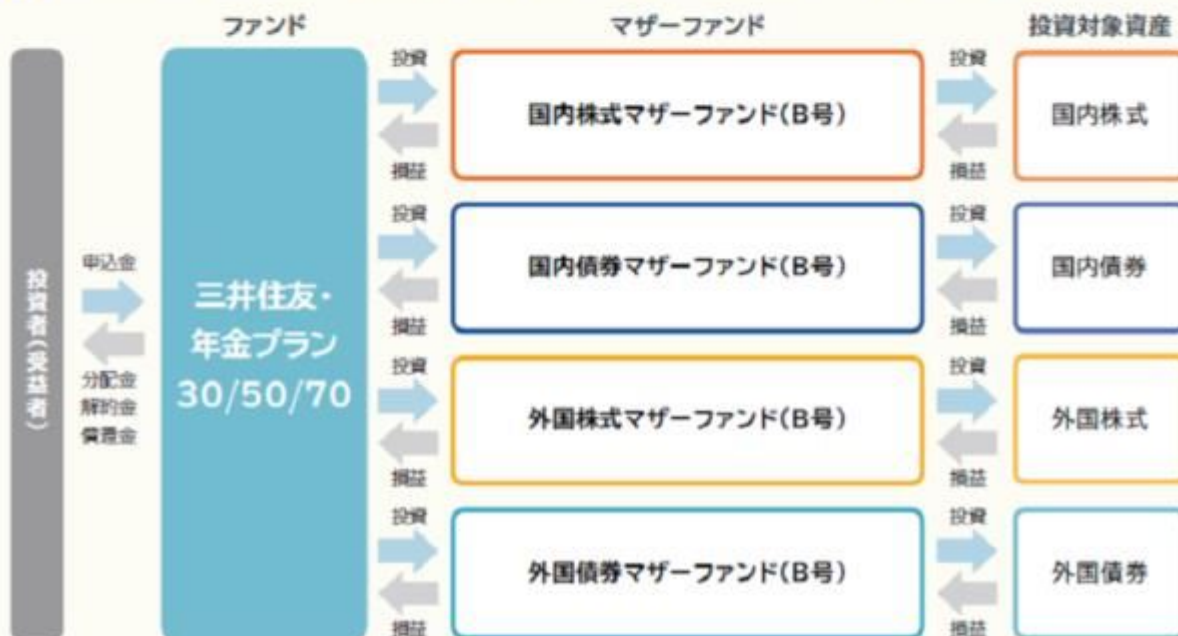
4

実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行わないことを基本とします。

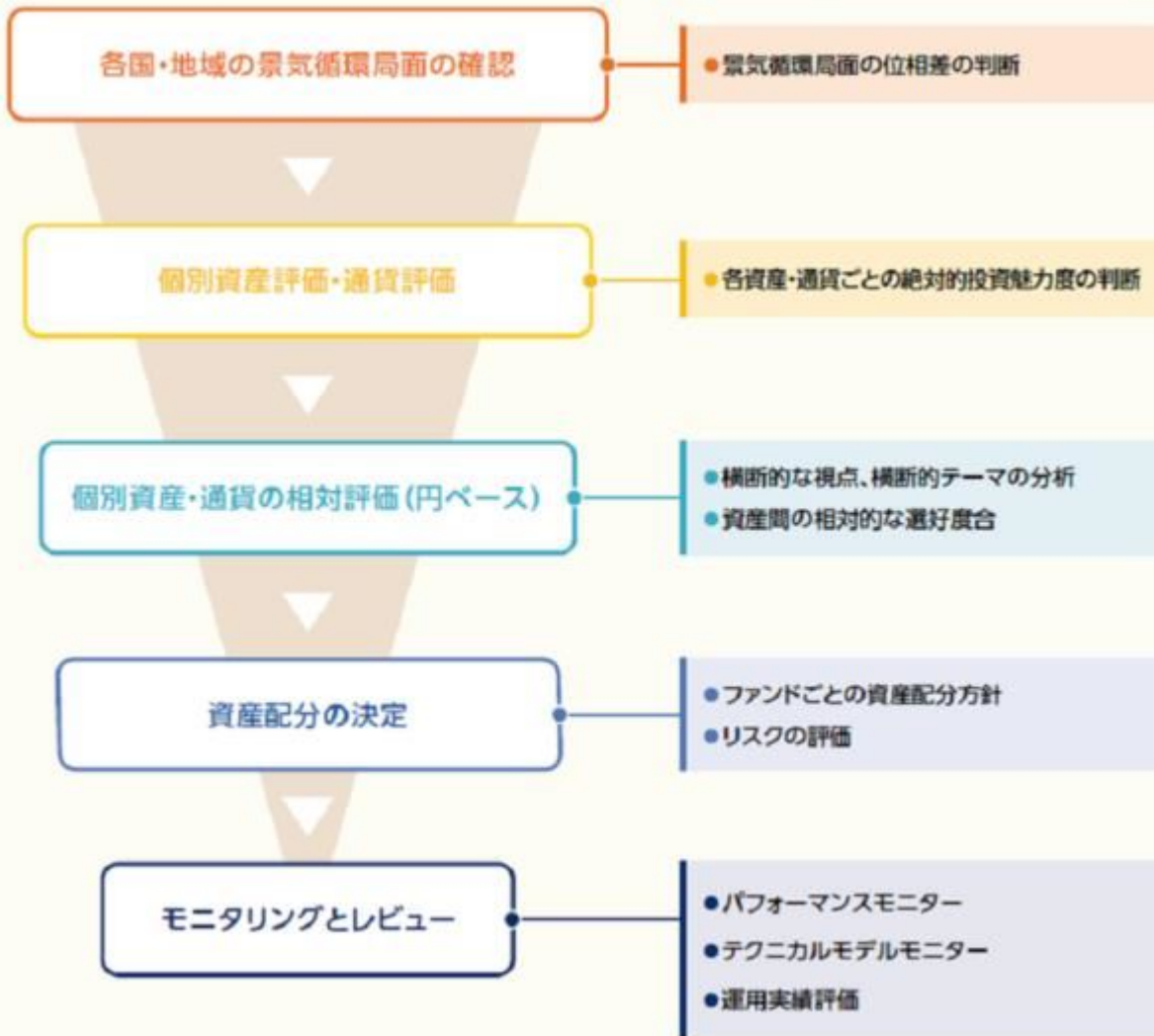
※資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

ファンドのしくみ

■ファミリーファンド方式を採用し、マザーファンドの組入れを通じて、実際の運用を行います。



運用プロセス



※上記の運用プロセスは2022年9月末現在のものであり、今後変更される場合があります。

各マザーファンドの投資方針等

国内株式マザーファンド(B号)

- 主として日本の株式に投資を行い、中長期的にTOPIX(東証株価指数)を上回る投資成果を目指して運用を行います。
- 株式への投資にあたっては、以下の方針に基づいて運用を行います。
 - a.原則として80銘柄以上の株式に分散投資を行います。
 - b.株価は一時的・部分的にはファンダメンタルズから乖離することがあり、この価格形成の非効率性が超過収益の源泉であるとの観点に立ち、トップダウン、ボトムアップ両面からのアプローチに基づく徹底したリサーチをベースに、市場にまだ十分織り込まれていない投資材料を的確に捉えて、意図したリスクを取ることで、市場を上回る収益を追求します。
 - c.業種配分は、主として中長期的な産業成長力に着目した調査・分析に基づいて決定します。各業種の評価にあたっては、市場の成長性、国際競争力、技術革新等に注目します。
 - d.個別銘柄の選択は、委託会社のアナリストによるグローバルかつ中長期的な視点での定量・定性双方の面からの徹底したリサーチに基づいて行います。

国内債券マザーファンド(B号)

- 主として日本の公社債に投資し、中長期的にベンチマークであるNOMURA-BPI(総合)を上回る投資成果を目指して運用を行います。
- 運用にあたっては、リスクを一定以下に抑えて収益の安定性を確保しつつ、定量的相対価値分析を駆使し、残存・セクター・銘柄間の割高割安を判断するだけでなく、ポートフォリオのデュレーションをベンチマーク対比で乖離させることにより、ベンチマークを上回る収益の獲得を目指します。

外国株式マザーファンド(B号)

- 主として日本を除く世界各国の株式に投資し、中長期的にMSCIコクサイインデックス(配当込み、円ベース)を上回る投資成果を目指して運用を行います。
- 委託会社のエコノミスト、アナリストによる綿密かつ広範囲のリサーチにより、トップダウンおよびボトムアップ双方の視点から株価に十分織り込まれていない投資材料を見極め、リスクを取ることで超過収益の獲得を目指します。
- 外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行わないものとします。

外国債券マザーファンド(B号)

- 主として世界主要先進国の格付けの高い公社債(原則として欧米の主要格付機関からA格相当以上の格付けを取得しているもの)に投資し、中長期的にベンチマークであるFTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)を上回る投資成果を目指して運用を行います。
- ベンチマークの動きとの連動性を維持しつつ、マクロ分析および定量分析をベースにベンチマークを上回る収益の獲得を目指します。
- 外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行わないものとします。



デュレーションとは

「債券の投資元本の回収に要する平均残存期間」や「金利の変動に対する債券価格の変動性」を表す指標です。一般的に、この値が長い(大きい)ほど、金利の変動に対する債券価格の変動が大きくなります。

※資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

(2)【投資対象】

イ 投資対象とする資産の種類

当ファンドが投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

- (イ)次に掲げる特定資産(投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項の「特定資産」をいいます。以下同じ。)

1. 有価証券
 2. デリバティブ取引にかかる権利
 3. 金銭債権
 4. 約束手形
- (口) 特定資産以外の資産で、以下に掲げる資産

1. 為替手形

ロ 投資対象とする有価証券

委託会社は、信託金を、主として第1号から第4号までのマザーファンドの受益証券および第5号から第22号までの有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します。

1. 国内株式マザーファンド（B号）
2. 国内債券マザーファンド（B号）
3. 外国株式マザーファンド（B号）
4. 外国債券マザーファンド（B号）
5. 株券または新株引受権証書
6. 国債証券
7. 地方債証券
8. 特別の法律により法人の発行する債券
9. 社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券（以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。）の新株引受権証券を除きます。）
10. 特定目的会社にかかる特定社債券（金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。）
11. コマーシャル・ペーパー
12. 新株引受権証券（分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。）および新株予約権証券
13. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、第5号から第12号までの証券または証書の性質を有するもの
14. 投資信託または外国投資信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。）
15. 投資証券もしくは投資法人債券または外国投資証券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。）
16. 外国貸付債権信託受益証券（金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。）
17. オプションを表示する証券または証書（金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券にかかるものに限ります。）
18. 預託証書（金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。）
19. 外国法人が発行する譲渡性預金証書
20. 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）
21. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
22. 外国の者に対する権利で前号の有価証券の性質を有するもの

なお、第5号の証券または証書、第13号ならびに第18号の証券または証書のうち第5号の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、第6号から第10号までの証券および第13号ならびに第18号の証券または証書のうち第6号から第10号までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といいます。

ハ 投資対象とする金融商品

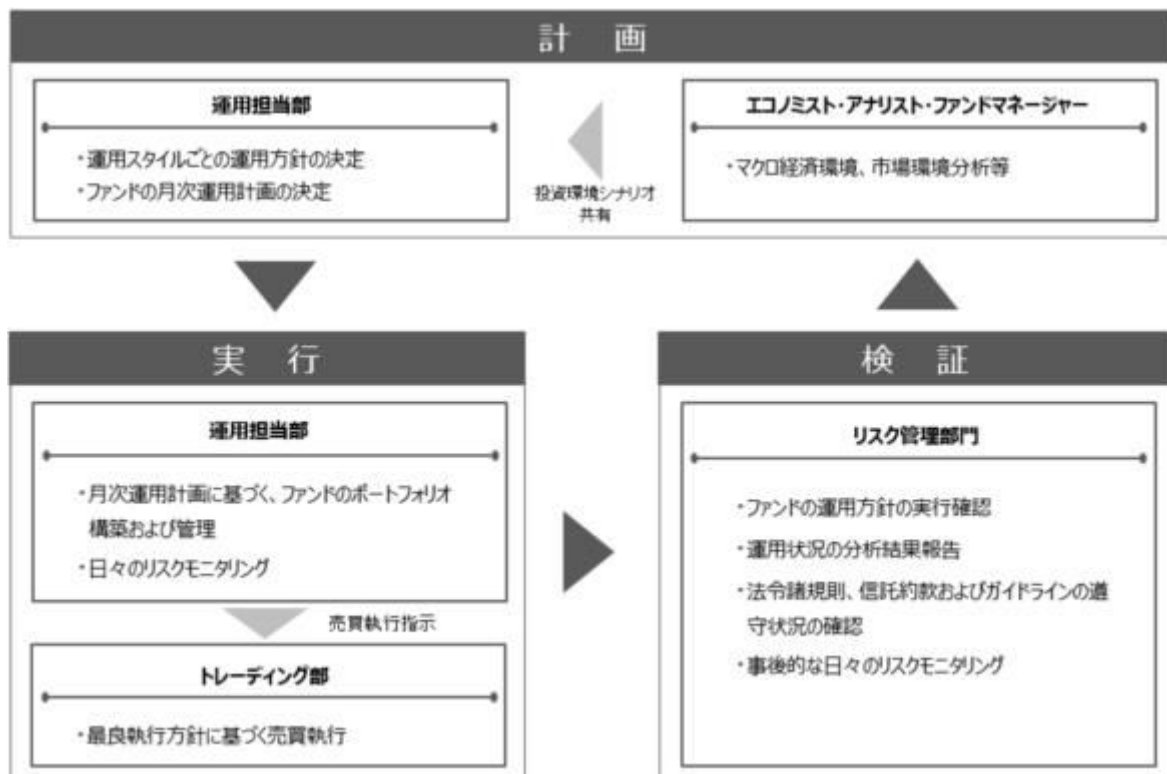
委託会社は、信託金を、上記ロに掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運

用することを指図することができます。

- 1．預金
- 2．指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）
- 3．コール・ローン
- 4．手形割引市場において売買される手形
- 5．貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
- 6．外国の者に対する権利で前号の権利の性質を有するもの

（3）【運用体制】

イ ファンドの運用体制



リスク管理部門の人員数は、約50名です。

ファンドの運用体制は、委託会社の組織変更等により、変更されることがあります。

ロ 委託会社によるファンドの関係法人（販売会社を除く）に対する管理体制

ファンドの受託会社に対しては、信託財産の日常の管理業務（保管・管理・計算等）を通じて、信託事務の正確性・迅速性の確認を行い、問題がある場合は適宜改善を求めています。

（4）【分配方針】

毎年1回（原則として3月6日。休業日の場合は翌営業日となります。）決算を行い、原則として以下の方針に基づき分配金額を決定します。

- イ 分配対象額は、経費控除後の利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。
- ロ 分配金額は、委託会社が基準価額の水準等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合等や委託会社の判断によっては、分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

- 八 収益の分配に充てず信託財産内に留保した利益については、前記「(1)投資方針」に基づいて運用を行います。

ファンドは複利効果による信託財産の成長を優先するため、分配を極力抑制します。(基準価額水準、市況動向等によっては変更する場合があります。)

(5)【投資制限】

ファンドの信託約款に基づく主要な投資制限

- イ 株式への実質投資割合は、各ファンドにつき、以下の通りとします。

年金プラン30	信託財産の純資産総額の35%以下
年金プラン50	信託財産の純資産総額の55%以下
年金プラン70	信託財産の純資産総額の75%以下

実質投資割合とは、当ファンドが保有するある種類の資産の評価額が当ファンドの純資産総額に占める比率(「組入比率」といいます。)と、当該同一種類の資産のマザーファンドにおける組入比率に当該マザーファンド受益証券の当ファンドにおける組入比率を乗じて得た率を合計したものをいいます(以下同じ。)

- ロ 外貨建資産への実質投資割合は、各ファンドにつき、以下の通りとします。

年金プラン30	信託財産の純資産総額の30%以下
年金プラン50	信託財産の純資産総額の40%以下
年金プラン70	信託財産の純資産総額の50%以下

- ハ 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

ファンドの信託約款に基づくその他の投資制限

- イ 投資する株式等の範囲

(イ) 委託会社が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、取引所に上場している株式の発行会社の発行するもの、および取引所に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券については、この限りではありません。

(ロ) 上記(イ)にかかわらず、上場予定または登録予定の株式、新株引受権証券および新株予約権証券で目論見書等において上場または登録することが確認できるものについては、委託会社が投資することを指図できるものとします。

- ロ 信用取引の指図範囲

(イ) 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売り付けることの指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、株券の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができるものとします。

(ロ) 信用取引の指図は、当該売付けにかかる建玉の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該売付けにかかる建玉のうち信託財産に属するとみなした額(信託財産に属するマザーファンドの時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める当該売付けにかかる建玉の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。)との合計額が、信託財産の純資産総額の範囲内とします。

(ハ) 信託財産の一部解約等の事由により、信用取引の売付けにかかる建玉の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する売付けの一部を決済するための指図をするものとします。

- ハ 先物取引等の運用指図、目的、範囲

- (イ) 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、および信託財産が運用対象とする有価証券の価格変動リスクを回避するため、日本の取引所における有価証券先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。以下同じ。)、有価証券指数等先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。以下同じ。)および有価証券オプション取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。以下同じ。)ならびに外国の市場におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引はオプション取引に含めるものとします(以下同じ。)
- (ロ) 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、日本の取引所における通貨にかかる先物取引ならびに外国の市場における通貨にかかる先物取引およびオプション取引を行うことの指図をすることができます。
- (ハ) 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクを回避するため、日本の取引所における金利にかかる先物取引およびオプション取引ならびに外国の市場におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。

ニ スワップ取引の運用指図、目的、範囲

- (イ) 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、異なった通貨、異なった受取り金利または異なった受取り金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引(以下「スワップ取引」といいます。)を行うことの指図をすることができます。
- (ロ) スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- (ハ) スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
- (ニ) 委託会社は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

ホ 金利先渡取引および為替先渡取引の運用指図、目的、範囲

- (イ) 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、金利先渡取引および為替先渡取引を行うことの指図をすることができます。
- (ロ) 金利先渡取引および為替先渡取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が、原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- (ハ) 金利先渡取引および為替先渡取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
- (ニ) 委託会社は、金利先渡取引および為替先渡取引を行うにあたり、担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。
- (ホ) 「金利先渡取引」とは、当事者間において、あらかじめ将来の特定の日(以下「決済日」といいます。)における決済日から一定の期間を経過した日(以下「満期日」といいます。)までの期間にかかる国内または海外において代表的利率として公表される預金契約または金銭の貸借契約に基づく債権の利率(以下「指標利率」といいます。)の数値を取り決め、その取決めにかかる数値と決済日における当該指標利率の現実の数値との差にあらかじめ元本として定めた金額および当事者間で約定した日数を基準とした数値を乗じた額を決済日における当該指標利率の現実の数値で決済日における現在価値に割り引いた額の金銭の授受を約する取引をいいます。
- (ヘ) 「為替先渡取引」とは、当事者間において、あらかじめ決済日から満期日までの期間にかかる為替スワップ取引(同一の相手方との間で直物外国為替取引および当該直物外国為替取引と反対売買の関係に立つ先物外国為替取引を同時に約定する取引をいいます。以下同じ。)のス

ワップ幅(当該直物外国為替取引にかかる外国為替相場と当該先物外国為替取引にかかる外国為替相場との差を示す数値をいいます。以下同じ。)を取り決め、その取決めにかかるスワップ幅から決済日における当該為替スワップ取引の現実のスワップ幅を差し引いた値にあらかじめ元本として定めた金額を乗じた額を決済日における指標利率の数値で決済日における現在価値に割り引いた額の金銭またはその取決めにかかるスワップ幅から決済日における当該為替スワップ取引の現実のスワップ幅を差し引いた値にあらかじめ元本として定めた金額を乗じた金額とあらかじめ元本として定めた金額について決済日を受渡日として行った先物外国為替取引を決済日における直物外国為替取引で反対売買したときの差金にかかる決済日から満期日までの利息とを合算した額を決済日における指標利率の数値で決済日における現在価値に割り引いた額の金銭の授受を約する取引をいいます。

へ 有価証券の貸付けの指図および範囲

- (イ) 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を、次の各号の範囲内で貸し付けることの指図をすることができます。
 1. 株式の貸付けは、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額を超えないものとします。
 2. 公社債の貸付けは、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額を超えないものとします。
- (ロ) 上記(イ)の各号に定める限度額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。
- (ハ) 委託会社は、有価証券の貸付けにあたって必要と認めるときは、担保の受入れの指図を行うものとします。

ト 公社債の借入れの指図および範囲

- (イ) 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、公社債の借入れの指図をすることができます。なお、当該公社債の借入れを行うにあたり担保の提供が必要と認めるときは、担保の提供の指図をするものとします。
- (ロ) 公社債の借入れの指図は、信託財産の純資産総額の範囲内で行うものとします。
- (ハ) 信託財産の一部解約等の事由により、借入れにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する借り入れた公社債の一部を返還するための指図をするものとします。
- (ニ) 公社債の借入れにかかる品貸料は、信託財産中から支弁します。

チ 特別の場合の外貨建有価証券への投資制限

外貨建有価証券への投資については、日本の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。

リ 外国為替予約の指図および範囲

- (イ) 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、ならびに信託財産に属する資産の為替変動リスクを回避するため、外国為替の売買の予約取引の指図をすることができます。
- (ロ) 外国為替予約取引の指図は、信託財産にかかる為替の買予約の合計額と売予約の合計額との差額につき円換算した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。ただし、信託財産に属する外貨建資産の為替変動リスクを回避するためにする当該予約取引の指図については、この限りではありません。
- (ハ) 上記(ロ)の限度額を超えることとなった場合には、委託会社は所定の期間内に、その超える額に相当する為替予約の一部を解消するための外国為替の売買の予約取引の指図をするものとします。

ヌ 資金の借入れ

- (イ) 委託会社は、信託財産の効率的な運用および運用の安定性に資するため、一部解約に伴う支払資金の手当て(一部解約に伴う支払資金の手当てのために借り入れた資金の返済を含みます。)を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ(コール市場を通じる場合を含みます。)の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。

- (ロ) 一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、解約代金および償還金の合計額を限度とします。
- (ハ) 収益分配金の再投資にかかる借入期間は、信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
- (二) 借入金の利息は、信託財産中より支弁します。

ル デリバティブ取引等にかかる投資制限

委託会社は、デリバティブ取引等について、一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が信託財産の純資産総額を超えることとなる投資の指図をしません。

法令に基づく投資制限

- イ 同一法人の発行する株式への投資制限(投資信託及び投資法人に関する法律第9条)
委託会社は、同一の法人の発行する株式を、その運用の指図を行うすべての委託者指図型投資信託につき、信託財産として有する当該株式にかかる議決権の総数(株主総会において決議をすることができる事項の全部につき議決権を行使することができない株式についての議決権を除き、会社法第879条第3項の規定により議決権を有するものとみなされる株式についての議決権を含みます。)が、当該株式にかかる議決権の総数に100分の50を乗じて得た数を超えることとなる場合においては、信託財産をもって当該株式を取得することを受託会社に指図することが禁じられています。
- ロ デリバティブ取引にかかる投資制限(金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号)
委託会社は、信託財産に関し、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法により算出した額が当該信託財産の純資産額を超えることとなる場合において、デリバティブ取引(新株予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書にかかる取引および選択権付債券売買を含みます。)を行い、または継続することを受託会社に指図しないものとします。
- ハ 信用リスク集中回避のための投資制限(金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号の2)
委託会社は、運用財産に関し、信用リスク(保有する有価証券その他の資産について取引の相手方の債務不履行その他の理由により発生し得る危険をいいます。)を適正に管理する方法としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法に反することとなる取引を行うことを受託会社に指図しないものとします。

(参考情報：マザーファンドの投資方針等)

(国内株式マザーファンド(B号))

(1) 投資方針等

イ 基本方針

日本の株式を主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。

ロ 投資態度

- (イ) 主として日本の株式に投資を行い、中長期的にTOPIX(東証株価指数)を上回る投資成果を目指して運用を行います。
- (ロ) 株式への投資にあたっては、以下の方針に基づいて運用を行います。
- a. 原則として80銘柄以上の株式に分散投資を行います。
- b. 株価は一時的・部分的にはファンダメンタルズから乖離することがあり、この価格形成の非

効率性が超過収益の源泉であるとの観点に立ち、トップダウン、ボトムアップ両面からのアプローチに基づく徹底したリサーチをベースに、市場にまだ十分織り込まれていない投資材料を的確に捉えて、意図したリスクを取ることで、市場を上回る収益を追求します。

- c. 業種配分は、主として中長期的な産業成長力に着目した調査・分析に基づいて決定します。各業種の評価にあたっては、市場の成長性、国際競争力、技術革新等に注目します。
- d. 個別銘柄の選択は、委託会社のアナリストによるグローバルかつ中長期的な視点での定量・定性双方の面からの徹底したリサーチに基づいて行います。

(2) 投資対象

イ 投資対象とする資産の種類

前記「2 投資方針 (2) 投資対象 イ 投資対象とする資産の種類」において記載したベビーファンドが投資対象とする資産の種類に同じです。

ロ 投資対象とする有価証券

前記「2 投資方針 (2) 投資対象 ロ 投資対象とする有価証券」において記載したベビーファンドが投資対象とする有価証券の各号のうち、主として第5号、第6号、第8号、第11号、第14号、第19号および第20号の有価証券(本邦通貨表示のものに限ります。)ならびに短期社債等に投資します。

ハ 投資対象とする金融商品

前記「2 投資方針 (2) 投資対象 ハ 投資対象とする金融商品」において記載したベビーファンドが投資対象とする金融商品の各号のうち、主として第1号から第4号の金融商品に投資します。

(3) 投資制限

イ ファンドの信託約款に基づく主要な投資制限

(イ) 株式への投資割合には制限を設けません。

(ロ) 外貨建資産への投資は行いません。

(ハ) 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

(国内債券マザーファンド(B号))

(1) 投資方針等

イ 基本方針

日本の公社債を主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。

ロ 投資態度

(イ) 主として日本の公社債に投資し、中長期的にベンチマークであるNOMURA-BPI(総合)を上回る投資成果を目指して運用を行います。

(ロ) 運用にあたっては、リスクを一定以下に抑えて収益の安定性を確保しつつ、定量的相対価値分析を駆使し、残存・セクター・銘柄間の割高割安を判断するだけでなく、ポートフォリオのデュレーションをベンチマーク対比で乖離させることにより、ベンチマークを上回る収益の獲得を目指します。

(2) 投資対象

イ 投資対象とする資産の種類

前記「2 投資方針 (2) 投資対象 イ 投資対象とする資産の種類」において記載したベ

ビーファンドが投資対象とする資産の種類に同じです。

□ 投資対象とする有価証券

前記「2 投資方針 (2) 投資対象 □ 投資対象とする有価証券」において記載したビーファンドが投資対象とする有価証券の各号のうち、主として第6号から第11号まで、第13号(株券、新株引受権証書、新株引受権証券、新株予約権証券の性質を有しないもの)に限り、)から第16号まで、第19号から第21号の有価証券(本邦通貨表示のもの)に投資します。

八 投資対象とする金融商品

前記「2 投資方針 (2) 投資対象 八 投資対象とする金融商品」において記載したビーファンドが投資対象とする金融商品に同じです。

(3) 投資制限

イ ファンドの信託約款に基づく主要な投資制限

(イ) 外貨建資産への投資は行いません。

(ロ) 国債、地方債および特別の法律により法人の発行する債券以外の債券を取得する場合は、主要格付機関のいずれかよりBBB格相当以上の格付を得ていることを条件とします。

(ハ) 上記(ロ)の債券について、いずれの格付機関の格付けもBBB格相当を下回ることとなった場合には、委託会社は、同一の発行体が発行した債券への投資割合およびBBB格相当未満の債券合計への投資割合がそれぞれ信託財産の純資産総額の5%以下および10%以下となるよう、当該債券の売却等の指図を行うものとします。

(ニ) 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

(外国株式マザーファンド(B号))

(1) 投資方針等

イ 基本方針

日本を除く世界各国の株式を主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。

ロ 投資態度

(イ) 主として日本を除く世界各国の株式に投資し、中長期的にMSCIコクサイインデックス(配当込み、円ベース)を上回る投資成果を目指して運用を行います。

(ロ) 委託会社のエコノミスト、アナリストによる綿密かつ広範囲のリサーチにより、トップダウンおよびボトムアップ双方の視点から株価に十分織り込まれていない投資材料を見極め、リスクを取ることで超過収益の獲得を目指します。

(ハ) 外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行わないものとします。

(2) 投資対象

イ 投資対象とする資産の種類

前記「2 投資方針 (2) 投資対象 イ 投資対象とする資産の種類」において記載したビーファンドが投資対象とする資産の種類に同じです。

ロ 投資対象とする有価証券

前記「2 投資方針 (2) 投資対象 ロ 投資対象とする有価証券」において記載したビーファンドが投資対象とする有価証券の各号のうち、主として第5号、第6号、第8号、第9号、第11号から第14号まで、第15号(投資法人債券を除きます。)、第16号から第22号の有価証券に投資します。

八 投資対象とする金融商品

前記「2 投資方針 (2) 投資対象 八 投資対象とする金融商品」において記載したベビーファンドが投資対象とする金融商品に同じです。

(3) 投資制限

イ ファンドの信託約款に基づく主要な投資制限

(イ) 株式への投資割合には制限を設けません。

(ロ) 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。

(ハ) 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

(外国債券マザーファンド(B号))

(1) 投資方針等

イ 基本方針

日本を除く世界各国の公社債を主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。

ロ 投資態度

(イ) 主として世界主要先進国の格付けの高い公社債（原則として欧米の主要格付機関からA格相当以上の格付けを取得しているもの）に投資し、中長期的にベンチマークであるF T S E世界国債インデックス（除く日本、円ベース）を上回る投資成果を目指して運用を行います。

(ロ) ベンチマークの動きとの連動性を維持しつつ、マクロ分析および定量分析をベースにベンチマークを上回る収益の獲得を目指します。

(ハ) 外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジを行わないものとします。

(2) 投資対象

イ 投資対象とする資産の種類

前記「2 投資方針 (2) 投資対象 イ 投資対象とする資産の種類」において記載したベビーファンドが投資対象とする資産の種類に同じです。

ロ 投資対象とする有価証券

前記「2 投資方針 (2) 投資対象 ロ 投資対象とする有価証券」において記載したベビーファンドが投資対象とする有価証券の各号のうち、主として第6号から第11号まで、第13号（株券、新株引受権証書、新株引受権証券、新株予約権証券の性質を有しないものに限り）、第14号、第15号（投資法人債券を除きます。）、第16号、および第19号から第22号までの有価証券に投資します。

八 投資対象とする金融商品

前記「2 投資方針 (2) 投資対象 八 投資対象とする金融商品」において記載したベビーファンドが投資対象とする金融商品に同じです。

(3) 投資制限

イ ファンドの信託約款に基づく主要な投資制限

(イ) 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。

(ロ) 国債以外の債券を取得する場合は、欧米の主要格付機関のいずれかよりA格相当以上の格付けを得ていることを条件とします。

(ハ) 上記(ロ)の債券について、いずれの格付機関による格付けもA格相当を下回ることとなった場合には、委託会社は、同一の発行体が発行した債券への投資割合およびA格相当未満の格

付けの債券全体への投資割合がそれぞれ信託財産の純資産総額の5%以下および10%以下となるよう、当該債券の売却等の指図を行うものとします。

- (二) 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

3【投資リスク】

イ ファンドのもつリスクの特性

当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

運用の結果として信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。

投資信託は預貯金と異なります。また、一定の投資成果を保証するものではありません。

当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。

(イ) 株式市場リスク

内外の政治、経済、社会情勢等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況、これらに対する外部的評価の変化等によって変動し、ファンドの基準価額が下落する要因となります。特に、企業が倒産や大幅な業績悪化に陥った場合、当該企業の株式の価値が大きく下落し、基準価額が大きく下落する要因となります。

(ロ) 債券市場リスク

内外の政治、経済、社会情勢等の影響により債券相場が下落(金利が上昇)した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、ファンドが保有する個々の債券については、下記「信用リスク」を負うことにもなります。

(ハ) 信用リスク

ファンドが投資している有価証券や金融商品に債務不履行が発生あるいは懸念される場合に、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。有価証券等の格付けが低い場合は、格付けの高い場合に比べてこうしたリスクがより高いものになると想定されます。

(ニ) 為替変動リスク

外貨建資産への投資は、円建資産に投資する場合の通常のリスクのほかに、為替変動による影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落(円高)する場合、円ベースでの評価額は下落することがあります。為替の変動(円高)は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

(ホ) カントリーリスク

海外に投資を行う場合には、投資する有価証券の発行者に起因するリスクのほか、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化や混乱などによって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。

(ヘ) 市場流動性リスク

ファンドの資金流出入に伴い、有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等には、必要な取引ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

(ト) ファミリーファンド方式にかかる留意点

当ファンドは「ファミリーファンド方式」により運用するため、当ファンドと同じマザーファ

ンドを投資対象とする他のベビーファンドに追加設定・一部解約により資金の流出入が生じた場合、その結果として、当該マザーファンドにおいても組入有価証券の売買等が生じ、当ファンドの基準価額に影響を及ぼすことがあります。

(チ) 換金制限等に関する留意点

ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。

これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金申込みの受け付けが中止となる可能性、既に受け付けた換金申込みが取り消しとなる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性等があります。

(リ) 収益分配金に関する留意事項

分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。



分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

ロ 投資リスクの管理体制

委託会社では、運用部門から独立した組織を設置し、運用リスク管理を行っています。

リスク管理担当部は、信託約款等に定める各種投資制限やリスク指標のモニタリングを実施し、制限に対する抵触等があった場合には運用部門に対処要請等を行い、結果をリスク管理会議へ報告します。

また、ファンドのパフォーマンスの分析・評価を行い、結果を運用評価会議等へ報告することで、運用方針等との整合性を維持するよう適切に管理しています。

さらに、流動性リスク管理について規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリングやストレステストを実施するとともに、緊急時対応策等の策定や有効性の検証等を行います。なお、当該流動性リスクの適切な管理の実施等について、定期的にはリスク管理会議へ報告します。

コンプライアンス担当部は、法令・諸規則等の遵守状況の確認等を行い、結果をコンプライアンス会議に報告します。

（参考情報）投資リスクの定量的比較

「ファンドの年間騰落率および 分配金再投資基準価額の推移」



各月末におけるファンドの1年間の騰落率と分配金再投資基準価額の推移を表示したものです。

■年金プラン30



「ファンドと他の代表的な 資産クラスとの騰落率の比較」



ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて、各月末における1年間の騰落率の平均・最大・最小を比較したものです。



■年金プラン50



※年間騰落率、分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものと仮定して計算したものです。

※分配実績がない場合は、分配金再投資基準価額は基準価額と同じです。

※ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものと仮定して計算しており、実際の基準価額をもとに計算したものと異なります。

※すべての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

「ファンドの年間騰落率および 分配金再投資基準価額の推移」

各月末におけるファンドの1年間の騰落率と分配金再投資基準価額の推移を表示したものです。

■年金プラン70



※年間騰落率、分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものと仮定して計算したものです。

※分配実績がない場合は、分配金再投資基準価額は基準価額と同じです。

「ファンドと他の代表的な 資産クラスとの騰落率の比較」

ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて、各月末における1年間の騰落率の平均・最大・最小を比較したものです。



※ファンドの騰落率は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものと仮定して計算しており、実際の基準価額をもとに計算したものと異なります。

※すべての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

各資産クラスの指数

日本株	TOPIX(配当込み) 株式会社J P X総研または株式会社J P X総研の関連会社が算出、公表する指数で、日本の株式を対象としています。
先進国株	MSCIコクサイインデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、日本を除く世界の主要先進国の株式を対象としています。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、新興国の株式を対象としています。
日本国債	NOMURA-BPI(国債) 野村證券株式会社が公表する指数で、国内で発行された公募固定利付国債を対象としています。
先進国債	FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース) FTSE Fixed Income LLCにより運営されている指数で、日本を除く世界の主要国の国債を対象としています。
新興国債	JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース) J.P. Morganが算出、公表する指数で、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象としています。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースとしています。

※上記各指数に関する知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。また、上記各指数の発行者および許諾者は、当ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

4【手数料等及び税金】

(1)【申込手数料】

ありません。

(2) 【換金（解約）手数料】

解約手数料はありません。

(3) 【信託報酬等】

純資産総額に以下の率を乗じて得た金額が、毎日信託財産の費用として計上され、ファンドの基準価額に反映されます。また、信託報酬は、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日と各計算期末または信託終了のときに、信託財産中から支弁するものとします。

各ファンドの信託報酬率および配分は以下の通りです。

< 信託報酬率およびその配分 >

	信託報酬率	配分（税抜き）		
		委託会社	販売会社	受託会社
年金プラン30	年0.99% （税抜き0.9%）	年0.43%	年0.39%	年0.08%
年金プラン50	年1.21% （税抜き1.1%）	年0.53%	年0.49%	年0.08%
年金プラン70	年1.43% （税抜き1.3%）	年0.63%	年0.59%	年0.08%

上記の配分には別途消費税等相当額がかかります。

支払先	役務の内容
委託会社	ファンドの運用およびそれに伴う調査、受託会社への指図、基準価額の算出、法定書面等の作成等の対価
販売会社	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
受託会社	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの指図の実行等の対価

(4) 【その他の手数料等】

- イ 信託財産の財務諸表の監査に要する費用は、原則として、「年金プラン30」は年292,600円（税抜き266,000円）を上限として、「年金プラン50」は年400,400円（税抜き364,000円）を上限として、「年金プラン70」は年468,600円（税抜き426,000円）を上限として、日割りした金額が信託財産の費用として計上され、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日と各計算期末または信託終了のときに、信託財産中から支弁するものとします。監査費用は、将来、監査法人との契約等により変更となることがあります。
- ロ 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託会社の立て替えた立替金の利息は、信託財産中から支弁します。
- ハ 有価証券の売買時の手数料、デリバティブ取引等に要する費用、および外国における資産の保管等に要する費用等（それらにかかる消費税等相当額を含みます。）は、信託財産中から支弁するものとします。

上記ロ、ハにかかる費用に関しましては、その時々取引内容等により金額が決定し、実務上、その発生もしくは請求のつど、信託財産の費用として認識され、その時点の信託財産で負担することとなります。したがって、あらかじめ、その金額、上限額、計算方法等を具体的に記載することはできません。

上記(1)～(4)にかかる手数料等の合計額、その上限額、計算方法等は、手数料等に保有期間に応じて異なるものが含まれていたり、発生時・請求時に初めて具体的な金額を認識するものがあつたりすることから、あらかじめ具体的に記載することはできません。

(5) 【課税上の取扱い】

イ 個別元本について

(イ) 追加型株式投資信託について、受益者毎の信託時の受益権の価額等（申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等相当額は含まれません。）が当該受益者の元本（個別元本）にあたります。

(ロ) 受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。ただし、同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合には、各販売会社毎に個別元本の算出が行われます。また、同一販売会社であっても同一受益者の顧客口座が複数存在する場合や、「分配金受取りコース」と「分配金自動再投資コース」を併用するファンドの場合には、別々に個別元本の算出が行われることがあります。

(ハ) 受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。（「元本払戻金（特別分配金）」については、下記の（収益分配金の課税について）を参照。）

ロ 一部解約時および償還時の課税について

個人の受益者については、一部解約時および償還時の譲渡益が課税対象となり、法人の受益者については、一部解約時および償還時の個別元本超過額が課税対象となります。

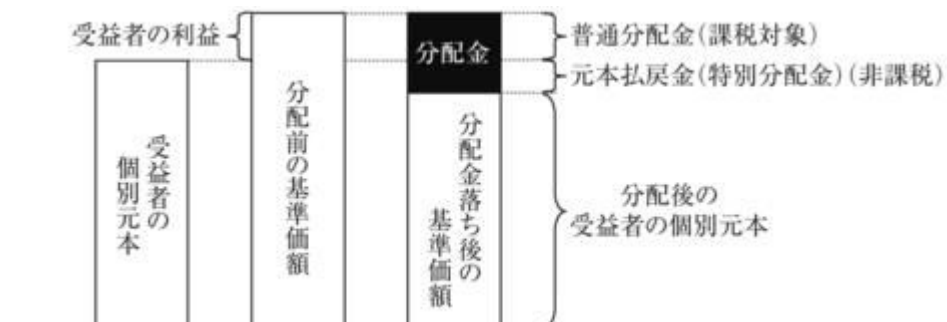
ハ 収益分配金の課税について

追加型株式投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」（受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分）の区分があります。

収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となります。



収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、当該収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。なお、受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。



上記の図はあくまでもイメージ図であり、個別元本や基準価額、分配金の各水準等を示唆するものではありません。

二 個人、法人別の課税の取扱いについて

(イ) 個人の受益者に対する課税

・ 収益分配時

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については、20.315%（所得税15.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行われ、申告不要制度が適用されます。確定申告による総合課税または申告分離課税の選択も可能です。

・ 一部解約時および償還時

一部解約時および償還時の譲渡益については、20.315%（所得税15.315%および地方税5%）の税率による申告分離課税が適用されます。ただし、特定口座（源泉徴収選択口座）の利用も可能です。

また、一部解約時および償還時の損失については、確定申告により、上場株式等（上場株式、公募株式投資信託、上場投資信託（ETF）、上場不動産投資信託（REIT）、公募公社債投資信託および特定公社債をいいます。以下同じ。）の譲渡益ならびに上場株式等の配当所得（申告分離課税を選択したものに限り）および利子所得の金額との損益通算が可能です。

(ロ) 法人の受益者に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに一部解約時および償還時の個別元本超過額については、15.315%（所得税のみ）の税率で源泉徴収されます。

当ファンドは、課税上は株式投資信託として取り扱われます。

なお、当ファンドは、配当控除および益金不算入制度の適用はありません。

外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

受益者が確定拠出年金法に規定する資産管理機関および国民年金基金連合会等の場合は、所得税および地方税がかかりません。なお、確定拠出年金制度の加入者については、確定拠出年金の積立金の運用にかかる税制が適用されます。

課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家に確認されることをお勧めいたします。

公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」、未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA（ニーサ）」の適用対象です。ただし、販売会社によっては当ファンドをNISA、ジュニアNISAでの取扱い対象としない場合があります。

※NISA、ジュニアNISAをご利用になる場合、各制度の違いにご留意ください。
また、販売会社での専用口座の開設等、一定の要件があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

	少額投資非課税制度 NISA	未成年者少額投資非課税制度 ジュニアNISA
対象となる投資信託	公募株式投資信託	
非課税対象	公募株式投資信託から生じる配当所得および譲渡所得	
利用対象となる方	20歳以上*1の日本居住者 (専用口座が開設される年の1月1日現在)	0~19歳*1の日本居住者 (専用口座が開設される年の1月1日現在)
非課税の期間	最長5年間(新規の購入は2023年まで)*2	
利用できる限度額	120万円/年 (最大600万円)	80万円/年 (最大400万円)

*1 2023年は成年年齢の引下げにより、NISAは18歳以上、ジュニアNISAは0~17歳になる予定です。
*2 2024年以降、NISA制度が見直しされます。また、ジュニアNISAで新規の購入ができなくなります。

上記「(5)課税上の取扱い」ほか税制に関する本書の記載は、2022年9月末現在の情報をもとに作成しています。税法の改正等により、変更されることがあります。

5【運用状況】

(1)【投資状況】

三井住友・年金プラン30

2022年9月30日現在

資産の種類	国/地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
親投資信託受益証券	日本	2,275,651,407	99.66
現金・預金・その他の資産(負債控除後)	-	7,750,788	0.34
合計(純資産総額)		2,283,402,195	100.00

(注)投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。以下同じ。

三井住友・年金プラン50

2022年9月30日現在

資産の種類	国/地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
親投資信託受益証券	日本	3,222,155,907	99.70
現金・預金・その他の資産(負債控除後)	-	9,544,844	0.30
合計(純資産総額)		3,231,700,751	100.00

三井住友・年金プラン70

2022年9月30日現在

資産の種類	国/地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
親投資信託受益証券	日本	2,312,732,299	99.69
現金・預金・その他の資産(負債控除後)	-	7,125,429	0.31
合計(純資産総額)		2,319,857,728	100.00

(2)【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

三井住友・年金プラン30

イ 主要投資銘柄

2022年9月30日現在

国/ 地域	種類	銘柄名	数量	帳簿単価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	投資 比率 (%)
日本	親投資 信託受 益証券	国内債券マザー ファンド(B 号)	993,086,331	1.4114	1,401,615,589	1.3773	1,367,777,803	59.90
日本	親投資 信託受 益証券	国内株式マザー ファンド(B 号)	246,737,235	1.7755	438,084,560	1.7971	443,411,485	19.42
日本	親投資 信託受 益証券	外国株式マザー ファンド(B 号)	70,630,416	3.4015	240,248,783	3.4050	240,496,566	10.53
日本	親投資 信託受 益証券	外国債券マザー ファンド(B 号)	75,123,454	2.8818	216,488,757	2.9813	223,965,553	9.81

以上が、当ファンドが保有する有価証券のすべてです。

ロ 種類別投資比率

2022年9月30日現在

種類	投資比率(%)
親投資信託受益証券	99.66
合計	99.66

三井住友・年金プラン50

イ 主要投資銘柄

2022年9月30日現在

国/ 地域	種類	銘柄名	数量	帳簿単価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	投資 比率 (%)
日本	親投資 信託受 益証券	国内債券マザー ファンド(B 号)	944,082,547	1.4104	1,331,528,214	1.3773	1,300,284,891	40.24
日本	親投資 信託受 益証券	国内株式マザー ファンド(B 号)	577,974,698	1.7727	1,024,588,873	1.7971	1,038,678,329	32.14
日本	親投資 信託受 益証券	外国株式マザー ファンド(B 号)	164,514,566	3.3641	553,448,553	3.4050	560,172,097	17.33
日本	親投資 信託受 益証券	外国債券マザー ファンド(B 号)	108,348,905	2.8803	312,080,936	2.9813	323,020,590	10.00

以上が、当ファンドが保有する有価証券のすべてです。

ロ 種類別投資比率

2022年9月30日現在

種類	投資比率(%)
親投資信託受益証券	99.70
合計	99.70

三井住友・年金プラン70

イ 主要投資銘柄

2022年9月30日現在

国/ 地域	種類	銘柄名	数量	帳簿単価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	投資 比率 (%)
日本	親投資 信託受 益証券	国内株式マザー ファンド（B 号）	598,413,915	1.7740	1,061,608,344	1.7971	1,075,409,646	46.36
日本	親投資 信託受 益証券	外国株式マザー ファンド（B 号）	160,736,761	3.3631	540,579,920	3.4050	547,308,671	23.59
日本	親投資 信託受 益証券	国内債券マザー ファンド（B 号）	330,938,947	1.4091	466,331,590	1.3773	455,802,211	19.65
日本	親投資 信託受 益証券	外国債券マザー ファンド（B 号）	78,560,283	2.8827	226,462,530	2.9813	234,211,771	10.10

以上が、当ファンドが保有する有価証券のすべてです。

ロ 種類別投資比率

2022年9月30日現在

種類	投資比率（%）
親投資信託受益証券	99.69
合計	99.69

【投資不動産物件】

三井住友・年金プラン30

該当事項はありません。

三井住友・年金プラン50

該当事項はありません。

三井住友・年金プラン70

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

三井住友・年金プラン30

該当事項はありません。

三井住友・年金プラン50

該当事項はありません。

三井住友・年金プラン70

該当事項はありません。

(3)【運用実績】

【純資産の推移】

三井住友・年金プラン30

年月日	純資産総額 (円)		1万口当たりの 純資産額(円)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第13期 (2013年 3月 6日)	1,515,025,944	1,515,025,944	11,218	11,218
第14期 (2014年 3月 6日)	1,536,378,137	1,536,378,137	12,317	12,317
第15期 (2015年 3月 6日)	1,755,560,244	1,755,560,244	13,557	13,557
第16期 (2016年 3月 7日)	1,771,671,925	1,771,671,925	13,396	13,396
第17期 (2017年 3月 6日)	1,848,362,284	1,848,362,284	13,871	13,871
第18期 (2018年 3月 6日)	2,013,799,098	2,013,799,098	14,403	14,403
第19期 (2019年 3月 6日)	2,045,258,288	2,045,258,288	14,318	14,318
第20期 (2020年 3月 6日)	2,039,129,760	2,039,129,760	14,302	14,302
第21期 (2021年 3月 8日)	2,211,437,934	2,211,437,934	15,355	15,355
第22期 (2022年 3月 7日)	2,265,638,262	2,265,638,262	15,555	15,555
2021年 9月末日	2,357,342,570	-	16,197	-
10月末日	2,386,709,860	-	16,399	-
11月末日	2,379,692,880	-	16,354	-
12月末日	2,387,286,912	-	16,446	-
2022年 1月末日	2,295,426,988	-	15,827	-
2月末日	2,281,344,943	-	15,713	-
3月末日	2,347,577,737	-	16,102	-
4月末日	2,306,198,312	-	15,835	-
5月末日	2,313,019,864	-	15,860	-
6月末日	2,290,800,211	-	15,622	-
7月末日	2,323,807,584	-	15,843	-
8月末日	2,329,828,375	-	15,801	-
9月末日	2,283,402,195	-	15,384	-

三井住友・年金プラン50

年月日	純資産総額 (円)	1万口当たりの 純資産額(円)
-----	--------------	--------------------

	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第13期 (2013年 3月 6日)	3,819,896,918	3,819,896,918	10,345	10,345
第14期 (2014年 3月 6日)	3,327,825,014	3,327,825,014	11,822	11,822
第15期 (2015年 3月 6日)	3,031,228,978	3,031,228,978	13,524	13,524
第16期 (2016年 3月 7日)	2,222,369,862	2,222,369,862	12,906	12,906
第17期 (2017年 3月 6日)	2,410,905,640	2,410,905,640	13,765	13,765
第18期 (2018年 3月 6日)	2,697,594,506	2,697,594,506	14,614	14,614
第19期 (2019年 3月 6日)	2,644,535,736	2,644,535,736	14,415	14,415
第20期 (2020年 3月 6日)	2,682,091,075	2,682,091,075	14,229	14,229
第21期 (2021年 3月 8日)	3,120,984,816	3,120,984,816	16,188	16,188
第22期 (2022年 3月 7日)	3,223,119,892	3,223,119,892	16,578	16,578
2021年 9月末日	3,392,290,323	-	17,595	-
10月末日	3,457,973,255	-	17,937	-
11月末日	3,440,868,823	-	17,844	-
12月末日	3,477,023,695	-	18,026	-
2022年 1月末日	3,291,227,561	-	17,037	-
2月末日	3,269,582,768	-	16,898	-
3月末日	3,418,129,761	-	17,580	-
4月末日	3,331,696,835	-	17,132	-
5月末日	3,349,333,201	-	17,209	-
6月末日	3,279,807,844	-	16,859	-
7月末日	3,343,363,463	-	17,201	-
8月末日	3,351,615,194	-	17,166	-
9月末日	3,231,700,751	-	16,540	-

三井住友・年金プラン70

年月日	純資産総額 (円)		1万口当たりの 純資産額(円)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第13期 (2013年 3月 6日)	5,214,552,207	5,214,552,207	9,250	9,250
第14期 (2014年 3月 6日)	4,455,471,559	4,455,471,559	11,040	11,040
第15期 (2015年 3月 6日)	3,266,521,001	3,266,521,001	13,113	13,113
第16期 (2016年 3月 7日)	1,434,685,152	1,434,685,152	12,019	12,019
第17期 (2017年 3月 6日)	1,597,214,751	1,597,214,751	13,186	13,186
第18期 (2018年 3月 6日)	1,733,343,983	1,733,343,983	14,312	14,312
第19期 (2019年 3月 6日)	1,707,541,506	1,707,541,506	13,964	13,964
第20期 (2020年 3月 6日)	1,648,696,631	1,648,696,631	13,596	13,596
第21期 (2021年 3月 8日)	2,067,684,136	2,067,684,136	16,368	16,368
第22期 (2022年 3月 7日)	2,233,608,860	2,233,608,860	16,904	16,904
2021年 9月末日	2,405,950,979	-	18,306	-
10月末日	2,450,924,665	-	18,775	-
11月末日	2,438,821,128	-	18,620	-
12月末日	2,487,638,243	-	18,902	-
2022年 1月末日	2,316,635,373	-	17,550	-

2月末日	2,287,044,421	-	17,389	-
3月末日	2,441,224,318	-	18,351	-
4月末日	2,363,673,085	-	17,728	-
5月末日	2,396,137,574	-	17,859	-
6月末日	2,363,556,245	-	17,392	-
7月末日	2,414,098,321	-	17,845	-
8月末日	2,424,996,940	-	17,826	-
9月末日	2,319,857,728	-	16,990	-

【分配の推移】

三井住友・年金プラン30

	計算期間	1万口当たり分配金(円)
第13期	2012年 3月 7日～2013年 3月 6日	0
第14期	2013年 3月 7日～2014年 3月 6日	0
第15期	2014年 3月 7日～2015年 3月 6日	0
第16期	2015年 3月 7日～2016年 3月 7日	0
第17期	2016年 3月 8日～2017年 3月 6日	0
第18期	2017年 3月 7日～2018年 3月 6日	0
第19期	2018年 3月 7日～2019年 3月 6日	0
第20期	2019年 3月 7日～2020年 3月 6日	0
第21期	2020年 3月 7日～2021年 3月 8日	0
第22期	2021年 3月 9日～2022年 3月 7日	0

三井住友・年金プラン50

	計算期間	1万口当たり分配金(円)
第13期	2012年 3月 7日～2013年 3月 6日	0
第14期	2013年 3月 7日～2014年 3月 6日	0
第15期	2014年 3月 7日～2015年 3月 6日	0
第16期	2015年 3月 7日～2016年 3月 7日	0
第17期	2016年 3月 8日～2017年 3月 6日	0
第18期	2017年 3月 7日～2018年 3月 6日	0
第19期	2018年 3月 7日～2019年 3月 6日	0
第20期	2019年 3月 7日～2020年 3月 6日	0
第21期	2020年 3月 7日～2021年 3月 8日	0
第22期	2021年 3月 9日～2022年 3月 7日	0

三井住友・年金プラン70

	計算期間	1万口当たり分配金(円)
第13期	2012年 3月 7日～2013年 3月 6日	0
第14期	2013年 3月 7日～2014年 3月 6日	0

第15期	2014年 3月 7日 ~ 2015年 3月 6日	0
第16期	2015年 3月 7日 ~ 2016年 3月 7日	0
第17期	2016年 3月 8日 ~ 2017年 3月 6日	0
第18期	2017年 3月 7日 ~ 2018年 3月 6日	0
第19期	2018年 3月 7日 ~ 2019年 3月 6日	0
第20期	2019年 3月 7日 ~ 2020年 3月 6日	0
第21期	2020年 3月 7日 ~ 2021年 3月 8日	0
第22期	2021年 3月 9日 ~ 2022年 3月 7日	0

【収益率の推移】

三井住友・年金プラン30

	収益率(%)
第13期	10.0
第14期	9.8
第15期	10.1
第16期	1.2
第17期	3.5
第18期	3.8
第19期	0.6
第20期	0.1
第21期	7.4
第22期	1.3
第23期(中間期)	1.0

(注) 収益率とは、計算期間末の分配基準価額から前期末分配基準価額を控除した額を前期末分配基準価額で除したものをいいます。

三井住友・年金プラン50

	収益率(%)
第13期	14.1
第14期	14.3
第15期	14.4
第16期	4.6
第17期	6.7
第18期	6.2
第19期	1.4
第20期	1.3
第21期	13.8
第22期	2.4
第23期(中間期)	2.9

(注) 収益率とは、計算期間末の分配基準価額から前期末分配基準価額を控除した額を前期末分配基準価額で除したものをいいます。

三井住友・年金プラン70

	収益率（％）
第13期	18.2
第14期	19.4
第15期	18.8
第16期	8.3
第17期	9.7
第18期	8.5
第19期	2.4
第20期	2.6
第21期	20.4
第22期	3.3
第23期（中間期）	4.6

（注）収益率とは、計算期間末の分配付基準価額から前期末分配落基準価額を控除した額を前期末分配落基準価額で除したものをいいます。

（４）【設定及び解約の実績】

三井住友・年金プラン30

	設定口数（口）	解約口数（口）
第13期	158,135,004	631,074,206
第14期	154,154,301	257,418,645
第15期	135,775,532	88,174,227
第16期	139,005,178	111,404,298
第17期	134,352,032	124,342,221
第18期	211,907,256	146,227,254
第19期	148,009,301	117,745,944
第20期	135,308,032	138,025,610
第21期	161,597,974	147,157,429
第22期	135,591,974	119,287,361
第23期（中間期）	51,249,649	34,728,261

（注）本邦外における設定および解約の実績はありません。

三井住友・年金プラン50

	設定口数（口）	解約口数（口）
第13期	209,134,099	1,544,242,649
第14期	208,281,621	1,086,089,579
第15期	188,224,326	761,765,452
第16期	181,030,436	700,309,817
第17期	170,208,563	140,776,156
第18期	264,952,249	170,517,137
第19期	181,101,223	192,379,447

第20期	194,619,894	144,297,119
第21期	190,066,722	147,051,653
第22期	171,922,270	155,652,247
第23期（中間期）	84,881,539	78,669,226

（注）本邦外における設定および解約の実績はありません。

三井住友・年金プラン70

	設定口数（口）	解約口数（口）
第13期	151,638,301	124,501,690
第14期	171,481,324	1,772,977,715
第15期	156,359,561	1,701,082,298
第16期	181,433,346	1,478,689,093
第17期	128,930,035	111,309,327
第18期	175,808,339	176,059,296
第19期	161,036,886	149,273,454
第20期	133,177,029	143,348,079
第21期	177,352,090	126,755,683
第22期	188,973,127	130,912,464
第23期（中間期）	88,853,676	51,036,738

（注）本邦外における設定および解約の実績はありません。

（参考）

（1）投資状況

国内株式マザーファンド（B号）

2022年9月30日現在

資産の種類	国/地域	時価合計 （円）	投資比率 （%）
株式	日本	2,496,283,230	97.61
現金・預金・その他の資産（負債控除後）	-	61,236,541	2.39
合計（純資産総額）		2,557,519,771	100.00

国内債券マザーファンド（B号）

2022年9月30日現在

資産の種類	国/地域	時価合計 （円）	投資比率 （%）
国債証券	日本	211,580,994,044	78.69
地方債証券	日本	5,845,263,400	2.17
特殊債券	日本	15,024,709,071	5.59
社債券	日本	33,542,264,900	12.47
	アメリカ	1,269,432,000	0.47
	小計	34,811,696,900	12.95
現金・預金・その他の資産（負債控除後）	-	1,616,081,097	0.60
合計（純資産総額）		268,878,744,512	100.00

外国株式マザーファンド（B号）

2022年9月30日現在

資産の種類	国 / 地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
株式	アメリカ	1,010,207,744	74.94
	フランス	81,373,964	6.04
	スイス	44,615,756	3.31
	アイルランド	38,320,392	2.84
	イギリス	35,468,980	2.63
	香港	34,826,681	2.58
	オランダ	22,836,311	1.69
	オーストリア	12,275,339	0.91
	スペイン	10,139,164	0.75
	ジャージー	6,360,880	0.47
	ドイツ	4,780,739	0.35
	小計		1,301,205,950
現金・預金・その他の資産（負債控除後）	-	46,760,224	3.47
合計（純資産総額）		1,347,966,174	100.00

外国債券マザーファンド（B号）

2022年9月30日現在

資産の種類	国 / 地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
国債証券	アメリカ	429,943,525	52.27
	スペイン	174,991,498	21.27
	フランス	64,610,298	7.85
	イギリス	29,767,129	3.62
	ドイツ	22,268,454	2.71
	中国	14,661,970	1.78
	オランダ	14,123,153	1.72
	カナダ	10,135,312	1.23
	オーストラリア	9,781,993	1.19
	シンガポール	6,807,468	0.83
	ベルギー	6,470,834	0.79
	イスラエル	3,836,382	0.47
	ポーランド	2,661,668	0.32
	スウェーデン	2,075,569	0.25
	ノルウェー	1,624,759	0.20
小計		793,760,012	96.50
地方債証券	カナダ	4,654,406	0.57
現金・預金・その他の資産（負債控除後）	-	24,126,345	2.93
合計（純資産総額）		822,540,763	100.00

その他以下の取引を行っております。

種類	買建 / 売建	国 / 地域	時価合計（円）	投資比率 (%)

為替予約取引	買建	-	73,942,156	8.99
為替予約取引	売建	-	71,497,933	8.69

(2) 投資資産

投資有価証券の主要銘柄

国内株式マザーファンド(B号)

イ 主要投資銘柄(上位30銘柄)

2022年9月30日現在

国/ 地域	種類	銘柄名	業種	数量	帳簿単価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	投資 比率 (%)
日本	株式	トヨタ自動車	輸送用機器	51,700	1,892.00	97,816,633	1,876.00	96,989,200	3.79
日本	株式	日本電信電話	情報・通信業	21,700	3,441.63	74,683,453	3,906.00	84,760,200	3.31
日本	株式	ソニーグループ	電気機器	7,100	11,096.76	78,786,985	9,286.00	65,930,600	2.58
日本	株式	日立製作所	電気機器	9,400	5,545.42	52,126,938	6,114.00	57,471,600	2.25
日本	株式	三菱UFJ フィナンシャル・グループ	銀行業	84,300	688.00	57,998,086	651.50	54,921,450	2.15
日本	株式	ダイキン工業	機械	2,400	19,916.94	47,800,657	22,295.00	53,508,000	2.09
日本	株式	伊藤忠商事	卸売業	15,200	3,937.99	59,857,510	3,501.00	53,215,200	2.08
日本	株式	任天堂	その他製品	9,000	5,722.00	51,498,000	5,854.00	52,686,000	2.06
日本	株式	京阪ホールディングス	陸運業	13,800	3,167.70	43,714,202	3,755.00	51,819,000	2.03
日本	株式	三井住友トラ スト・ホールディングス	銀行業	12,500	4,036.54	50,456,761	4,099.00	51,237,500	2.00
日本	株式	第一三共	医薬品	11,400	2,905.37	33,121,204	4,042.00	46,078,800	1.80
日本	株式	武田薬品工業	医薬品	11,900	3,933.36	46,806,950	3,767.00	44,827,300	1.75
日本	株式	東京海上ホールディングス	保険業	17,400	2,179.44	37,922,232	2,565.00	44,631,000	1.75
日本	株式	りそなホールディングス	銀行業	84,000	548.58	46,080,864	528.00	44,352,000	1.73
日本	株式	ライオン	化学	25,500	1,496.84	38,169,406	1,636.00	41,718,000	1.63
日本	株式	オリエンタルランド	サービス業	2,100	20,938.06	43,969,933	19,705.00	41,380,500	1.62
日本	株式	デンソー	輸送用機器	6,200	7,052.23	43,723,801	6,586.00	40,833,200	1.60
日本	株式	日清食品ホールディングス	食料品	3,900	8,620.57	33,620,204	10,070.00	39,273,000	1.54
日本	株式	キーエンス	電気機器	800	51,935.71	41,548,570	47,900.00	38,320,000	1.50
日本	株式	東海旅客鉄道	陸運業	2,200	15,420.18	33,924,405	16,935.00	37,257,000	1.46
日本	株式	スズキ	輸送用機器	8,200	4,784.22	39,230,642	4,481.00	36,744,200	1.44
日本	株式	富士電機	電気機器	6,900	5,424.28	37,427,498	5,290.00	36,501,000	1.43
日本	株式	インターネット イニシアティブ	情報・通信業	16,200	1,935.71	31,358,556	2,221.00	35,980,200	1.41

日本	株式	サントリー食品インターナショナル	食料品	6,500	4,658.09	30,277,584	5,130.00	33,345,000	1.30
日本	株式	S U B A R U	輸送用機器	15,300	2,014.62	30,823,753	2,167.00	33,155,100	1.30
日本	株式	テルモ	精密機器	7,800	4,298.72	33,529,992	4,074.00	31,777,200	1.24
日本	株式	アステラス製薬	医薬品	16,500	1,895.89	31,282,192	1,917.00	31,630,500	1.24
日本	株式	ファーストリテイリング	小売業	400	69,752.42	27,900,966	76,710.00	30,684,000	1.20
日本	株式	ユニ・チャーム	化学	6,300	4,370.51	27,534,187	4,750.00	29,925,000	1.17
日本	株式	第一生命ホールディングス	保険業	13,000	2,258.41	29,359,355	2,292.00	29,796,000	1.17

□ 種類別・業種別投資比率

2022年9月30日現在

種類	業種	投資比率（％）
株式（国内）	鉱業	0.71
	建設業	1.89
	食料品	4.33
	化学	6.41
	医薬品	6.40
	石油・石炭製品	0.55
	ゴム製品	0.44
	鉄鋼	0.68
	非鉄金属	1.04
	金属製品	0.86
	機械	5.59
	電気機器	15.45
	輸送用機器	10.47
	精密機器	2.10
	その他製品	2.26
	電気・ガス業	0.38
	陸運業	4.63
	海運業	0.41
	空運業	1.06
	情報・通信業	9.96
	卸売業	4.06
小売業	2.15	
銀行業	5.89	
証券、商品先物取引業	0.80	
保険業	2.91	
その他金融業	1.07	
不動産業	2.12	
サービス業	3.00	
合 計		97.61

国内債券マザーファンド(B号)

イ 主要投資銘柄(上位30銘柄)

2022年9月30日現在

国/ 地域	種類	銘柄名	数量	帳簿単 価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	利率 (%)	償還期限	投資 比率 (%)
日本	国債 証券	4 3 9 2年国債	16,350,000,000	100.18	16,380,066,000	100.11	16,367,821,500	0.005	2024/08/01	6.09
日本	国債 証券	3 5 7 10年国 債	13,500,000,000	99.42	13,422,037,000	99.18	13,389,705,000	0.100	2029/12/20	4.98
日本	国債 証券	1 5 0 5年国債	10,800,000,000	100.02	10,802,160,000	99.94	10,793,088,000	0.005	2026/12/20	4.01
日本	国債 証券	1 5 3 5年国債	9,650,000,000	99.84	9,634,192,500	99.72	9,622,787,000	0.005	2027/06/20	3.58
日本	国債 証券	4 3 8 2年国債	8,350,000,000	100.15	8,362,788,000	100.10	8,358,684,000	0.005	2024/07/01	3.11
日本	国債 証券	1 4 0 20年国 債	7,200,000,000	114.40	8,237,058,000	113.60	8,179,200,000	1.700	2032/09/20	3.04
日本	国債 証券	3 5 4 10年国 債	8,050,000,000	100.46	8,087,187,000	99.62	8,019,088,000	0.100	2029/03/20	2.98
日本	国債 証券	4 4 0 2年国債	7,750,000,000	100.14	7,760,859,500	100.11	7,758,137,500	0.005	2024/09/01	2.89
日本	国債 証券	3 6 3 10年国 債	7,600,000,000	99.19	7,538,437,000	98.47	7,483,644,000	0.100	2031/06/20	2.78
日本	国債 証券	4 3 7 2年国債	7,170,000,000	100.16	7,181,424,000	100.11	7,177,743,600	0.005	2024/06/01	2.67
日本	国債 証券	1 4 7 20年国 債	5,940,000,000	114.61	6,808,007,600	112.82	6,701,389,200	1.600	2033/12/20	2.49
日本	国債 証券	7 5 3 0年国債	6,250,000,000	99.30	6,206,123,000	98.11	6,131,687,500	1.300	2052/06/20	2.28
日本	国債 証券	3 5 3 10年国 債	6,000,000,000	100.44	6,026,609,000	99.72	5,983,320,000	0.100	2028/12/20	2.23
日本	国債 証券	1 7 5 20年国 債	6,450,000,000	95.87	6,183,565,000	92.65	5,976,118,500	0.500	2040/12/20	2.22
日本	国債 証券	1 7 0 20年国 債	6,150,000,000	94.61	5,818,476,500	91.17	5,606,893,500	0.300	2039/09/20	2.09
日本	国債 証券	4 8 3 0年国債	4,270,000,000	113.43	4,843,393,100	105.11	4,488,367,800	1.400	2045/09/20	1.67
日本	国債 証券	1 7 3 20年国 債	4,750,000,000	93.21	4,427,245,000	91.66	4,353,897,500	0.400	2040/06/20	1.62
日本	国債 証券	1 4 9 20年国 債	3,810,000,000	114.63	4,367,498,100	111.74	4,257,446,400	1.500	2034/06/20	1.58

日本	国債証券	165 20年国債	3,850,000,000	100.34	3,862,969,500	95.88	3,691,341,500	0.500	2038/06/20	1.37
日本	国債証券	453 0年国債	3,250,000,000	116.71	3,792,974,500	107.62	3,497,650,000	1.500	2044/12/20	1.30
日本	国債証券	167 20年国債	3,630,000,000	98.88	3,589,458,000	95.28	3,458,809,200	0.500	2038/12/20	1.29
日本	国債証券	703 0年国債	3,800,000,000	91.98	3,495,400,000	84.72	3,219,322,000	0.700	2051/03/20	1.20
日本	国債証券	673 0年国債	3,680,000,000	94.52	3,478,470,800	83.03	3,055,577,600	0.600	2050/06/20	1.14
日本	国債証券	145 20年国債	2,660,000,000	116.42	3,096,772,000	113.82	3,027,638,600	1.700	2033/06/20	1.13
日本	国債証券	358 10年国債	2,870,000,000	100.27	2,877,739,000	98.97	2,840,525,100	0.100	2030/03/20	1.06
日本	国債証券	149 5年国債	2,750,000,000	100.11	2,753,025,000	100.00	2,750,000,000	0.005	2026/09/20	1.02
日本	国債証券	743 0年国債	2,920,000,000	94.63	2,763,289,400	91.18	2,662,485,200	1.000	2052/03/20	0.99
日本	国債証券	151 5年国債	2,600,000,000	99.96	2,599,001,000	99.87	2,596,516,000	0.005	2027/03/20	0.97
日本	国債証券	164 20年国債	2,510,000,000	100.59	2,524,809,000	96.20	2,414,695,300	0.500	2038/03/20	0.90
日本	国債証券	154 20年国債	2,160,000,000	110.81	2,393,593,200	107.87	2,329,884,000	1.200	2035/09/20	0.87

□ 種類別投資比率

2022年9月30日現在

種類	投資比率（％）
国債証券	78.69
地方債証券	2.17
特殊債券	5.59
社債券	12.95
合計	99.40

外国株式マザーファンド（B号）

イ 主要投資銘柄（上位30銘柄）

2022年9月30日現在

国/地域	種類	銘柄名	業種	数量	帳簿単価 （円）	帳簿価額 （円）	評価額 単価 （円）	評価額 （円）	投資 比率 （％）
アメリカ	株式	ALPHABET INC-CL A	メディア ・ 娯楽	4,327	18,673.32	80,799,457	14,107.39	61,042,677	4.53
アメリカ	株式	MICROSOFT CORP	ソフト ウェア・ サービス	1,234	40,848.71	50,407,302	34,392.38	42,440,190	3.15

アメリカ	株式	EOG RESOURCES INC	エネル ギー	1,959	17,239.64	33,772,459	16,359.19	32,047,644	2.38
アメリカ	株式	FORTINET INC	ソフト ウェア・ サービス	4,106	9,361.70	38,439,128	7,186.92	29,509,494	2.19
アメリカ	株式	NVIDIA CORP	半導体・ 半導体製 造装置	1,611	31,968.37	51,501,050	17,695.78	28,507,904	2.11
アメリカ	株式	THERMO FISHER SCIENTIFIC INC	医薬品・ バイオテ クノロ ジー・ラ イフサイ エンス	369	79,756.74	29,430,237	74,810.29	27,604,998	2.05
アメリカ	株式	ENPHASE ENERGY INC	半導体・ 半導体製 造装置	684	25,643.99	17,540,489	40,234.01	27,520,063	2.04
アメリカ	株式	ELI LILLY & CO	医薬品・ バイオテ クノロ ジー・ラ イフサイ エンス	566	39,335.25	22,263,752	47,788.75	27,048,431	2.01
アメリカ	株式	HOME DEPOT INC	小売	651	46,138.22	30,035,979	40,304.97	26,238,533	1.95
アメリカ	株式	VISA INC-CLASS A SHARES	ソフト ウェア・ サービス	939	29,177.56	27,397,730	26,074.49	24,483,944	1.82
アイルラ ンド	株式	ACCENTURE PLC- CL A	ソフト ウェア・ サービス	652	45,014.73	29,349,605	37,400.08	24,384,851	1.81
イギリス	株式	ASTRAZENECA PLC	医薬品・ バイオテ クノロ ジー・ラ イフサイ エンス	1,369	14,686.60	20,105,948	16,063.65	21,991,133	1.63
アメリカ	株式	COSTCO WHOLESALE CORP	食品・生 活必需品 小売り	317	76,281.91	24,181,364	69,361.09	21,987,466	1.63
アメリカ	株式	INTUIT INC	ソフト ウェア・ サービス	382	66,750.85	25,498,825	57,462.06	21,950,505	1.63
アメリカ	株式	SYNOPSYS INC	ソフト ウェア・ サービス	474	45,317.81	21,480,640	44,778.15	21,224,842	1.57
アメリカ	株式	KEYSIGHT TECHNOLOGIES IN	テクノロ ジー・ ハード ウェアお よび機器	860	22,174.21	19,069,824	22,998.72	19,778,902	1.47
アメリカ	株式	UNITEDHEALTH GROUP INC	ヘルスケ ア機器・ サービス	267	72,731.97	19,419,435	73,683.67	19,673,540	1.46

アメリカ	株式	STRYKER CORP	ヘルスケア機器・サービス	631	37,691.75	23,783,493	29,755.56	18,775,757	1.39
アメリカ	株式	ENTEGRIS INC	半導体・半導体製造装置	1,474	16,545.96	24,388,745	12,721.56	18,751,577	1.39
アメリカ	株式	LPL FINANCIAL HOLDINGS INC	各種金融	587	23,834.89	13,991,083	31,347.02	18,400,701	1.37
アメリカ	株式	SERVICENOW INC	ソフトウェア・サービス	327	77,272.14	25,267,991	55,824.26	18,254,531	1.35
アメリカ	株式	ANSYS INC	ソフトウェア・サービス	545	43,873.86	23,911,255	32,948.62	17,956,997	1.33
アメリカ	株式	JPMORGAN CHASE & CO	銀行	1,163	19,157.74	22,280,449	15,373.03	17,878,833	1.33
アメリカ	株式	IQVIA HOLDINGS INC	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	662	32,705.99	21,651,362	26,298.94	17,409,900	1.29
アメリカ	株式	AVERY DENNISON CORP	素材	720	24,726.04	17,802,751	23,690.92	17,057,459	1.27
アメリカ	株式	ROCKWELL AUTOMATION INC	資本財	545	38,471.77	20,967,115	31,247.10	17,029,670	1.26
アメリカ	株式	ESTEE LAUDER COMPANIES-CL A	家庭用品・パーソナル用品	531	39,441.10	20,943,222	31,764.07	16,866,723	1.25
フランス	株式	SCHNEIDER ELECTRIC SE	資本財	1,000	18,585.52	18,585,520	16,247.25	16,247,251	1.21
香港	株式	AIA GROUP LTD	保険	13,400	1,457.94	19,536,444	1,192.79	15,983,419	1.19
フランス	株式	LVMH MOET HENNESSY LOUIS VUI	耐久消費財・アパレル	184	82,729.07	15,222,148	86,530.56	15,921,623	1.18

□ 種別・業種別投資比率

2022年9月30日現在

種類	業種	投資比率（％）
株式（外国）	エネルギー	3.07
	素材	3.77
	資本財	5.60
	商業・専門サービス	2.95
	運輸	1.97
	自動車・自動車部品	1.06
	耐久消費財・アパレル	3.45
	消費者サービス	2.48
	小売	3.50
	食品・生活必需品小売り	1.99
	食品・飲料・タバコ	2.03

家庭用品・パーソナル用品	2.02
ヘルスケア機器・サービス	5.75
医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	9.63
銀行	4.17
各種金融	6.94
保険	2.31
ソフトウェア・サービス	17.07
テクノロジー・ハードウェアおよび機器	2.02
半導体・半導体製造装置	7.13
公益事業	1.76
メディア・娯楽	5.86
合計	96.53

外国債券マザーファンド(B号)

イ 主要投資銘柄(上位30銘柄)

2022年9月30日現在

国/地域	種類	銘柄名	数量	帳簿単価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	利率 (%)	償還期限	投資 比率 (%)
スペイン	国債 証券	BONOS Y OBLIG DEL ESTADO	425,000	14,889.23	63,279,229	14,591.22	62,012,666	4.400	2023/10/31	7.54
アメリカ	国債 証券	US TREASURY N/B	420,000	13,854.99	58,190,947	13,333.82	56,002,023	1.625	2026/02/15	6.81
スペイン	国債 証券	BONOS Y OBLIG DEL ESTADO	385,000	14,159.07	54,512,402	14,094.95	54,265,541	0.000	2023/04/30	6.60
アメリカ	国債 証券	US TREASURY N/B	280,000	14,026.62	39,274,532	13,724.08	38,427,418	0.125	2024/01/15	4.67
アメリカ	国債 証券	US TREASURY N/B	275,000	13,316.35	36,619,959	12,455.25	34,251,945	1.375	2028/10/31	4.16
アメリカ	国債 証券	US TREASURY N/B	280,000	12,882.53	36,071,077	11,820.12	33,096,325	1.375	2031/11/15	4.02
アメリカ	国債 証券	US TREASURY N/B	220,000	14,289.56	31,437,027	14,252.35	31,355,159	1.625	2023/05/31	3.81
アメリカ	国債 証券	US TREASURY N/B	200,000	14,543.12	29,086,246	13,850.79	27,701,573	1.750	2024/07/31	3.37
アメリカ	国債 証券	US TREASURY N/B	180,000	13,909.70	25,037,460	13,365.38	24,057,690	2.250	2027/08/15	2.92
フランス	国債 証券	FRANCE OAT.	150,000	21,703.50	32,555,244	15,855.30	23,782,952	4.000	2038/10/25	2.89
アメリカ	国債 証券	US TREASURY N/B	190,000	13,656.32	25,947,010	12,311.60	23,392,042	2.875	2052/05/15	2.84
アメリカ	国債 証券	US TREASURY N/B	160,000	13,719.05	21,950,480	13,592.88	21,748,608	1.500	2025/02/15	2.64
アメリカ	国債 証券	US TREASURY N/B	150,000	14,038.13	21,057,191	13,460.52	20,190,785	1.125	2025/02/28	2.45
アメリカ	国債 証券	US TREASURY N/B	220,000	11,310.22	24,882,476	9,145.62	20,120,364	1.125	2040/05/15	2.45
アメリカ	国債 証券	US TREASURY N/B	140,000	14,898.34	20,857,679	13,431.13	18,803,578	2.250	2027/02/15	2.29

アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B	125,000	14,279.49	17,849,360	13,467.33	16,834,162	2.750	2029/05/31	2.05
スペイン	国債証券	BONOS Y OBLIG DEL ESTADO	130,000	14,733.16	19,153,112	12,359.35	16,067,159	1.250	2030/10/31	1.95
スペイン	国債証券	BONOS Y OBLIG DEL ESTADO	120,000	13,553.32	16,263,988	12,008.96	14,410,753	2.700	2048/10/31	1.75
オランダ	国債証券	NETHERLANDS GOVERNMENT	120,000	12,917.74	15,501,288	11,769.29	14,123,153	0.500	2032/07/15	1.72
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B	150,000	12,646.58	18,969,872	9,127.52	13,691,278	1.625	2050/11/15	1.66
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B	90,000	12,834.35	11,550,917	12,330.86	11,097,775	0.500	2027/05/31	1.35
中国	国債証券	CHINA GOVERNMENT BOND	500,000	2,047.91	10,239,539	2,040.40	10,201,986	2.750	2029/06/15	1.24
フランス	国債証券	FRANCE OAT.	80,000	12,997.09	10,397,671	12,536.83	10,029,461	0.500	2029/05/25	1.22
スペイン	国債証券	BONOS Y OBLIG DEL ESTADO	75,000	12,927.49	9,695,621	12,285.06	9,213,796	0.800	2029/07/30	1.12
スペイン	国債証券	BONOS Y OBLIG DEL ESTADO	50,000	18,432.57	9,216,287	16,771.56	8,385,779	6.000	2029/01/31	1.02
フランス	国債証券	FRANCE OAT.	70,000	13,038.24	9,126,768	11,578.44	8,104,910	0.000	2030/11/25	0.99
イギリス	国債証券	UK GILT	55,000	20,808.79	11,444,835	14,219.23	7,820,577	3.250	2044/01/22	0.95
イギリス	国債証券	UK GILT	50,000	15,434.93	7,717,464	15,283.83	7,641,916	0.125	2024/01/31	0.93
カナダ	国債証券	CANADIAN GOVERNMENT	80,000	10,337.19	8,269,751	9,537.55	7,630,042	1.000	2027/06/01	0.93
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B	70,000	14,106.23	9,874,362	10,576.78	7,403,744	2.250	2046/08/15	0.90

□ 種類別投資比率

2022年9月30日現在

種類	投資比率（%）
国債証券	96.50
地方債証券	0.57
合計	97.07

投資不動産物件

国内株式マザーファンド（B号）

該当事項はありません。

国内債券マザーファンド（B号）

該当事項はありません。

外国株式マザーファンド（B号）

該当事項はありません。

外国債券マザーファンド（B号）

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの
国内株式マザーファンド（B号）
該当事項はありません。

国内債券マザーファンド（B号）
該当事項はありません。

外国株式マザーファンド（B号）
該当事項はありません。

外国債券マザーファンド（B号）

2022年9月30日現在

種類	資産の名称	買建/ 売建	数量	簿価 (円)	時価 (円)	投資 比率 (%)
為替予約 取引	アメリカ・ドル	買建	231,000.00	33,005,478	33,170,445	4.03
	オフショア・人民元	買建	778,000.00	15,965,734	15,716,611	1.91
	ユーロ	買建	94,000.00	13,424,858	13,343,300	1.62
	デンマーク・クローネ	買建	210,000.00	4,054,092	4,008,900	0.49
	イギリス・ポンド	買建	19,000.00	3,144,735	3,049,785	0.37
	カナダ・ドル	買建	22,000.00	2,391,214	2,308,680	0.28
	オーストラリア・ドル	買建	24,000.00	2,313,610	2,244,120	0.27
	シンガポール・ドル	買建	1,000.00	101,685	100,315	0.01
	ユーロ	売建	256,000.00	36,713,156	36,339,200	4.42
	オフショア・人民元	売建	900,000.00	18,333,472	18,181,169	2.21
	アメリカ・ドル	売建	75,000.00	10,630,529	10,769,625	1.31
	イギリス・ポンド	売建	27,000.00	4,171,775	4,333,905	0.53
	イスラエル・シケル	売建	26,000.00	1,093,362	1,056,614	0.13
	カナダ・ドル	売建	3,000.00	313,753	314,820	0.04
	ノルウェー・クローネ	売建	20,000.00	285,874	269,500	0.03
	スウェーデン・クローナ	売建	18,000.00	241,037	233,100	0.03

（注）日本における対顧客先物相場の仲値で評価しております。

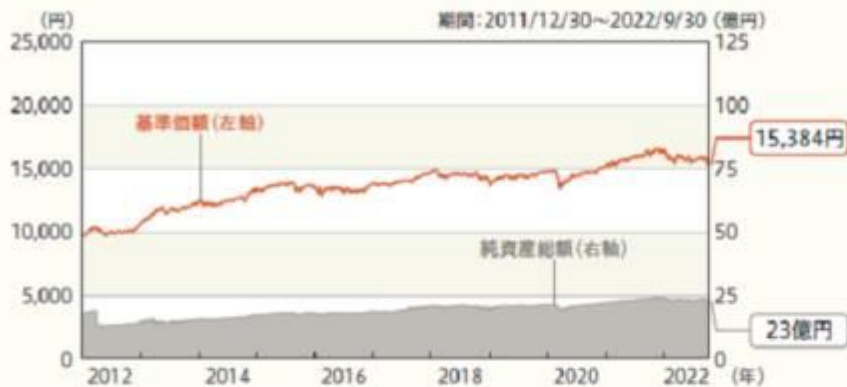
参考情報

基準日:2022年9月30日

※ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。
※委託会社ホームページにおいてもファンドの運用状況は適宜開示しています。

基準価額・純資産の推移

■年金プラン30



分配の推移

決算期	分配金
2022年3月	0円
2021年3月	0円
2020年3月	0円
2019年3月	0円
2018年3月	0円
設定来累計	0円

※分配金は1万円当たり、税引前です。
※最近5計算期間を記載しています。

■年金プラン50



決算期	分配金
2022年3月	0円
2021年3月	0円
2020年3月	0円
2019年3月	0円
2018年3月	0円
設定来累計	0円

※分配金は1万円当たり、税引前です。
※最近5計算期間を記載しています。

■年金プラン70



決算期	分配金
2022年3月	0円
2021年3月	0円
2020年3月	0円
2019年3月	0円
2018年3月	0円
設定来累計	0円

※分配金は1万円当たり、税引前です。
※最近5計算期間を記載しています。

※基準価額は、1万円当たり、信託報酬控除後です。

主要な資産の状況

■年金プラン30

資産別構成

資産の種類	国・地域	比率(%)
親投資信託受益証券	日本	99.66
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		0.34
合計(純資産総額)		100.00

主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	比率(%)
日本	親投資信託受益証券	国内債券マザーファンド(B号)	59.90
日本	親投資信託受益証券	国内株式マザーファンド(B号)	19.42
日本	親投資信託受益証券	外国株式マザーファンド(B号)	10.53
日本	親投資信託受益証券	外国債券マザーファンド(B号)	9.81

■年金プラン50

資産別構成

資産の種類	国・地域	比率(%)
親投資信託受益証券	日本	99.70
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		0.30
合計(純資産総額)		100.00

主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	比率(%)
日本	親投資信託受益証券	国内債券マザーファンド(B号)	40.24
日本	親投資信託受益証券	国内株式マザーファンド(B号)	32.14
日本	親投資信託受益証券	外国株式マザーファンド(B号)	17.33
日本	親投資信託受益証券	外国債券マザーファンド(B号)	10.00

■年金プラン70

資産別構成

資産の種類	国・地域	比率(%)
親投資信託受益証券	日本	99.69
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		0.31
合計(純資産総額)		100.00

主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	比率(%)
日本	親投資信託受益証券	国内株式マザーファンド(B号)	46.36
日本	親投資信託受益証券	外国株式マザーファンド(B号)	23.59
日本	親投資信託受益証券	国内債券マザーファンド(B号)	19.65
日本	親投資信託受益証券	外国債券マザーファンド(B号)	10.10

※比率は、ファンドのそれぞれの純資産総額に対する時価の比率です。

※「主要投資銘柄(上位10銘柄)」は組入有価証券が10銘柄に満たない場合はすべてを記載しています。

■国内株式マザーファンド（B号）

資産別構成

資産の種類	国・地域	比率(%)
株式	日本	97.61
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		2.39
合計(純資産総額)		100.00

主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	業種	比率(%)
日本	株式	トヨタ自動車	輸送用機器	3.79
日本	株式	日本電信電話	情報・通信業	3.31
日本	株式	ソニーグループ	電気機器	2.58
日本	株式	日立製作所	電気機器	2.25
日本	株式	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.15
日本	株式	ダイキン工業	機械	2.09
日本	株式	伊藤忠商事	卸売業	2.08
日本	株式	任天堂	その他製品	2.06
日本	株式	京阪ホールディングス	陸運業	2.03
日本	株式	三井住友トラスト・ホールディングス	銀行業	2.00

■国内債券マザーファンド（B号）

資産別構成

資産の種類	国・地域	比率(%)
国債証券	日本	78.69
社債券	日本	12.47
	アメリカ	0.47
特殊債券	日本	5.59
地方債証券	日本	2.17
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		0.60
合計(純資産総額)		100.00

主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	利率(%)	償還期限	比率(%)
日本	国債証券	439 2年国債	0.005	2024/08/01	6.09
日本	国債証券	357 10年国債	0.100	2029/12/20	4.98
日本	国債証券	150 5年国債	0.005	2026/12/20	4.01
日本	国債証券	153 5年国債	0.005	2027/06/20	3.58
日本	国債証券	438 2年国債	0.005	2024/07/01	3.11
日本	国債証券	140 20年国債	1.700	2032/09/20	3.04
日本	国債証券	354 10年国債	0.100	2029/03/20	2.98
日本	国債証券	440 2年国債	0.005	2024/09/01	2.89
日本	国債証券	363 10年国債	0.100	2031/06/20	2.78
日本	国債証券	437 2年国債	0.005	2024/06/01	2.67

■外国株式マザーファンド（B号）

資産別構成

資産の種類	国・地域	比率(%)
株式	アメリカ	74.94
	フランス	6.04
	スイス	3.31
	アイルランド	2.84
	イギリス	2.63
	香港	2.58
	オランダ	1.69
	その他	2.49
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		3.47
合計(純資産総額)		100.00

主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	業種	比率(%)
アメリカ	株式	ALPHABET INC-CL A	メディア・娯楽	4.53
アメリカ	株式	MICROSOFT CORP	ソフトウェア・サービス	3.15
アメリカ	株式	EOG RESOURCES INC	エネルギー	2.38
アメリカ	株式	FORTINET INC	ソフトウェア・サービス	2.19
アメリカ	株式	NVIDIA CORP	半導体・半導体製造装置	2.11
アメリカ	株式	THERMO FISHER SCIENTIFIC INC	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	2.05
アメリカ	株式	ENPHASE ENERGY INC	半導体・半導体製造装置	2.04
アメリカ	株式	ELI LILLY & CO	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	2.01
アメリカ	株式	HOME DEPOT INC	小売	1.95
アメリカ	株式	VISA INC-CLASS A SHARES	ソフトウェア・サービス	1.82

*比率は、マザーファンドのそれぞれの純資産総額に対する時価の比率です。

■外国債券マザーファンド（B号）

資産別構成

資産の種類	国・地域	比率(%)
国債証券	アメリカ	52.27
	スペイン	21.27
	フランス	7.85
	イギリス	3.62
	ドイツ	2.71
	中国	1.78
	その他	6.99
地方債証券	カナダ	0.57
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		2.93
合計(純資産総額)		100.00

主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	利率(%)	償還期限	比率(%)
スペイン	国債証券	BONOS Y OBLIG DEL ESTADO	4.400	2023/10/31	7.54
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B	1.625	2026/02/15	6.81
スペイン	国債証券	BONOS Y OBLIG DEL ESTADO	0.000	2023/04/30	6.60
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B	0.125	2024/01/15	4.67
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B	1.375	2028/10/31	4.16
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B	1.375	2031/11/15	4.02
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B	1.625	2023/05/31	3.81
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B	1.750	2024/07/31	3.37
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B	2.250	2027/08/15	2.92
フランス	国債証券	FRANCE OAT.	4.000	2038/10/25	2.89

※比率は、マザーファンドの純資産総額に対する時価の比率です。

年間収益率の推移(暦年ベース)

■年金プラン30



■年金プラン50



■年金プラン70



※ファンドの収益率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものと仮定して計算しています。分配実績がない場合は、基準価額の騰落率です。
 ※2022年の収益率は、年初から基準日までの騰落率です。
 ※ベンチマーク(合成指数)の情報は参考情報であり、ファンドの運用実績ではありません。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

イ 申込方法

- (イ) ファンドの取得申込者は、お申込みを取り扱う販売会社取引口座を開設の上、当ファンドの取得申込みを行っていただきます。
当ファンドには、「分配金受取りコース」と「分配金自動再投資コース」の2つの申込方法がありますが、販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。お申込みの販売会社にお問い合わせください。
- (ロ) 原則として午後3時までに取得申込みが行われ、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の申込受付分とします。
なお、取引所等における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、取得申込みの受け付けを中止させていただく場合、既に受け付けた取得申込みを取り消させていただく場合があります。
- (ハ) 当ファンドの取得申込者は販売会社に、取得申込みと同時にまたはあらかじめ当該取得申込者が受益権の振替を行うための振替機関等の口座を申し出るものとし、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録が行われます。
販売会社は、当該取得申込みの代金の支払いと引換えに、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録を行うことができます。
ファンドのお買付けに関しましては、クーリング・オフ制度の適用はありません。
- (ニ) 定時定額で取得申込みをする「定時定額購入サービス」（販売会社によっては、名称が異なる場合があります。）を利用する場合は、販売会社との間で「定時定額購入サービス」に関する契約を締結します。詳細については、お申込みの販売会社にお問い合わせください。

ロ 申込価額

取得申込受付日の翌営業日の基準価額となります。

ただし、累積投資契約に基づく収益分配金の再投資の場合は、各計算期末の基準価額となります。

ハ 申込手数料

ありません。

ニ 申込単位

お申込単位の詳細は、取扱いの販売会社にお問い合わせください。

ホ 照会先

手続き等のご不明な点についての委託会社に対する照会は下記においてできます。

照会先の名称	コールセンター	ホームページ
三井住友DSアセットマネジメント株式会社	0120-88-2976	https://www.smd-am.co.jp

お問い合わせは、午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）までとさせていただきます。

ヘ 申込取扱場所・払込取扱場所

販売会社において申込み・払込みを取り扱います。

ト 払込期日

取得申込者は、申込金額（取得申込受付日の翌営業日の基準価額×申込口数）を、販売会社の指定の期日までに、指定の方法でお支払いください。

各取得申込みにかかる発行価額の総額は、追加信託が行われる日に、委託会社の指定する口座を経由して、受託会社の指定するファンド口座に払い込まれます。

2【換金（解約）手続等】

受益者は、自己に帰属する受益権につき、解約請求（一部解約の実行請求）により換金することができます。

お買付けの販売会社にお申し出ください。

解約請求のお申込みに関しては、原則として午後3時までに解約請求のお申込みが行われ、販売会

社所定の事務手続きが完了したものを当日の解約請求受付分とします。

なお、信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金申込みに制限を設ける場合があります。解約請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求にかかるファンドの信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引換えに、当該解約請求にかかる受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定に従い当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

一部解約金は、解約請求受付日から起算して5営業日目からお支払いします。

一部解約価額は、解約請求受付日の翌営業日の基準価額となります。

解約単位の詳細および一部解約価額につきましては、お申込みの販売会社にお問い合わせください。

委託会社は、取引所等における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、一部解約の実行の請求の受け付けを中止すること、および既に受け付けた一部解約の実行請求を取り消すことがあります。この場合、受益者は当該受付中止以前に行った当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受け付けたものとして、上記に準じた取扱いとなります。

3【資産管理等の概要】

(1)【資産の評価】

イ 基準価額の算出方法

基準価額とは、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券および借入れ有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則に従って時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（「純資産総額」といいます。）を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます（基準価額は、便宜上1万口単位で表示される場合があります。）。投資対象とする親投資信託受益証券は、当該親投資信託受益証券の基準価額で評価します。なお、外貨建資産の円換算については、原則として日本における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算するものとします。また、予約為替の評価は、原則として日本における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によるものとします。

< 主要投資対象の評価方法 >

主要投資対象	有価証券等の評価方法
株式、投資証券、債券等	(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 原則として、金融商品取引所、外国金融商品市場の最終相場で評価します。 (2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 原則として、金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（売気配相場を除く。）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価します。
市場デリバティブ取引	原則として、金融商品取引所、外国金融商品市場の発表する清算値段または最終相場で評価します。

国内で取引される資産については原則として基準価額計算日の値、外国で取引される資産については原則として基準価額計算日に知りうる直近の日の値で評価します。

ロ 基準価額の算出頻度・照会方法

基準価額は、委託会社の営業日において日々算出されます。

基準価額は、販売会社または委託会社にお問い合わせいただけるほか、原則として翌日付の日本経済新聞朝刊の証券欄「オープン基準価格」の紙面に、それぞれ「年金30」、「年金50」、「年金70」として掲載されます。

委託会社に対する照会は下記においてできます。

照会先の名称	コールセンター	ホームページ
三井住友DSアセットマネジメント株式会社	0120-88-2976	https://www.smd-am.co.jp

お問い合わせは、午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)までとさせていただきます。

(2) 【保管】

ファンドの受益権は社振法の規定の適用を受け、受益権の帰属は振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まるため、原則として受益証券は発行されません。したがって、受益証券の保管に関する該当事項はありません。

(3) 【信託期間】

2000年9月19日から下記「(5) その他 イ 信託の終了」に記載された各事由が生じた場合における信託終了の日までとなります。

(4) 【計算期間】

毎年3月7日から翌年3月6日までとすることを原則としますが、各計算期間終了日に該当する日(以下「該当日」といいます。)が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始するものとします。なお、最終計算期間の終了日は、信託期間の終了日とします。

(5) 【その他】

イ 信託の終了

(イ) 信託契約の解約

- a. 委託会社は、当ファンドの信託契約を解約することが受益者にとって有利であると認めるとき、各ファンドの残存口数が30億口を下回ることとなったとき、その他やむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意の上、当ファンドの信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。
- b. 委託会社は、上記aの事項について、あらかじめ、解約しようとする旨を公告し、かつ、その旨を記載した書面を当ファンドの知られたる受益者に対して交付します。ただし、当ファンドのすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として公告を行いません。
- c. 上記bの公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。
- d. 上記cの一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の2分の1を超えるときは、信託契約の解約をしません。
- e. 委託会社は、当ファンドの信託契約の解約をしないこととしたときは、解約しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、すべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
- f. 上記c～eまでの取扱いは、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、上記cの一定の期間が一月を下らずにその公告および書面の交付を行うこと

が困難な場合には適用しません。

(ロ) 信託契約に関する監督官庁の命令

委託会社は、監督官庁より当ファンドの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令に従い信託契約を解約し、信託を終了させます。

(ハ) 委託会社の登録取消等に伴う取扱い

委託会社が、監督官庁より登録の取消しを受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は当ファンドの信託契約を解約し、信託を終了させます。ただし、監督官庁が当ファンドに関する委託会社の業務を他の委託会社に引継ぐことを命じたときは、当ファンドは、その委託会社と受託会社との間において存続します。

(ニ) 受託会社の辞任および解任に伴う取扱い

- a. 受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。また、受託会社はその任務に背いた場合、その他重要な事由が生じたときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を請求することができます。
- b. 上記により受託会社が辞任し、または解任された場合は、委託会社は新受託会社を選任します。
- c. 委託会社が新受託会社を選任できないとき、委託会社は当ファンドの信託契約を解約し、信託を終了させます。

ロ 収益分配金、償還金の支払い

(イ) 収益分配金

- a. 分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。分配対象額が少額の場合等には委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
- b. 分配金は、原則として、税金を差し引いた後、毎計算期間終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として決算日から起算して5営業日目まで）から、販売会社において、決算日の振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払い前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として）に支払われます。
ただし、分配金自動再投資コースにかかる収益分配金は、原則として、税金を差し引いた後、累積投資契約に基づいて、毎計算期間終了日の翌営業日に無手数料で再投資され、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

(ロ) 償還金

償還金は、信託終了後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として償還日から起算して5営業日目まで）から、販売会社において、原則として、償還日の振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として）に支払われます。

八 信託約款の変更

- (イ) 委託会社は、当ファンドの信託約款を変更することが受益者の利益のため必要と認めるとき、監督官庁より変更の命令を受けたとき、その他やむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意の上、当ファンドの信託約款を変更することができるものとし、あらかじめ、変更しようとする旨および内容を監督官庁に届け出ます。
- (ロ) 委託会社は、上記(イ)の変更事項のうち、その内容が重大なものについては、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を当ファンドの知られたる受益者に交付します。ただし、当ファンドのすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として公告を行いません。
- (ハ) 上記(ロ)の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して

異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。

- (二) 上記(八)の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の2分の1を超えるときは、(イ)の信託約款の変更をしません。
- (ホ) 委託会社は、信託約款の変更をしないこととしたときは、変更しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、すべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

二 反対者の買取請求権

当ファンドの信託契約の解約または重大な信託約款の変更が行われる場合において、それぞれの手続きにおいて設けられる異議申立期間内に委託会社に異議を述べた受益者は、自己に帰属する受益権を、受託会社に信託財産をもって買い取るよう請求をすることができます。

ホ 販売会社との契約の更改等

委託会社と販売会社との間で締結される販売契約(名称の如何を問わず、ファンドの募集・販売の取扱い、受益者からの一部解約実行請求の受付け、受益者への収益分配金、一部解約金および償還金の支払事務等を規定するもの)は、期間満了の3ヵ月前に当事者のいずれからでも、何らの意思表示もない場合は、自動的に1年間更新されます。販売契約の内容は、必要に応じて、委託会社と販売会社との合意により変更されることがあります。

へ 委託会社の事業の譲渡および承継に伴う取扱い

委託会社の事業の全部または一部の譲渡、もしくは分割承継により、当ファンドに関する事業が譲渡・承継されることがあります。

ト 公告

委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。

<https://www.smd-am.co.jp>

なお、電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

チ 運用にかかる報告書の開示方法

委託会社は毎決算後、投資信託及び投資法人に関する法律の規定に従い、期中の運用経過のほか、信託財産の内容、有価証券売買状況などを記載した運用報告書(全体版)および運用報告書(全体版)の記載事項のうち重要なものを記載した交付運用報告書を作成します。

交付運用報告書は、原則として、あらかじめ受益者が申し出た住所に販売会社から届けられます。なお、運用報告書(全体版)は、委託会社のホームページで閲覧できます。

4【受益者の権利等】

委託会社の指図に基づく行為によりファンドに生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。当ファンドの受益権は、信託の日時を異にすることにより差異が生ずることはありません。

受益者の有する主な権利は次の通りです。

イ 分配金請求権

受益者は、委託会社の決定した収益分配金を持分に依りて請求する権利を有します。

収益分配金は、原則として、税金を差し引いた後、毎計算期間終了日後1ヶ月以内の委託会社の指定する日(原則として決算日から起算して5営業日目まで)から、販売会社において、決算日の振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払い前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として)に支払われます。

ただし、分配金自動再投資コースをお申込みの場合の収益分配金は、原則として、税金を差し引いた後、累積投資契約に基づき、毎計算期間終了日の翌営業日に無手数料で再投資され、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

収益分配金は、受益者が、その支払開始日から5年間その支払いを請求しないときは、受益者は

その権利を失い、当該金銭は、委託会社に帰属します。

ロ 償還金請求権

受益者は、持分に応じて償還金を請求する権利を有します。

償還金は、信託終了後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として償還日から起算して5営業日目まで）から、販売会社において、原則として、償還日の振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として）に支払われます。

ハ 償還金は、受益者がその支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、受益者はその権利を失い、当該金銭は、委託会社に帰属します。

ニ 一部解約実行請求権

受益者は、自己に帰属する受益権につき、委託会社に一部解約の実行を請求することができます。詳細は、前記「第2 管理及び運営 2 換金（解約）手続等」の記載をご参照ください。

ホ 信託約款変更等に対する異議申立権および受益権の買取請求権

委託会社が、当ファンドの解約（監督官庁の命令による解約等の場合を除きます。）または重大な信託約款の変更を行おうとする場合において、当該解約または信託約款変更に関する異議のある受益者は、それぞれの手続きにおいて設けられる異議申立期間中に異議を申し立てることができます。異議を申し立てた受益者の受益権の口数が、受益権の総口数の過半数となる場合は、当該解約または信託約款変更は行われません。

当該解約または信託約款変更が行われる場合において、前述の異議を申し立てた受益者は、委託会社に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買い取るべき旨の請求ができます。

ヘ 帳簿閲覧・謄写請求権

受益者は委託会社に対し、当該受益者にかかる信託財産に関する書類の閲覧または謄写を請求することができます。

第3【ファンドの経理状況】

1. 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)ならびに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)に基づいて作成しております。
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
2. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第22期(2021年3月9日から2022年3月7日まで)の財務諸表について、有限責任あずさ監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

【三井住友・年金プラン30】

(1) 【貸借対照表】

(単位:円)

	第21期 (2021年 3月 8日現在)	第22期 (2022年 3月 7日現在)
資産の部		
流動資産		
金銭信託	-	1,194,969
コール・ローン	17,681,141	56,363,398
親投資信託受益証券	2,204,607,505	2,219,920,526
未収入金	2,330,000	2,360,000
流動資産合計	2,224,618,646	2,279,838,893
資産合計	2,224,618,646	2,279,838,893
負債の部		
流動負債		
未払解約金	2,326,062	2,555,668
未払受託者報酬	951,859	1,022,075
未払委託者報酬	9,756,449	10,476,492
未払利息	42	-
その他未払費用	146,300	146,396
流動負債合計	13,180,712	14,200,631
負債合計	13,180,712	14,200,631
純資産の部		
元本等		
元本	1,440,199,208	1,456,503,821
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金()	771,238,726	809,134,441
(分配準備積立金)	424,141,698	411,000,946
元本等合計	2,211,437,934	2,265,638,262
純資産合計	2,211,437,934	2,265,638,262
負債純資産合計	2,224,618,646	2,279,838,893

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位 : 円)

	第21期		第22期	
	自	2020年 3月 7日	自	2021年 3月 9日
	至	2021年 3月 8日	至	2022年 3月 7日
営業収益				
受取利息		-		183
有価証券売買等損益		170,109,033		51,323,021
営業収益合計		170,109,033		51,323,204
営業費用				
支払利息		7,612		9,260
受託者報酬		1,848,148		2,034,213
委託者報酬		18,943,311		20,850,845
その他費用		295,918		293,810
営業費用合計		21,094,989		23,188,128
営業利益又は営業損失()		149,014,044		28,135,076
経常利益又は経常損失()		149,014,044		28,135,076
当期純利益又は当期純損失()		149,014,044		28,135,076
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額()		3,353,449		7,673,923
期首剰余金又は期首欠損金()		613,371,097		771,238,726
剰余金増加額又は欠損金減少額		75,590,381		81,630,997
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		-		-
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		75,590,381		81,630,997
剰余金減少額又は欠損金増加額		63,383,347		64,196,435
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		63,383,347		64,196,435
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		-		-
分配金		-		-
期末剰余金又は期末欠損金()		771,238,726		809,134,441

(3)【注記表】

(重要な会計方針の注記)

項 目	第22期	
	自 2021年3月9日 至 2022年3月7日	
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>親投資信託受益証券は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>	
2. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>計算期間の取扱い 当計算期間は前期末および当期末が休日のため、2021年3月9日から2022年3月7日までとなっております。</p>	

(重要な会計上の見積りに関する注記)

会計上の見積りについて、翌計算期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクがある項目を識別していないため、注記を省略しております。

(貸借対照表に関する注記)

項 目	第21期	第22期
	(2021年3月8日現在)	(2022年3月7日現在)
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	1,440,199,208口	1,456,503,821口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 1.5355円 (1万口当たりの純資産額15,355円)	1口当たり純資産額 1.5555円 (1万口当たりの純資産額15,555円)

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

項 目	第21期	第22期
	自 2020年3月7日 至 2021年3月8日	自 2021年3月9日 至 2022年3月7日

分配金の計算過程	計算期間末における費用控除後の配当等収益(18,332,886円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(103,521,299円)、収益調整金(417,371,116円)、および分配準備積立金(302,287,513円)より、分配対象収益は841,512,814円(1万口当たり5,843.00円)ですが、分配を行っておりません。	計算期間末における費用控除後の配当等収益(10,660,379円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(9,800,774円)、収益調整金(460,666,833円)、および分配準備積立金(390,539,793円)より、分配対象収益は871,667,779円(1万口当たり5,984.66円)ですが、分配を行っておりません。
----------	--	--

(金融商品に関する注記)

・金融商品の状況に関する事項

項目	第22期 自 2021年3月9日 至 2022年3月7日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、当ファンドの信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して、投資として運用することを目的としております。
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	<p>(1) 金融商品の内容</p> <p>1) 有価証券 当ファンドが投資対象とする有価証券は、信託約款で定められており、当計算期間については、親投資信託受益証券を組み入れております。</p> <p>2) デリバティブ取引 当ファンドが行うことのできるデリバティブ取引は、信託約款に基づいております。デリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資すること、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクの回避を目的としております。</p> <p>3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等</p> <p>(2) 金融商品に係るリスク 有価証券およびデリバティブ取引等 当ファンドが保有する金融商品にかかる主なリスクとしては、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクがあります。</p>

<p>3. 金融商品に係るリスク管理体制</p>	<p>リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングおよびファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理およびコンプライアンスに関する会議をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。</p> <p>また、とりわけ、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限值、管理レベルおよび頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある状況の場合は、関連する運用部署に是正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用部署は、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。なお、投資信託協会の流動性リスク管理規制に抵触する場合には、流動性リスクを管理する会議で審議の上、流動性リスクの管理責任者が対処方針を決定します。その後、決定した対処方針やその実施等について、リスク管理会議に報告を行う体制となっております。</p> <p>なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド（外部ファンド）を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する会議にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。</p>
<p>4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明</p>	<p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって認める評価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。</p>

・金融商品の時価等に関する事項

項目	第22期 (2022年3月7日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありませぬ。
2. 時価の算定方法	<p>(1) 有価証券（親投資信託受益証券） 「重要な会計方針の注記」に記載しております。</p> <p>(2) 派生商品評価勘定（デリバティブ取引） デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。</p>

	(3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。
--	---

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

第21期(自 2020年3月7日 至 2021年3月8日)

種 類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	135,003,065円
合計	135,003,065円

第22期(自 2021年3月9日 至 2022年3月7日)

種 類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	10,265,538円
合計	10,265,538円

(デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

第22期 自 2021年3月9日 至 2022年3月7日
市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。

(その他の注記)

項 目	第21期 (2021年3月8日現在)	第22期 (2022年3月7日現在)
期首元本額	1,425,758,663円	1,440,199,208円
期中追加設定元本額	161,597,974円	135,591,974円
期中一部解約元本額	147,157,429円	119,287,361円

(4)【附属明細表】

有価証券明細表

(a)株式

該当事項はありません。

(b)株式以外の有価証券

(単位：円)

種 類	銘 柄	券面総額	評価額	備考
-----	-----	------	-----	----

親投資信託 受益証券	国内株式マザーファンド(B 号)	248,486,637	438,529,216	
	国内債券マザーファンド(B 号)	943,975,063	1,333,836,764	
	外国株式マザーファンド(B 号)	65,959,625	218,227,419	
	外国債券マザーファンド(B 号)	79,815,929	229,327,127	
	親投資信託受益証券 小計		2,219,920,526	
合 計			2,219,920,526	

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【三井住友・年金プラン50】

(1) 【貸借対照表】

(単位:円)

	第21期 (2021年 3月 8日現在)	第22期 (2022年 3月 7日現在)
資産の部		
流動資産		
金銭信託	-	1,797,606
コール・ローン	31,432,040	84,788,093
親投資信託受益証券	3,108,278,882	3,148,418,212
未収入金	-	10,000,000
流動資産合計	3,139,710,922	3,245,003,911
資産合計	3,139,710,922	3,245,003,911
負債の部		
流動負債		
未払解約金	440,457	1,376,689
未払受託者報酬	1,315,311	1,476,834
未払委託者報酬	16,770,063	18,830,139
未払利息	75	-
その他未払費用	200,200	200,357
流動負債合計	18,726,106	21,884,019
負債合計	18,726,106	21,884,019
純資産の部		
元本等		
元本	1,927,956,673	1,944,226,696
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金()	1,193,028,143	1,278,893,196
(分配準備積立金)	776,811,568	774,035,826
元本等合計	3,120,984,816	3,223,119,892
純資産合計	3,120,984,816	3,223,119,892
負債純資産合計	3,139,710,922	3,245,003,911

（２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第21期		第22期	
	自	2020年 3月 7日 至 2021年 3月 8日	自	2021年 3月 9日 至 2022年 3月 7日
営業収益				
受取利息		-		278
有価証券売買等損益		405,507,585		113,989,330
営業収益合計		405,507,585		113,989,608
営業費用				
支払利息		11,164		14,562
受託者報酬		2,508,658		2,919,221
委託者報酬		31,985,206		37,220,450
その他費用		404,917		402,345
営業費用合計		34,909,945		40,556,578
営業利益又は営業損失（ ）		370,597,640		73,433,030
経常利益又は経常損失（ ）		370,597,640		73,433,030
当期純利益又は当期純損失（ ）		370,597,640		73,433,030
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）		6,678,606		15,728,957
期首剰余金又は期首欠損金（ ）		797,149,471		1,193,028,143
剰余金増加額又は欠損金減少額		94,264,066		125,002,090
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		-		-
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		94,264,066		125,002,090
剰余金減少額又は欠損金増加額		62,304,428		96,841,110
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		62,304,428		96,841,110
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		-		-
分配金		-		-
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		1,193,028,143		1,278,893,196

(3)【注記表】

(重要な会計方針の注記)

項 目	第22期	
	自 2021年3月9日 至 2022年3月7日	
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>親投資信託受益証券は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>	
2. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>計算期間の取扱い 当計算期間は前期末および当期末が休日のため、2021年3月9日から2022年3月7日までとなっております。</p>	

(重要な会計上の見積りに関する注記)

会計上の見積りについて、翌計算期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクがある項目を識別していないため、注記を省略しております。

(貸借対照表に関する注記)

項 目	第21期	第22期
	(2021年3月8日現在)	(2022年3月7日現在)
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	1,927,956,673口	1,944,226,696口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 1.6188円 (1万口当たりの純資産額16,188円)	1口当たり純資産額 1.6578円 (1万口当たりの純資産額16,578円)

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

項 目	第21期	第22期
	自 2020年3月7日 至 2021年3月8日	自 2021年3月9日 至 2022年3月7日

分配金の計算過程	計算期間末における費用控除後の配当等収益(32,254,774円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(248,211,740円)、収益調整金(538,986,142円)、および分配準備積立金(496,345,054円)より、分配対象収益は1,315,797,710円(1万口当たり6,824.81円)であります。分配を行っておりません。	計算期間末における費用控除後の配当等収益(23,397,674円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(34,306,399円)、収益調整金(610,843,393円)、および分配準備積立金(716,331,753円)より、分配対象収益は1,384,879,219円(1万口当たり7,123.03円)であります。分配を行っておりません。
----------	--	---

(金融商品に関する注記)

・金融商品の状況に関する事項

項目	第22期 自 2021年3月9日 至 2022年3月7日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、当ファンドの信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して、投資として運用することを目的としております。
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	<p>(1) 金融商品の内容</p> <p>1) 有価証券 当ファンドが投資対象とする有価証券は、信託約款で定められており、当計算期間については、親投資信託受益証券を組み入れております。</p> <p>2) デリバティブ取引 当ファンドが行うことのできるデリバティブ取引は、信託約款に基づいております。デリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資すること、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクの回避を目的としております。</p> <p>3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等</p> <p>(2) 金融商品に係るリスク 有価証券およびデリバティブ取引等 当ファンドが保有する金融商品にかかる主なリスクとしては、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクがあります。</p>

<p>3. 金融商品に係るリスク管理体制</p>	<p>リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングおよびファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理およびコンプライアンスに関する会議をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。</p> <p>また、とりわけ、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限值、管理レベルおよび頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある状況の場合は、関連する運用部署に是正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用部署は、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。なお、投資信託協会の流動性リスク管理規制に抵触する場合には、流動性リスクを管理する会議で審議の上、流動性リスクの管理責任者が対処方針を決定します。その後、決定した対処方針やその実施等について、リスク管理会議に報告を行う体制となっております。</p> <p>なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド（外部ファンド）を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する会議にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。</p>
<p>4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明</p>	<p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって認める評価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等による場合、当該評価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。</p>

・金融商品の時価等に関する事項

項目	第22期 (2022年3月7日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	<p>(1) 有価証券（親投資信託受益証券） 「重要な会計方針の注記」に記載しております。</p> <p>(2) 派生商品評価勘定（デリバティブ取引） デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。</p>

	(3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。
--	---

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

第21期(自 2020年3月7日 至 2021年3月8日)

種 類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	349,136,004円
合計	349,136,004円

第22期(自 2021年3月9日 至 2022年3月7日)

種 類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	44,157,204円
合計	44,157,204円

(デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

第22期 自 2021年3月9日 至 2022年3月7日
市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。

(その他の注記)

項 目	第21期 (2021年3月8日現在)	第22期 (2022年3月7日現在)
期首元本額	1,884,941,604円	1,927,956,673円
期中追加設定元本額	190,066,722円	171,922,270円
期中一部解約元本額	147,051,653円	155,652,247円

(4)【附属明細表】

有価証券明細表

(a)株式

該当事項はありません。

(b)株式以外の有価証券

(単位：円)

種 類	銘 柄	券面総額	評価額	備考
-----	-----	------	-----	----

親投資信託 受益証券	国内株式マザーファンド(B 号)	585,977,128	1,034,132,435	
	国内債券マザーファンド(B 号)	881,982,335	1,246,241,039	
	外国株式マザーファンド(B 号)	161,709,068	535,014,451	
	外国債券マザーファンド(B 号)	115,909,191	333,030,287	
	親投資信託受益証券 小計		3,148,418,212	
合 計			3,148,418,212	

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【三井住友・年金プラン70】

(1) 【貸借対照表】

(単位:円)

	第21期 (2021年 3月 8日現在)	第22期 (2022年 3月 7日現在)
資産の部		
流動資産		
金銭信託	-	1,265,672
コール・ローン	26,768,112	59,698,259
親投資信託受益証券	2,055,439,289	2,187,252,023
未収入金	370,000	3,000,000
流動資産合計	2,082,577,401	2,251,215,954
資産合計	2,082,577,401	2,251,215,954
負債の部		
流動負債		
未払解約金	653,228	359,649
未払受託者報酬	861,895	1,046,916
未払委託者報酬	13,143,778	15,966,120
未払利息	64	-
その他未払費用	234,300	234,409
流動負債合計	14,893,265	17,607,094
負債合計	14,893,265	17,607,094
純資産の部		
元本等		
元本	1,263,272,134	1,321,332,797
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金()	804,412,002	912,276,063
(分配準備積立金)	550,385,904	540,623,244
元本等合計	2,067,684,136	2,233,608,860
純資産合計	2,067,684,136	2,233,608,860
負債純資産合計	2,082,577,401	2,251,215,954

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

	第21期		第22期	
	自	2020年 3月 7日 至 2021年 3月 8日	自	2021年 3月 9日 至 2022年 3月 7日
営業収益				
受取利息		-		211
有価証券売買等損益		371,800,602		94,902,734
営業収益合計		371,800,602		94,902,945
営業費用				
支払利息		8,112		11,344
受託者報酬		1,609,905		2,037,910
委託者報酬		24,550,855		31,078,648
その他費用		471,458		470,137
営業費用合計		26,640,330		33,598,039
営業利益又は営業損失()		345,160,272		61,304,906
経常利益又は経常損失()		345,160,272		61,304,906
当期純利益又は当期純損失()		345,160,272		61,304,906
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額()		14,141,103		18,286,995
期首剰余金又は期首欠損金()		436,020,904		804,412,002
剰余金増加額又は欠損金減少額		83,371,924		149,502,010
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		-		-
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		83,371,924		149,502,010
剰余金減少額又は欠損金増加額		45,999,995		84,655,860
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		45,999,995		84,655,860
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		-		-
分配金		-		-
期末剰余金又は期末欠損金()		804,412,002		912,276,063

(3)【注記表】

(重要な会計方針の注記)

項目	第22期	
	自 2021年3月9日 至 2022年3月7日	
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>親投資信託受益証券は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額(ただし、売気配相場は使用しない)、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>	
2. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>計算期間の取扱い 当計算期間は前期末および当期末が休日のため、2021年3月9日から2022年3月7日までとなっております。</p>	

(重要な会計上の見積りに関する注記)

会計上の見積りについて、翌計算期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクがある項目を識別していないため、注記を省略しております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	第21期	第22期
	(2021年3月8日現在)	(2022年3月7日現在)
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	1,263,272,134口	1,321,332,797口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 1.6368円 (1万口当たりの純資産額16,368円)	1口当たり純資産額 1.6904円 (1万口当たりの純資産額16,904円)

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

項目	第21期	第22期
	自 2020年3月7日 至 2021年3月8日	自 2021年3月9日 至 2022年3月7日

分配金の計算過程	計算期間末における費用控除後の配当等収益(24,993,654円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(217,681,710円)、収益調整金(342,295,847円)、および分配準備積立金(307,710,540円)より、分配対象収益は892,681,751円(1万口当たり7,066.39円)であります。分配を行っておりません。	計算期間末における費用控除後の配当等収益(18,562,830円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(24,455,081円)、収益調整金(436,502,835円)、および分配準備積立金(497,605,333円)より、分配対象収益は977,126,079円(1万口当たり7,395.00円)であります。分配を行っておりません。
----------	--	---

(金融商品に関する注記)

・金融商品の状況に関する事項

項目	第22期 自 2021年3月9日 至 2022年3月7日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、当ファンドの信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して、投資として運用することを目的としております。
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	<p>(1) 金融商品の内容</p> <p>1) 有価証券 当ファンドが投資対象とする有価証券は、信託約款で定められており、当計算期間については、親投資信託受益証券を組み入れております。</p> <p>2) デリバティブ取引 当ファンドが行うことのできるデリバティブ取引は、信託約款に基づいております。デリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資すること、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクの回避を目的としております。</p> <p>3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等</p> <p>(2) 金融商品に係るリスク 有価証券およびデリバティブ取引等 当ファンドが保有する金融商品にかかる主なリスクとしては、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクがあります。</p>

3. 金融商品に係るリスク管理体制	<p>リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングおよびファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理およびコンプライアンスに関する会議をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。</p> <p>また、とりわけ、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限值、管理レベルおよび頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある状況の場合は、関連する運用部署に是正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用部署は、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。なお、投資信託協会の流動性リスク管理規制に抵触する場合には、流動性リスクを管理する会議で審議の上、流動性リスクの管理責任者が対処方針を決定します。その後、決定した対処方針やその実施等について、リスク管理会議に報告を行う体制となっております。</p> <p>なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド（外部ファンド）を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する会議にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。</p>
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって認める評価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等による場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。</p>

・金融商品の時価等に関する事項

項目	第22期 (2022年3月7日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	<p>(1) 有価証券（親投資信託受益証券） 「重要な会計方針の注記」に記載しております。</p> <p>(2) 派生商品評価勘定（デリバティブ取引） デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。</p>

	(3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。
--	---

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

第21期(自 2020年3月7日 至 2021年3月8日)

種 類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	331,920,576円
合計	331,920,576円

第22期(自 2021年3月9日 至 2022年3月7日)

種 類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	45,422,336円
合計	45,422,336円

(デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

第22期 自 2021年3月9日 至 2022年3月7日
市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。

(その他の注記)

項 目	第21期 (2021年3月8日現在)	第22期 (2022年3月7日現在)
期首元本額	1,212,675,727円	1,263,272,134円
期中追加設定元本額	177,352,090円	188,973,127円
期中一部解約元本額	126,755,683円	130,912,464円

(4)【附属明細表】

有価証券明細表

(a)株式

該当事項はありません。

(b)株式以外の有価証券

(単位：円)

種 類	銘 柄	券面総額	評価額	備考
-----	-----	------	-----	----

親投資信託 受益証券	国内株式マザーファンド(B 号)	584,302,833	1,031,177,639	
	国内債券マザーファンド(B 号)	292,062,536	412,684,363	
	外国株式マザーファンド(B 号)	152,403,409	504,226,678	
	外国債券マザーファンド(B 号)	83,239,365	239,163,343	
	親投資信託受益証券 小計		2,187,252,023	
合 計			2,187,252,023	

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

(参考)

「三井住友・年金プラン30」、「三井住友・年金プラン50」および「三井住友・年金プラン70」は、「国内株式マザーファンド(B号)」、「国内債券マザーファンド(B号)」、「外国株式マザーファンド(B号)」および「外国債券マザーファンド(B号)」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同マザーファンドの受益証券です。

なお、以下に記載した状況は、監査の対象外です。

国内株式マザーファンド(B号)

(1) 貸借対照表

(単位:円)

	(2021年3月8日現在)	(2022年3月7日現在)
資産の部		
流動資産		
金銭信託	-	1,329,360
コール・ローン	58,302,518	62,702,229
株式	2,500,840,260	2,435,747,980
未収入金	93,958,818	15,458,856
未収配当金	2,949,700	3,034,000
流動資産合計	2,656,051,296	2,518,272,425
資産合計	2,656,051,296	2,518,272,425
負債の部		
流動負債		
未払金	94,066,986	14,370,708
未払利息	140	-
その他未払費用	-	126
流動負債合計	94,067,126	14,370,834
負債合計	94,067,126	14,370,834
純資産の部		
元本等		
元本	1,471,870,163	1,418,766,598
剰余金		

剰余金又は欠損金（ ）	1,090,114,007	1,085,134,993
元本等合計	2,561,984,170	2,503,901,591
純資産合計	2,561,984,170	2,503,901,591
負債純資産合計	2,656,051,296	2,518,272,425

(2) 注記表

(重要な会計方針の注記)

項 目	自 2021年3月9日 至 2022年3月7日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>株式は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>
2. 収益及び費用の計上基準	<p>受取配当金の計上基準</p> <p>受取配当金は原則として、配当落ち日において、確定配当金額または予想配当金額を計上しております。なお、配当金額が未確定の場合は、入金日基準で計上しております。</p>

(重要な会計上の見積りに関する注記)

会計上の見積りについて、翌計算期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクがある項目を識別していないため、注記を省略しております。

(貸借対照表に関する注記)

項 目	(2021年3月8日現在)	(2022年3月7日現在)
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	1,471,870,163口	1,418,766,598口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 1.7406円 (1万口当たりの純資産額17,406円)	1口当たり純資産額 1.7648円 (1万口当たりの純資産額17,648円)

(金融商品に関する注記)

. 金融商品の状況に関する事項

項 目	自 2021年3月9日 至 2022年3月7日

1. 金融商品に対する取組方針	<p>当ファンドは「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、当ファンドの信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して、投資として運用することを目的としております。</p>
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	<p>(1) 金融商品の内容</p> <p>1) 有価証券 当ファンドが投資対象とする有価証券は、信託約款で定められており、当計算期間については、株式を組み入れております。</p> <p>2) デリバティブ取引 当ファンドが行うことのできるデリバティブ取引は、信託約款に基づいております。デリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資すること、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクの回避を目的としております。</p> <p>3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等</p> <p>(2) 金融商品に係るリスク 有価証券およびデリバティブ取引等 当ファンドが保有する金融商品にかかる主なリスクとしては、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクがあります。</p>
3. 金融商品に係るリスク管理体制	<p>リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングおよびファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理およびコンプライアンスに関する会議をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。</p> <p>また、とりわけ、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限值、管理レベルおよび頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある状況の場合は、関連する運用部署に是正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用部署は、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。なお、投資信託協会の流動性リスク管理規制に抵触する場合には、流動性リスクを管理する会議で審議の上、流動性リスクの管理責任者が対処方針を決定します。その後、決定した対処方針やその実施等について、リスク管理会議に報告を行う体制となっております。</p> <p>なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド（外部ファンド）を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する会議にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。</p>

4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって認める評価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。
----------------------------	--

・金融商品の時価等に関する事項

項 目	(2022年3月7日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券(株式) 「重要な会計方針の注記」に記載しております。 (2) 派生商品評価勘定(デリバティブ取引) デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。 (3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

(デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

自 2021年3月9日 至 2022年3月7日
市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。

(その他の注記)

(2021年3月8日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	1,539,151,303円
同期中における追加設定元本額	465,280,158円
同期中における一部解約元本額	532,561,298円
2021年3月8日現在の元本の内訳	
三井住友・年金プラン30	276,322,734円
三井住友・年金プラン50	618,406,502円
三井住友・年金プラン70	577,140,927円
合 計	1,471,870,163円

(2022年3月7日現在)

開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	1,471,870,163円
同期中における追加設定元本額	240,352,353円
同期中における一部解約元本額	293,455,918円
2022年3月7日現在の元本の内訳	
三井住友・年金プラン30	248,486,637円
三井住友・年金プラン50	585,977,128円
三井住友・年金プラン70	584,302,833円
合計	1,418,766,598円

(3) 附属明細表

有価証券明細表

(a) 株式

(単位：円)

銘柄	株数	評価額		備考
		単価	金額	
INPEX	28,600	1,428.000	40,840,800	
ウエストホールディングス	7,800	4,380.000	34,164,000	
大和ハウス工業	9,800	3,104.000	30,419,200	
テスホールディングス	8,100	1,328.000	10,756,800	
サントリー食品インターナショナル	9,100	4,630.000	42,133,000	
キッコーマン	2,800	8,370.000	23,436,000	
キューピー	8,000	2,471.000	19,768,000	
信越化学工業	1,400	16,045.000	22,463,000	
住友ベークライト	4,500	4,400.000	19,800,000	
富士フイルムホールディングス	3,500	6,731.000	23,558,500	
ユニ・チャーム	6,600	3,980.000	26,268,000	
アステラス製薬	30,300	1,845.000	55,903,500	
中外製薬	10,600	3,639.000	38,573,400	
第一三共	8,900	2,457.500	21,871,750	
Eneosホールディングス	54,700	473.600	25,905,920	
ブリヂストン	4,900	4,263.000	20,888,700	
東海カーボン	8,900	1,085.000	9,656,500	
日本製鉄	13,100	2,110.500	27,647,550	
住友金属鉱山	5,400	6,340.000	34,236,000	
住友電気工業	15,400	1,299.500	20,012,300	
日本発条	29,000	784.000	22,736,000	
SMC	300	61,670.000	18,501,000	
小松製作所	8,600	2,642.500	22,725,500	
ダイキン工業	1,700	19,650.000	33,405,000	
日立造船	17,200	666.000	11,455,200	
イビデン	4,400	5,220.000	22,968,000	
日立製作所	5,800	4,953.000	28,727,400	
富士電機	8,600	5,400.000	46,440,000	
明電舎	5,600	2,070.000	11,592,000	

日本電産	1,900	9,165.000	17,413,500
ダイヘン	2,500	3,900.000	9,750,000
日本電気	4,700	4,775.000	22,442,500
ルネサスエレクトロニクス	23,500	1,199.000	28,176,500
ソニーグループ	5,800	11,110.000	64,438,000
T D K	8,000	4,070.000	32,560,000
メイコー	6,200	3,325.000	20,615,000
キーエンス	500	51,800.000	25,900,000
フェローテックホールディングス	5,000	2,032.000	10,160,000
三井ハイテック	2,900	7,270.000	21,083,000
S C R E E Nホールディングス	3,100	10,010.000	31,031,000
東京エレクトロン	700	51,930.000	36,351,000
デンソー	4,500	6,700.000	30,150,000
川崎重工業	5,000	2,038.000	10,190,000
日産自動車	31,400	464.400	14,582,160
いすゞ自動車	12,800	1,384.000	17,715,200
トヨタ自動車	50,700	1,845.000	93,541,500
本田技研工業	5,600	3,112.000	17,427,200
ヤマハ発動機	3,800	2,302.000	8,747,600
島津製作所	3,500	3,820.000	13,370,000
任天堂	900	57,220.000	51,498,000
九州電力	30,100	870.000	26,187,000
西日本旅客鉄道	4,500	4,721.000	21,244,500
東海旅客鉄道	1,600	15,150.000	24,240,000
京阪ホールディングス	6,800	2,850.000	19,380,000
N I P P O N E X P R E S Sホール ディングス	2,600	7,460.000	19,396,000
商船三井	7,100	11,200.000	79,520,000
コーエーテクモホールディングス	3,200	3,780.000	12,096,000
ネクソン	11,500	2,661.000	30,601,500
インターネットイニシアティブ	6,800	3,450.000	23,460,000
野村総合研究所	4,800	3,815.000	18,312,000
Zホールディングス	38,900	499.000	19,411,100
日本電信電話	29,100	3,377.000	98,270,700
東宝	6,500	4,730.000	30,745,000
エヌ・ティ・ティ・データ	15,800	2,093.000	33,069,400
ソフトバンクグループ	4,200	4,707.000	19,769,400
伊藤忠商事	12,700	3,983.000	50,584,100
丸紅	34,600	1,316.000	45,533,600
豊田通商	8,100	4,550.000	36,855,000
三井物産	8,200	3,072.000	25,190,400
あおぞら銀行	20,700	2,493.000	51,605,100
三菱U F Jフィナンシャル・グループ	111,500	678.900	75,697,350
三井住友トラスト・ホールディングス	7,600	3,930.000	29,868,000
S B Iホールディングス	6,300	2,853.000	17,973,900
野村ホールディングス	24,000	491.700	11,800,800
第一生命ホールディングス	25,300	2,236.000	56,570,800
東京海上ホールディングス	5,500	6,276.000	34,518,000

オリックス	21,100	2,142.500	45,206,750	
野村不動産ホールディングス	4,200	2,681.000	11,260,200	
オープンハウスグループ	5,700	4,905.000	27,958,500	
三井不動産	7,900	2,404.000	18,991,600	
ベネフィット・ワン	7,000	2,375.000	16,625,000	
オリエンタルランド	1,700	21,185.000	36,014,500	
リクルートホールディングス	5,100	4,666.000	23,796,600	
合 計	997,300		2,435,747,980	

(b)株式以外の有価証券

該当事項はありません。

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

国内債券マザーファンド(B号)

(1)貸借対照表

(単位:円)

	(2021年3月8日現在)	(2022年3月7日現在)
資産の部		
流動資産		
金銭信託	-	26,369,788
コール・ローン	368,119,587	1,243,790,027
国債証券	122,075,102,090	157,588,726,072
地方債証券	9,671,426,000	5,881,034,500
特殊債券	16,094,390,952	15,590,392,517
社債券	32,476,443,000	36,860,900,500
未収入金	1,758,555,600	900,550,000
未収利息	265,208,254	284,816,691
前払費用	43,752,986	37,638,040
流動資産合計	182,752,998,469	218,414,218,135
資産合計	182,752,998,469	218,414,218,135
負債の部		
流動負債		
未払金	1,300,000,000	996,400,000
未払解約金	248,627,702	22,059,260
未払利息	885	-
その他未払費用	-	4,556
流動負債合計	1,548,628,587	1,018,463,816
負債合計	1,548,628,587	1,018,463,816
純資産の部		
元本等		
元本	128,232,774,710	153,856,048,834
剰余金		
剰余金又は欠損金()	52,971,595,172	63,539,705,485
元本等合計	181,204,369,882	217,395,754,319
純資産合計	181,204,369,882	217,395,754,319

負債純資産合計

182,752,998,469

218,414,218,135

(2) 注記表

(重要な会計方針の注記)

項目	自 2021年3月9日 至 2022年3月7日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>国債証券、地方債証券、特殊債券、社債券は個別法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額(ただし、売気配相場は使用しない)、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>

(重要な会計上の見積りに関する注記)

会計上の見積りについて、翌計算期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクがある項目を識別していないため、注記を省略しております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	(2021年3月8日現在)	(2022年3月7日現在)
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	128,232,774,710口	153,856,048,834口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 1.4131円 (1万口当たりの純資産額14,131円)	1口当たり純資産額 1.4130円 (1万口当たりの純資産額14,130円)

(金融商品に関する注記)

. 金融商品の状況に関する事項

項目	自 2021年3月9日 至 2022年3月7日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、当ファンドの信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して、投資として運用することを目的としております。
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	<p>(1) 金融商品の内容</p> <p>1) 有価証券</p> <p>当ファンドが投資対象とする有価証券は、信託約款で定められており、当計算期間については、国債証券、地方債証券、特殊債券、社債券を組み入れております。</p>

	<p>2) デリバティブ取引</p> <p>当ファンドが行うことのできるデリバティブ取引は、信託約款に基づいております。デリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資すること、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクの回避を目的としております。</p> <p>3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等</p> <p>(2) 金融商品に係るリスク</p> <p>有価証券およびデリバティブ取引等</p> <p>当ファンドが保有する金融商品にかかる主なリスクとしては、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクがあります。</p>
<p>3. 金融商品に係るリスク管理体制</p>	<p>リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングおよびファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理およびコンプライアンスに関する会議をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。</p> <p>また、とりわけ、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限值、管理レベルおよび頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある状況の場合は、関連する運用部署に是正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用部署は、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。なお、投資信託協会の流動性リスク管理規制に抵触する場合には、流動性リスクを管理する会議で審議の上、流動性リスクの管理責任者が対処方針を決定します。その後、決定した対処方針やその実施等について、リスク管理会議に報告を行う体制となっております。</p> <p>なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド（外部ファンド）を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する会議にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。</p>
<p>4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明</p>	<p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって認める評価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等による場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。</p>

・金融商品の時価等に関する事項

項目	(2022年3月7日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券（国債証券、地方債証券、特殊債券、社債券） 「重要な会計方針の注記」に記載しております。 (2) 派生商品評価勘定（デリバティブ取引） デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。 (3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

(デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

自 2021年3月9日 至 2022年3月7日
市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。

(その他の注記)

(2021年3月8日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	149,614,489,690円
同期中における追加設定元本額	18,568,804,996円
同期中における一部解約元本額	39,950,519,976円
2021年3月8日現在の元本の内訳	
三井住友・年金プラン30	891,014,096円
三井住友・年金プラン50	822,168,884円
三井住友・年金プラン70	250,153,238円
三井住友・DCバランスファンド(安定型)	96,467,588円
三井住友・DCバランスファンド(安定成長型)	165,520,924円
三井住友・DCバランスファンド(成長型)	51,945,681円
三井住友・DC国内債券アクティブ	314,303,673円
三井住友・日本債券年金ファンド	4,545,063,340円
S M A M・年金国内債券アクティブファンド(適格機関投資家専用)	3,022,344,533円
S M A M・バランスファンドVA安定型(適格機関投資家専用)	153,992,661円
S M A M・バランスファンドVA株40型(適格機関投資家専用)	1,384,810円
S M A M・バランスファンドVA株60型(適格機関投資家専用)	289,029円
S M A M・バランスファンドVA株80型(適格機関投資家専用)	150,882円
バランスファンドVA(安定運用型) < 適格機関投資家限定 >	108,011,419円

三井住友 / F O F s 用日本債 F (適格機関投資家限定)	117,809,963,952円
合 計	128,232,774,710円

(2022年3月7日現在)

開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	128,232,774,710円
同期中における追加設定元本額	31,083,220,760円
同期中における一部解約元本額	5,459,946,636円
2022年3月7日現在の元本の内訳	
三井住友・年金プラン30	943,975,063円
三井住友・年金プラン50	881,982,335円
三井住友・年金プラン70	292,062,536円
三井住友・DCバランスファンド(安定型)	111,336,775円
三井住友・DCバランスファンド(安定成長型)	211,836,590円
三井住友・DCバランスファンド(成長型)	69,292,300円
三井住友・DC国内債券アクティブ	312,775,597円
三井住友・日本債券年金ファンド	4,564,824,495円
S M A M ・年金国内債券アクティブファンド(適格機関投資家専用)	2,659,218,767円
S M A M ・バランスファンドVA安定型(適格機関投資家専用)	126,690,065円
S M A M ・バランスファンドVA株40型(適格機関投資家専用)	1,278,339円
S M A M ・バランスファンドVA株60型(適格機関投資家専用)	358,057円
S M A M ・バランスファンドVA株80型(適格機関投資家専用)	152,022円
バランスファンドVA(安定運用型) < 適格機関投資家限定 >	77,060,020円
三井住友 / F O F s 用日本債 F (適格機関投資家限定)	143,603,205,873円
合 計	153,856,048,834円

(3) 附属明細表

有価証券明細表

(a) 株式

該当事項はありません。

(b) 株式以外の有価証券

(単位 : 円)

種 類	銘 柄	券面総額	評価額	備考
国債証券	4 2 3 2年国債	25,000,000	25,024,000	
	4 2 6 2年国債	400,000,000	400,420,000	
	4 2 9 2年国債	5,200,000,000	5,206,500,000	
	4 3 0 2年国債	1,700,000,000	1,702,108,000	
	4 3 1 2年国債	400,000,000	400,484,000	
	4 3 3 2年国債	15,200,000,000	15,218,696,000	
	4 3 4 2年国債	6,400,000,000	6,407,552,000	
	1 4 9 5年国債	12,450,000,000	12,464,068,500	
	1 5 0 5年国債	7,200,000,000	7,206,840,000	
	1 0 40年国債	30,000,000	30,611,400	
	1 1 40年国債	400,000,000	395,572,000	
	1 4 40年国債	1,300,000,000	1,237,405,000	

330	10年国債	1,470,000,000	1,489,668,600	
353	10年国債	3,700,000,000	3,727,639,000	
354	10年国債	17,250,000,000	17,383,515,000	
358	10年国債	3,020,000,000	3,036,912,000	
360	10年国債	10,000,000	10,033,900	
361	10年国債	130,000,000	130,283,400	
363	10年国債	1,450,000,000	1,449,333,000	
365	10年国債	6,620,000,000	6,594,380,600	
20	30年国債	600,000,000	771,714,000	
30	30年国債	510,000,000	658,741,500	
42	30年国債	770,000,000	934,826,200	
45	30年国債	2,900,000,000	3,406,108,000	
46	30年国債	1,130,000,000	1,327,738,700	
48	30年国債	2,220,000,000	2,562,501,600	
52	30年国債	210,000,000	199,739,400	
55	30年国債	500,000,000	507,470,000	
59	30年国債	2,150,000,000	2,114,783,000	
60	30年国債	1,490,000,000	1,534,357,300	
61	30年国債	150,000,000	146,853,000	
64	30年国債	880,000,000	791,630,400	
67	30年国債	3,580,000,000	3,391,369,800	
70	30年国債	1,600,000,000	1,553,152,000	
71	30年国債	1,170,000,000	1,135,496,700	
72	30年国債	2,000,000,000	1,940,620,000	
73	30年国債	3,400,000,000	3,298,374,000	
132	20年国債	1,280,000,000	1,474,188,800	
134	20年国債	700,000,000	814,961,000	
135	20年国債	600,000,000	692,604,000	
138	20年国債	330,000,000	374,932,800	
142	20年国債	630,000,000	737,597,700	
145	20年国債	2,760,000,000	3,213,330,000	
147	20年国債	1,940,000,000	2,243,687,600	
148	20年国債	400,000,000	458,404,000	
149	20年国債	3,360,000,000	3,855,969,600	
151	20年国債	170,000,000	189,072,300	
153	20年国債	1,130,000,000	1,272,730,300	
154	20年国債	1,260,000,000	1,403,854,200	
158	20年国債	2,120,000,000	2,153,559,600	
160	20年国債	3,900,000,000	4,063,020,000	
163	20年国債	2,150,000,000	2,199,149,000	
164	20年国債	2,710,000,000	2,726,178,700	
165	20年国債	3,750,000,000	3,764,137,500	
166	20年国債	720,000,000	744,264,000	
167	20年国債	1,730,000,000	1,730,000,000	
168	20年国債	1,000,000,000	981,990,000	

	170 20年国債	2,550,000,000	2,449,989,000	
	173 20年国債	250,000,000	242,960,000	
	178 20年国債	2,450,000,000	2,405,042,500	
	179 20年国債	4,650,000,000	4,559,650,500	
	24 物価連動国債	1,920,000,000	2,044,930,972	
	国債証券 小計		157,588,726,072	
地方債証券	720 東京都公債	400,000,000	404,330,000	
	759 東京都公債	100,000,000	99,928,200	
	763 東京都公債	100,000,000	100,308,200	
	6 東京都20年	600,000,000	634,854,000	
	14 東京都20年	500,000,000	566,407,000	
	28-3 埼玉県公債	200,000,000	199,907,400	
	28-10 埼玉県公債	100,000,000	100,679,700	
	4 埼玉県20年	400,000,000	446,154,000	
	128 共同発行地方	300,000,000	303,078,900	
	154 共同発行地方	600,000,000	607,314,000	
	155 共同発行地方	900,000,000	904,566,600	
	29-4 横浜市公債	1,000,000,000	1,007,547,000	
	86 川崎市公債	500,000,000	505,959,500	
	地方債証券 小計		5,881,034,500	
特殊債券	2 地方公営20年	250,000,000	287,996,000	
	9 地方公共団20年	800,000,000	916,819,200	
	F77 地方公共団体	100,000,000	106,524,400	
	F80 地方公共団体	400,000,000	440,220,000	
	F116 地方公共団体	100,000,000	107,060,800	
	F134 地方公共団体	200,000,000	214,748,200	
	F143 地方公共団体	500,000,000	533,926,000	
	F163 地方公共団体	100,000,000	105,637,200	
	F172 地方公共団体	300,000,000	313,376,100	
	53 地方公共団体	1,500,000,000	1,516,771,500	
	2 地方公共団15年	500,000,000	534,405,000	
	F225 地方公共団体	100,000,000	105,833,000	
	F226 地方公共団体	100,000,000	106,572,200	
	67 地方公共団体	800,000,000	809,654,400	
	71 政保地方公共団	214,000,000	216,507,010	
	73 政保地方公共団	201,000,000	204,026,256	
	75 政保地方公共団	303,000,000	307,323,204	
	F303 地方公共団体	100,000,000	103,886,800	
	F306 地方公共団体	300,000,000	308,741,100	
	91 地方公共団体	400,000,000	401,024,400	
	20 公営企業20年	400,000,000	443,280,400	
	24 公営企業20年	200,000,000	226,441,800	
	68 都市再生	150,000,000	150,654,750	
	S9 住宅金融R M B S	31,623,000	31,967,690	
	S4 住宅機構R M B S	83,811,000	85,788,939	

3	住宅機構R M B S	57,315,000	58,455,568	
6	住宅機構R M B S	10,905,000	11,014,050	
7	住宅機構R M B S	12,075,000	12,381,705	
4 6	住宅機構R M B S	43,948,000	46,404,693	
4 8	住宅機構R M B S	41,566,000	43,781,467	
5 0	住宅機構R M B S	22,225,000	23,285,132	
5 7	住宅機構R M B S	31,190,000	32,693,358	
5 9	住宅機構R M B S	34,648,000	36,539,780	
7 1	住宅機構R M B S	34,634,000	35,811,556	
8 8	住宅機構R M B S	89,712,000	92,466,158	
9 0	住宅機構R M B S	47,705,000	49,021,658	
9 1	住宅機構R M B S	48,888,000	50,154,199	
1 2 3	住宅機構R M B S	79,597,000	79,565,161	
1 2 7	住宅機構R M B S	81,358,000	80,926,802	
1 2 8	住宅機構R M B S	80,334,000	80,044,797	
1 2 9	住宅機構R M B S	164,082,000	163,901,509	
1 3 0	住宅機構R M B S	408,290,000	406,738,498	
1 3 3	住宅機構R M B S	330,740,000	329,350,892	
1 3 4	住宅機構R M B S	83,288,000	82,630,024	
1 3 5	住宅機構R M B S	83,633,000	82,938,846	
1 3 6	住宅機構R M B S	84,355,000	84,042,886	
1 3 9	住宅機構R M B S	84,346,000	84,152,004	
1 4 0	住宅機構R M B S	847,130,000	839,675,256	
1 4 1	住宅機構R M B S	859,700,000	849,899,420	
1 4 2	住宅機構R M B S	261,006,000	257,456,318	
1 4 3	住宅機構R M B S	174,648,000	172,045,744	
1 4 6	住宅機構R M B S	532,968,000	521,136,110	
1 4 7	住宅機構R M B S	443,250,000	433,321,200	
1 4 8	住宅機構R M B S	895,680,000	872,750,592	
1 5 2	住宅機構R M B S	456,090,000	450,799,356	
1 5 3	住宅機構R M B S	182,612,000	180,402,394	
1 5 4	住宅機構R M B S	276,159,000	272,099,462	
1 6 4	住宅機構R M B S	96,078,000	95,059,573	
1 7 8	住宅機構R M B S	100,000,000	100,260,000	
	特殊債券 小計		15,590,392,517	
社債券	9 クレディ・アグリコルFR	1,000,000,000	998,240,000	
	6 5 西日本高速道	500,000,000	499,374,500	
	AFL 0.844 04/14/33	400,000,000	398,592,000	
	1 6 長谷工コ - ポ	300,000,000	300,178,800	
	1 1 西松建設	500,000,000	500,390,500	
	1 2 西松建設	400,000,000	400,536,800	
	8 戸田建設	100,000,000	99,176,200	
	1 大和ハウス劣FR	1,100,000,000	1,098,504,000	
	1 アサヒグループHD劣FR	1,300,000,000	1,312,350,000	
	1 6 アサヒグループHD	100,000,000	99,594,400	

2	サントリーHD劣後FR	600,000,000	599,856,000	
5	サントリー食品	300,000,000	299,126,100	
1	東急不動産劣FR	400,000,000	405,304,000	
2	東急不動産劣FR	500,000,000	513,835,000	
15	セブンアンドアイ	300,000,000	301,580,400	
	BNP FL 05/20/27	1,000,000,000	998,810,000	
35	昭和電工	2,000,000,000	1,994,100,000	
24	三菱ケミカルホールデイ	400,000,000	403,441,600	
41	三菱ケミカルHD	100,000,000	99,702,200	
7	野村総合研究所	1,500,000,000	1,498,071,000	
1	武田薬品劣後FR	1,000,000,000	1,027,200,000	
48	DIC	200,000,000	199,319,000	
19	ZHD	600,000,000	598,057,200	
20	ZHD	100,000,000	99,561,000	
1	パナソニック 劣後FR	700,000,000	700,882,000	
2	パナソニック 劣後FR	700,000,000	701,204,000	
3	パナソニック 劣後FR	1,700,000,000	1,692,996,000	
18	JA三井リース	100,000,000	99,802,500	
19	JA三井リース	400,000,000	398,325,600	
31	いすゞ自動車	300,000,000	300,000,000	
27	トヨタ自動車	1,200,000,000	1,194,583,200	
4	豊田合成	100,000,000	100,090,800	
1	明治安田2019基	1,000,000,000	990,910,000	
1	明治安田1劣ローン	1,000,000,000	998,250,000	
1	丸紅 劣後FR	1,000,000,000	1,010,550,000	
7	三菱商事劣後FR	700,000,000	697,781,000	
31	芙蓉総合リース	100,000,000	99,480,300	
34	東京センチュリー	600,000,000	597,394,200	
69	ホンダファイナンス	400,000,000	398,859,200	
70	ホンダファイナンス	500,000,000	498,520,000	
78	アコム	700,000,000	702,604,000	
79	アコム	700,000,000	700,664,300	
80	アコム	200,000,000	199,970,000	
29	オリエントコーポレーション	100,000,000	99,877,600	
3	野村HD劣後FR	900,000,000	908,685,000	
5	三菱地所劣後FR	400,000,000	398,280,000	
57	東京地下鉄	200,000,000	206,699,400	
28	KDDI	200,000,000	201,727,000	
13	ソフトバンク	600,000,000	591,946,200	
536	関西電力	200,000,000	199,915,400	
1	関西電力劣後FR	500,000,000	500,000,000	
3	関西電力劣後FR	100,000,000	100,000,000	
1	中国電力劣後FR	400,000,000	390,796,000	
536	東北電力	500,000,000	492,582,000	
3	九州電力劣後FR	500,000,000	509,870,000	

494	九州電力	200,000,000	197,619,600	
73	電源開発	500,000,000	496,932,000	
41	東京電力パワー	300,000,000	302,738,400	
47	東京電力PG	300,000,000	298,352,400	
48	東京電力PG	200,000,000	197,183,800	
2	JERA	800,000,000	802,412,800	
1	東京電力RP	100,000,000	99,572,100	
1	大阪瓦斯 劣FR	600,000,000	597,918,000	
2	大阪瓦斯 劣FR	400,000,000	397,056,000	
2	日鉄住金物産	600,000,000	595,194,000	
BRK 0.437	04/15/31	500,000,000	487,775,000	
PLD 0.885	06/27/36	1,000,000,000	960,000,000	
	社債券 小計		36,860,900,500	
	合計		215,921,053,589	

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

外国株式マザーファンド(B号)

(1) 貸借対照表

(単位:円)

	(2021年3月8日現在)	(2022年3月7日現在)
資産の部		
流動資産		
預金	2,762,953	3,486,029
金銭信託	-	393,400
コール・ローン	17,420,074	18,555,570
株式	1,266,842,116	1,233,989,971
未収配当金	1,509,563	1,036,569
流動資産合計	1,288,534,706	1,257,461,539
資産合計	1,288,534,706	1,257,461,539
負債の部		
流動負債		
未払利息	41	-
その他未払費用	-	44
流動負債合計	41	44
負債合計	41	44
純資産の部		
元本等		
元本	452,002,050	380,072,102
剰余金		
剰余金又は欠損金()	836,532,615	877,389,393
元本等合計	1,288,534,665	1,257,461,495
純資産合計	1,288,534,665	1,257,461,495
負債純資産合計	1,288,534,706	1,257,461,539

(2) 注記表

(重要な会計方針の注記)

項目	自 2021年3月9日 至 2022年3月7日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>株式は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	<p>為替予約取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として、わが国における対顧客先物相場の仲値によっております。</p>
3. 収益及び費用の計上基準	<p>受取配当金の計上基準 受取配当金は原則として、配当落ち日において、確定配当金額または予想配当金額を計上しております。なお、配当金額が未確定の場合は、入金日基準で計上しております。</p>
4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>外貨建資産等の会計処理 「投資信託財産の計算に関する規則」第60条および第61条に基づいて処理しております。</p>

(重要な会計上の見積りに関する注記)

会計上の見積りについて、翌計算期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクがある項目を識別していないため、注記を省略しております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	(2021年3月8日現在)	(2022年3月7日現在)
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	452,002,050口	380,072,102口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 2.8507円 (1万口当たりの純資産額28,507円)	1口当たり純資産額 3.3085円 (1万口当たりの純資産額33,085円)

(金融商品に関する注記)

・金融商品の状況に関する事項

項目	自 2021年3月9日 至 2022年3月7日

1. 金融商品に対する取組方針	<p>当ファンドは「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、当ファンドの信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して、投資として運用することを目的としております。</p>
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	<p>(1) 金融商品の内容</p> <p>1) 有価証券 当ファンドが投資対象とする有価証券は、信託約款で定められており、当計算期間については、株式を組み入れております。</p> <p>2) デリバティブ取引 当ファンドが行うことのできるデリバティブ取引は、信託約款に基づいております。デリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資すること、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクの回避を目的としております。 当計算期間については、為替予約取引を行っております。</p> <p>3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等</p> <p>(2) 金融商品に係るリスク 有価証券およびデリバティブ取引等 当ファンドが保有する金融商品にかかる主なリスクとしては、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクがあります。</p>
3. 金融商品に係るリスク管理体制	<p>リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングおよびファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理およびコンプライアンスに関する会議をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。</p> <p>また、とりわけ、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限值、管理レベルおよび頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある状況の場合は、関連する運用部署に是正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用部署は、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。なお、投資信託協会の流動性リスク管理規制に抵触する場合には、流動性リスクを管理する会議で審議の上、流動性リスクの管理責任者が対処方針を決定します。その後、決定した対処方針やその実施等について、リスク管理会議に報告を行う体制となっております。</p> <p>なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド（外部ファンド）を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する会議にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。</p>

4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって認める評価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。
----------------------------	--

. 金融商品の時価等に関する事項

項 目	(2022年3月7日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券(株式) 「重要な会計方針の注記」に記載しております。 (2) 派生商品評価勘定(デリバティブ取引) デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。 (3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

(デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

自 2021年3月9日 至 2022年3月7日
市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。

(その他の注記)

(2021年3月8日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	486,602,934円
同期中における追加設定元本額	258,809,811円
同期中における一部解約元本額	293,410,695円
2021年3月8日現在の元本の内訳	
三井住友・年金プラン30	85,147,801円
三井住友・年金プラン50	195,340,116円
三井住友・年金プラン70	171,514,133円
合 計	452,002,050円

(2022年3月7日現在)

開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	452,002,050円
同期中における追加設定元本額	141,042,770円
同期中における一部解約元本額	212,972,718円
2022年3月7日現在の元本の内訳	
三井住友・年金プラン30	65,959,625円
三井住友・年金プラン50	161,709,068円
三井住友・年金プラン70	152,403,409円
合計	380,072,102円

(3) 附属明細表

有価証券明細表

(a) 株式

通貨	銘柄	株数	評価額		備考
			単価	金額	
アメリカ・ドル	EOG RESOURCES INC	1,894	118.750	224,912.50	
	AVERY DENNISON CORP	572	167.590	95,861.48	
	CROWN HOLDINGS INC	849	124.320	105,547.68	
	SHERWIN-WILLIAMS CO/THE	222	258.490	57,384.78	
	ROCKWELL AUTOMATION INC	527	269.060	141,794.62	
	TREX COMPANY INC	791	74.680	59,071.88	
	CINTAS CORP	262	378.950	99,284.90	
	COSTAR GROUP INC	1,055	57.920	61,105.60	
	UNION PACIFIC CORP	657	264.630	173,861.91	
	UNITED PARCEL SERVICE-CL B	519	210.390	109,192.41	
	APTIV PLC	539	105.870	57,063.93	
	LULULEMON ATHLETICA INC	267	320.580	85,594.86	
	NIKE INC -CL B	770	131.180	101,008.60	
	YETI HOLDINGS INC	1,843	60.310	111,151.33	
	DOLLAR GENERAL CORP	419	210.980	88,400.62	
	HOME DEPOT INC	630	324.260	204,283.80	
	LITHIA MOTORS INC	295	335.490	98,969.55	
	O'REILLY AUTOMOTIVE INC	223	674.090	150,322.07	
	COSTCO WHOLESALE CORP	307	525.500	161,328.50	
	ESTEE LAUDER COMPANIES-CL A	422	285.690	120,561.18	
	EDWARDS LIFESCIENCES CORP	997	110.640	110,308.08	
	IDEXX LABORATORIES INC	255	535.710	136,606.05	
	INTUITIVE SURGICAL INC	421	302.280	127,259.88	
	STRYKER CORP	611	267.100	163,198.10	
UNITEDHEALTH GROUP INC	259	498.650	129,150.35		
ELI LILLY & CO	721	262.870	189,529.27		

	IQVIA HOLDINGS INC	640	227.000	145,280.00	
	THERMO FISHER SCIENTIFIC INC	357	547.320	195,393.24	
	ZOETIS INC	702	196.840	138,181.68	
	BANK OF AMERICA CORP	3,441	40.950	140,908.95	
	JPMORGAN CHASE & CO	1,126	134.400	151,334.40	
	SVB FINANCIAL GROUP	208	543.120	112,968.96	
	AMERICAN EXPRESS CO	519	172.950	89,761.05	
	LPL FINANCIAL HOLDINGS INC	741	157.110	116,418.51	
	MSCI INC	240	497.780	119,467.20	
	OPEN LENDING CORP - CL A	1,480	18.460	27,320.80	
	S&P GLOBAL INC	291	407.550	118,597.05	
	TRADEWEB MARKETS INC-CLASS A	1,624	87.460	142,035.04	
	MARSH & MCLENNAN COS	860	156.490	134,581.40	
	ACCENTURE PLC-CL A	631	314.160	198,234.96	
	ADOBE INC	378	452.130	170,905.14	
	ANSYS INC	527	311.370	164,091.99	
	BLOCK INC	575	106.520	61,249.00	
	FORTINET INC	695	335.460	233,144.70	
	INTUIT INC	370	464.950	172,031.50	
	MICROSOFT CORP	900	289.860	260,874.00	
	PAYPAL HOLDINGS INC	723	99.910	72,234.93	
	SERVICENOW INC	317	547.070	173,421.19	
	SYNOPSYS INC	566	309.060	174,927.96	
	VISA INC-CLASS A SHARES	909	200.290	182,063.61	
	KEYSIGHT TECHNOLOGIES IN	832	151.670	126,189.44	
	TRIMBLE INC	925	66.480	61,494.00	
	ANALOG DEVICES INC	653	156.850	102,423.05	
	ENPHASE ENERGY INC	543	158.150	85,875.45	
	ENTEGRIS INC	1,856	116.310	215,871.36	
	NVIDIA CORP	1,558	229.360	357,342.88	
	TEXAS INSTRUMENTS INC	408	169.980	69,351.84	
	NEXTERA ENERGY INC	1,138	80.210	91,278.98	
	ALPHABET INC-CL A	209	2,638.130	551,369.17	
	MATCH GROUP INC	1,122	96.590	108,373.98	
	META PLATFORMS INC-CLASS A	500	200.060	100,030.00	
	NETFLIX INC	168	361.730	60,770.64	
	アメリカ・ドル小計	45,059		8,588,551.98 (987,855,249)	
香港・ドル	TECHTRONIC INDUSTRIES CO LTD	8,000	129.700	1,037,600.00	
	HONG KONG EXCHANGES & CLEAR	1,300	355.800	462,540.00	

	AIA GROUP LTD	13,400	79.400	1,063,960.00	
香港・ドル小計		22,700		2,564,100.00 (37,743,552)	
イギリス・ポンド	ASHTEAD GROUP PLC	804	45.930	36,927.72	
	COMPASS GROUP PLC	2,972	15.595	46,348.34	
	ASTRAZENECA PLC	1,324	86.790	114,909.96	
イギリス・ポンド小計		5,100		198,186.02 (30,112,384)	
スイス・フラン	SIKA AG-REG	340	290.000	98,600.00	
	NESTLE SA-REG	827	115.900	95,849.30	
	LONZA GROUP AG-REG	189	608.000	114,912.00	
	PARTNERS GROUP HOLDING AG	68	1,084.000	73,712.00	
スイス・フラン小計		1,424		383,073.30 (47,899,485)	
ユーロ	TOTALENERGIES SE	1,345	44.500	59,852.50	
	AIR LIQUIDE SA	520	143.240	74,484.80	
	KONINKLIJKE DSM NV	449	160.450	72,042.05	
	SCHNEIDER ELECTRIC SE	968	129.620	125,472.16	
	SIEMENS GAMESA RENEWABLE ENE	3,641	16.985	61,842.38	
	TELEPERFORMANCE	375	325.900	122,212.50	
	FERRARI NV	287	180.600	51,832.20	
	LVMH MOET HENNESSY LOUIS VUI	125	577.800	72,225.00	
	HELLOFRESH SE	1,565	37.580	58,812.70	
	KERRY GROUP PLC-A	825	99.420	82,021.50	
	L'OREAL	133	336.400	44,741.20	
	BAWAG GROUP AG	1,996	44.180	88,183.28	
	ASML HOLDING NV	122	533.600	65,099.20	
	IBERDROLA SA	7,148	8.960	64,046.08	
ユーロ小計		19,499		1,042,867.55 (130,379,301)	
合 計		93,782		1,233,989,971 (1,233,989,971)	

(注) 金額欄の()内は、外貨建有価証券にかかるものの内書きであり、また邦貨換算金額で表示しております。

通貨	銘柄数		組入株式時価比率	合計金額に対する比率
アメリカ・ドル	株式	62銘柄	78.6%	80.1%
香港・ドル	株式	3銘柄	3.0%	3.1%
イギリス・ポンド	株式	3銘柄	2.4%	2.4%
スイス・フラン	株式	4銘柄	3.8%	3.9%
ユーロ	株式	14銘柄	10.4%	10.6%

(b)株式以外の有価証券

該当事項はありません。

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

外国債券マザーファンド（B号）

（1）貸借対照表

（単位：円）

	（2021年3月8日現在）	（2022年3月7日現在）
資産の部		
流動資産		
預金	-	5,355,348
金銭信託	-	42,692
コール・ローン	7,378,292	2,013,656
国債証券	782,438,032	829,338,886
地方債証券	6,867,179	4,443,879
派生商品評価勘定	632,433	179,025
未収入金	4,952,445	289,562
未収利息	4,371,727	3,690,626
前払費用	483,271	911,272
流動資産合計	807,123,379	846,264,946
資産合計	807,123,379	846,264,946
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	453,902	513,525
未払金	2,269,129	396,425
未払利息	17	-
流動負債合計	2,723,048	909,950
負債合計	2,723,048	909,950
純資産の部		
元本等		
元本	280,289,940	294,217,252
剰余金		
剰余金又は欠損金（ ）	524,110,391	551,137,744
元本等合計	804,400,331	845,354,996
純資産合計	804,400,331	845,354,996
負債純資産合計	807,123,379	846,264,946

（2）注記表

（重要な会計方針の注記）

項 目	自 2021年3月9日 至 2022年3月7日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	国債証券、地方債証券は個別法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。

	<p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額(ただし、売気配相場は使用しない)、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	<p>為替予約取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として、わが国における対顧客先物相場の仲値によっております。</p>
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>外貨建資産等の会計処理 「投資信託財産の計算に関する規則」第60条および第61条に基づいて処理しております。</p>

(重要な会計上の見積りに関する注記)

会計上の見積りについて、翌計算期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクがある項目を識別していないため、注記を省略しております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	(2021年3月8日現在)	(2022年3月7日現在)
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	280,289,940口	294,217,252口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 2.8699円 (1万口当たりの純資産額28,699円)	1口当たり純資産額 2.8732円 (1万口当たりの純資産額28,732円)

(金融商品に関する注記)

. 金融商品の状況に関する事項

項目	自 2021年3月9日 至 2022年3月7日
1. 金融商品に対する取組方針	<p>当ファンドは「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、当ファンドの信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して、投資として運用することを目的としております。</p>
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	<p>(1) 金融商品の内容 1) 有価証券 当ファンドが投資対象とする有価証券は、信託約款で定められており、当計算期間については、国債証券、地方債証券を組み入れております。</p>

	<p>2) デリバティブ取引</p> <p>当ファンドが行うことのできるデリバティブ取引は、信託約款に基づいております。デリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資すること、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクの回避を目的としております。</p> <p>当計算期間については、為替予約取引を行っております。</p> <p>3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等</p> <p>(2) 金融商品に係るリスク</p> <p>有価証券およびデリバティブ取引等</p> <p>当ファンドが保有する金融商品にかかる主なリスクとしては、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクがあります。</p>
<p>3. 金融商品に係るリスク管理体制</p>	<p>リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングおよびファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理およびコンプライアンスに関する会議をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。</p> <p>また、とりわけ、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限值、管理レベルおよび頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある状況の場合は、関連する運用部署に是正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用部署は、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。なお、投資信託協会の流動性リスク管理規制に抵触する場合には、流動性リスクを管理する会議で審議の上、流動性リスクの管理責任者が対処方針を決定します。その後、決定した対処方針やその実施等について、リスク管理会議に報告を行う体制となっております。</p> <p>なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド（外部ファンド）を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する会議にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。</p>
<p>4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明</p>	<p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって認める評価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。</p>

金融商品の時価等に関する事項

項目	(2022年3月7日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券(国債証券、地方債証券) 「重要な会計方針の注記」に記載しております。 (2) 派生商品評価勘定(デリバティブ取引) デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。 (3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

(デリバティブ取引に関する注記)

(2021年3月8日現在)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(単位:円)

区分	種類	契約額等		時価	評価損益
			うち 1年超		
市場取引 以外の取引	為替予約取引 買建				
	アメリカ・ドル	15,713,263	-	16,252,500	539,237
	デンマーク・クローネ	3,906,504	-	3,999,700	93,196
	小計	19,619,767	-	20,252,200	632,433
	売建				
	アメリカ・ドル	4,158,748	-	4,334,000	175,252
	ユーロ	16,529,050	-	16,807,700	278,650
	小計	20,687,798	-	21,141,700	453,902
合計		40,307,565	-	41,393,900	178,531

(2022年3月7日現在)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(単位:円)

区分	種類	契約額等		時価	評価損益
			うち 1年超		
	為替予約取引 買建				
	デンマーク・クローネ	3,797,864	-	3,696,572	101,292
	オフショア・人民元	9,513,400	-	9,624,747	111,347

市場取引 以外の取 引	小計	13,311,264	-	13,321,319	10,055
	売建				
	アメリカ・ドル	3,415,071	-	3,449,982	34,911
	オーストラリア・ド ル	7,277,224	-	7,650,432	373,208
	イギリス・ポンド	3,101,796	-	3,038,232	63,564
	小計	13,794,091	-	14,138,646	344,555
	合 計	27,105,355	-	27,459,965	334,500

(注) 1. 時価の算定方法

為替予約取引の時価の算定方法については以下のように評価しております。

- 1) 計算期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。

計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。

計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

- ・ 計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、発表されている対顧客先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの対顧客先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いております。
- ・ 計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い受渡日として、発表されている対顧客先物相場の仲値を用いております。

- 2) 計算期間末日において対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨については、計算期間末日の対顧客相場の仲値で評価しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

自 2021年3月9日 至 2022年3月7日
市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。

(その他の注記)

(2021年3月8日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	237,421,750円
同期中における追加設定元本額	148,919,370円
同期中における一部解約元本額	106,051,180円
2021年3月8日現在の元本の内訳	
三井住友・年金プラン30	77,290,951円
三井住友・年金プラン50	109,138,858円
三井住友・年金プラン70	72,630,027円
バランスファンドVA(安定運用型) <適格機関投資家限定>	21,230,104円
合 計	280,289,940円

(2022年3月7日現在)

開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	280,289,940円
同期中における追加設定元本額	268,490,781円
同期中における一部解約元本額	254,563,469円
2022年3月7日現在の元本の内訳	
三井住友・年金プラン30	79,815,929円
三井住友・年金プラン50	115,909,191円
三井住友・年金プラン70	83,239,365円
バランスファンドVA（安定運用型）＜適格機関投資家限定＞	15,252,767円
合計	294,217,252円

(3) 附属明細表

有価証券明細表

(a) 株式

該当事項はありません。

(b) 株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考		
国債証券	アメリカ・ドル	T 0.125 01/15/24	160,000.00	156,073.60			
		T 0.625 05/15/30	210,000.00	193,050.90			
		T 0.875 06/30/26	210,000.00	203,240.10			
		T 1.125 05/15/40	250,000.00	209,472.50			
		T 1.375 10/31/28	110,000.00	107,800.00			
		T 1.375 11/15/31	160,000.00	155,086.40			
		T 1.625 02/15/26	130,000.00	129,877.80			
		T 1.625 11/15/50	160,000.00	140,462.40			
		T 1.75 07/31/24	270,000.00	271,158.30			
		T 2.25 02/15/27	140,000.00	144,034.80			
		T 2.25 08/15/27	330,000.00	340,286.10			
		T 2.25 08/15/46	40,000.00	39,771.60			
		T 2.875 10/31/23	730,000.00	747,220.70			
		T 2.875 11/30/25	370,000.00	386,243.00			
		T 3 11/15/45	220,000.00	249,165.40			
		T 3.75 08/15/41	20,000.00	24,940.60			
		T 4.375 02/15/38	110,000.00	148,027.00			
			アメリカ・ドル小計		3,620,000.00	3,645,911.20 (419,352,706)	
		カナダ・ドル	カナダ・ドル	CAN 1 06/01/27	110,000.00	107,475.50	
CAN 2 12/01/51	30,000.00			30,306.90			
	カナダ・ドル小計		140,000.00	137,782.40 (12,444,506)			
オーストラリア・ドル	オーストラリア・ドル	ACGB 0.25 11/21/24	70,000.00	67,811.80			
		ACGB 1.75 06/21/51	10,000.00	8,044.80			
		ACGB 2.75 11/21/27	110,000.00	114,906.00			

	ACGB 4.5 04/21/33	40,000.00	49,197.20	
	オーストラリア・ドル小計	230,000.00	239,959.80 (20,398,983)	
シンガ ポール・ ドル	SIGB 2.875 07/01/29	70,000.00	75,075.00	
	シンガポール・ドル小計	70,000.00	75,075.00 (6,333,327)	
イギリ ス・ポン ド	UKT 0.25 07/31/31	30,000.00	27,547.20	
	UKT 1 04/22/24	50,000.00	49,950.00	
	UKT 1.5 07/22/47	30,000.00	30,220.80	
	UKT 1.75 09/07/37	100,000.00	104,466.00	
	UKT 3.25 01/22/44	80,000.00	106,610.40	
	UKT 4.5 12/07/42	10,000.00	15,455.70	
	イギリス・ポンド小計	300,000.00	334,250.10 (50,785,960)	
イスラエ ル・シュ ケル	ILGOV 2.25 09/28/28	100,000.00	104,248.00	
	イスラエル・シュケル小計	100,000.00	104,248.00 (3,656,029)	
ノル ウェー・ クローネ	NGB 3 03/14/24	120,000.00	123,309.60	
	ノルウェー・クローネ小計	120,000.00	123,309.60 (1,578,363)	
スウェー デン・ク ローナ	SGB 2.5 05/12/25	160,000.00	172,337.60	
	スウェーデン・クローナ小計	160,000.00	172,337.60 (1,993,946)	
ポーラ ンド・ズ ロチ	POLGB 0.75 04/25/25	110,000.00	98,769.00	
	POLGB 5.75 04/25/29	40,000.00	43,488.00	
	ポーランド・ズロチ小計	150,000.00	142,257.00 (3,600,340)	
ユーロ	BGB 4.25 03/28/41	40,000.00	63,476.00	
	DBR 0.25 02/15/27	120,000.00	124,240.80	
	DBR 0.25 08/15/28	50,000.00	51,905.00	
	DBR 2.5 08/15/46	100,000.00	161,132.00	
	FRTR 0 11/25/29	190,000.00	188,018.30	
	FRTR 0 11/25/30	70,000.00	68,480.30	
	FRTR 0 11/25/31	110,000.00	106,268.80	
	FRTR 0.5 05/25/25	150,000.00	154,492.50	
	FRTR 0.5 05/25/26	70,000.00	72,315.60	
	FRTR 1 05/25/27	150,000.00	159,084.00	

		FRTR 1.5 05/25/50	90,000.00	102,075.30	
		FRTR 3.25 05/25/45	90,000.00	135,279.00	
		FRTR 4 10/25/38	140,000.00	214,263.00	
		SPGB 0 01/31/26	70,000.00	69,769.00	
		SPGB 0 04/30/23	300,000.00	301,737.00	
		SPGB 1.25 10/31/30	140,000.00	146,347.60	
		SPGB 1.5 04/30/27	110,000.00	116,916.80	
		SPGB 1.6 04/30/25	130,000.00	137,082.40	
		SPGB 2.7 10/31/48	30,000.00	37,322.70	
		SPGB 4.7 07/30/41	40,000.00	62,956.00	
		ユーロ小計	2,190,000.00	2,473,162.10 (309,194,726)	
		国債証券合計		829,338,886 (829,338,886)	
地方債証券	カナダ・ドル	ONT 2.05 06/02/30	50,000.00	49,201.50	
		カナダ・ドル小計	50,000.00	49,201.50 (4,443,879)	
		地方債証券合計		4,443,879 (4,443,879)	
		合計		833,782,765 (833,782,765)	

(注) 金額欄の()内は、外貨建有価証券にかかるものの内書きであり、また邦貨換算金額で表示しております。

通貨	銘柄数	組入債券 時価比率	合計金額に 対する比率
アメリカ・ドル	国債証券 17銘柄	49.6%	50.3%
カナダ・ドル	国債証券 2銘柄	1.5%	1.5%
	地方債証券 1銘柄	0.5%	0.5%
オーストラリア・ドル	国債証券 4銘柄	2.4%	2.4%
シンガポール・ドル	国債証券 1銘柄	0.7%	0.8%
イギリス・ポンド	国債証券 6銘柄	6.0%	6.1%
イスラエル・シェケル	国債証券 1銘柄	0.4%	0.4%
ノルウェー・クローネ	国債証券 1銘柄	0.2%	0.2%
スウェーデン・クローナ	国債証券 1銘柄	0.2%	0.2%
ポーランド・ズロチ	国債証券 2銘柄	0.4%	0.4%
ユーロ	国債証券 20銘柄	36.6%	37.1%

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

「注記表(デリバティブ取引に関する注記)」に記載しております。

【中間財務諸表】

1. 当ファンドの中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号)ならびに同規則第38条の3、第57条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)に基づいて作成しております。
なお、中間財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
2. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第23期中間計算期間(2022年3月8日から2022年9月7日まで)の中間財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により中間監査を受けております。

【三井住友・年金プラン30】

(1) 【中間貸借対照表】

(単位:円)

	第22期 (2022年 3月 7日現在)	第23期中間計算期間 (2022年 9月 7日現在)
資産の部		
流動資産		
金銭信託	1,194,969	585,850
コール・ローン	56,363,398	16,745,671
親投資信託受益証券	2,219,920,526	2,309,120,213
未収入金	2,360,000	1,760,000
流動資産合計	2,279,838,893	2,328,211,734
資産合計	2,279,838,893	2,328,211,734
負債の部		
流動負債		
未払解約金	2,555,668	1,759,950
未払受託者報酬	1,022,075	1,023,128
未払委託者報酬	10,476,492	10,487,426
その他未払費用	146,396	146,368
流動負債合計	14,200,631	13,416,872
負債合計	14,200,631	13,416,872
純資産の部		
元本等		
元本	1,456,503,821	1,473,025,209
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金()	809,134,441	841,769,653
(分配準備積立金)	411,000,946	401,338,547
元本等合計	2,265,638,262	2,314,794,862
純資産合計	2,265,638,262	2,314,794,862
負債純資産合計	2,279,838,893	2,328,211,734

(2) 【中間損益及び剰余金計算書】

(単位 : 円)

	第22期中間計算期間 自 2021年 3月 9日 至 2021年 9月 8日	第23期中間計算期間 自 2022年 3月 8日 至 2022年 9月 7日
営業収益		
受取利息	-	95
有価証券売買等損益	158,449,177	34,399,687
営業収益合計	158,449,177	34,399,782
営業費用		
支払利息	4,474	3,155
受託者報酬	1,012,138	1,023,128
委託者報酬	10,374,353	10,487,426
その他費用	147,009	146,622
営業費用合計	11,537,974	11,660,331
営業利益又は営業損失()	146,911,203	22,739,451
経常利益又は経常損失()	146,911,203	22,739,451
中間純利益又は中間純損失()	146,911,203	22,739,451
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額()	2,644,890	676,473
期首剰余金又は期首欠損金()	771,238,726	809,134,441
剰余金増加額又は欠損金減少額	39,002,325	29,880,464
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	-
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	39,002,325	29,880,464
剰余金減少額又は欠損金増加額	31,842,470	19,308,230
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	31,842,470	19,308,230
中間追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	-
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金()	922,664,894	841,769,653

(3)【中間注記表】

(重要な会計方針の注記)

項目	第23期中間計算期間 自 2022年3月8日 至 2022年9月7日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>親投資信託受益証券は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額(ただし、売気配相場は使用しない)、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>
2. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>計算期間の取扱い 当中間計算期間は前期末が休日のため、2022年3月8日から2022年9月7日までとなっております。</p>

(中間貸借対照表に関する注記)

項目	第22期 (2022年3月7日現在)	第23期中間計算期間 (2022年9月7日現在)
1. 当中間計算期間の末日における受益権の総数	1,456,503,821口	1,473,025,209口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 1.5555円 (1万口当たりの純資産額15,555円)	1口当たり純資産額 1.5715円 (1万口当たりの純資産額15,715円)

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

該当事項はありません。

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

項目	第23期中間計算期間 (2022年9月7日現在)
1. 中間貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、中間貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	<p>(1) 有価証券(親投資信託受益証券) 「重要な会計方針の注記」に記載しております。</p> <p>(2) 派生商品評価勘定(デリバティブ取引) デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。</p>

(3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等
これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

(デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

(その他の注記)

項目	第22期 (2022年3月7日現在)	第23期中間計算期間 (2022年9月7日現在)
期首元本額	1,440,199,208円	1,456,503,821円
期中追加設定元本額	135,591,974円	51,249,649円
期中一部解約元本額	119,287,361円	34,728,261円

【三井住友・年金プラン50】

(1) 【中間貸借対照表】

(単位:円)

	第22期 (2022年 3月 7日現在)	第23期中間計算期間 (2022年 9月 7日現在)
資産の部		
流動資産		
金銭信託	1,797,606	1,143,577
コール・ローン	84,788,093	32,687,457
親投資信託受益証券	3,148,418,212	3,312,448,883
未収入金	10,000,000	-
流動資産合計	3,245,003,911	3,346,279,917
資産合計	3,245,003,911	3,346,279,917
負債の部		
流動負債		
未払解約金	1,376,689	189,065
未払受託者報酬	1,476,834	1,472,881
未払委託者報酬	18,830,139	18,779,852
その他未払費用	200,357	200,335
流動負債合計	21,884,019	20,642,133
負債合計	21,884,019	20,642,133
純資産の部		
元本等		
元本	1,944,226,696	1,950,439,009
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金()	1,278,893,196	1,375,198,775
(分配準備積立金)	774,035,826	743,302,641
元本等合計	3,223,119,892	3,325,637,784
純資産合計	3,223,119,892	3,325,637,784
負債純資産合計	3,245,003,911	3,346,279,917

（ 2 ） 【 中間損益及び剰余金計算書 】

（ 単位：円 ）

	第22期中間計算期間 自 2021年 3月 9日 至 2021年 9月 8日	第23期中間計算期間 自 2022年 3月 8日 至 2022年 9月 7日
営業収益		
受取利息	-	153
有価証券売買等損益	344,098,577	112,090,671
営業収益合計	344,098,577	112,090,824
営業費用		
支払利息	7,110	4,915
受託者報酬	1,442,387	1,472,881
委託者報酬	18,390,311	18,779,852
その他費用	201,305	200,755
営業費用合計	20,041,113	20,458,403
営業利益又は営業損失（ ）	324,057,464	91,632,421
経常利益又は経常損失（ ）	324,057,464	91,632,421
中間純利益又は中間純損失（ ）	324,057,464	91,632,421
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（ ）	6,658,749	4,238,311
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	1,193,028,143	1,278,893,196
剰余金増加額又は欠損金減少額	60,673,790	60,751,331
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	-
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	60,673,790	60,751,331
剰余金減少額又は欠損金増加額	56,858,566	51,839,862
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	56,858,566	51,839,862
中間追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	-
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	1,514,242,082	1,375,198,775

(3)【中間注記表】

(重要な会計方針の注記)

項 目	第23期中間計算期間 自 2022年3月8日 至 2022年9月7日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>親投資信託受益証券は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額(ただし、売気配相場は使用しない)、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>
2. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>計算期間の取扱い 当中間計算期間は前期末が休日のため、2022年3月8日から2022年9月7日までとなっております。</p>

(中間貸借対照表に関する注記)

項 目	第22期 (2022年3月7日現在)	第23期中間計算期間 (2022年9月7日現在)
1. 当中間計算期間の末日における受益権の総数	1,944,226,696口	1,950,439,009口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 1.6578円 (1万口当たりの純資産額16,578円)	1口当たり純資産額 1.7051円 (1万口当たりの純資産額17,051円)

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

該当事項はありません。

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

項 目	第23期中間計算期間 (2022年9月7日現在)
1. 中間貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、中間貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	<p>(1) 有価証券(親投資信託受益証券) 「重要な会計方針の注記」に記載しております。</p> <p>(2) 派生商品評価勘定(デリバティブ取引) デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。</p>

(3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等
これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

(デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

(その他の注記)

項目	第22期 (2022年3月7日現在)	第23期中間計算期間 (2022年9月7日現在)
期首元本額	1,927,956,673円	1,944,226,696円
期中追加設定元本額	171,922,270円	84,881,539円
期中一部解約元本額	155,652,247円	78,669,226円

【三井住友・年金プラン70】

(1) 【中間貸借対照表】

(単位:円)

	第22期 (2022年 3月 7日現在)	第23期中間計算期間 (2022年 9月 7日現在)
資産の部		
流動資産		
金銭信託	1,265,672	797,522
コール・ローン	59,698,259	22,795,978
親投資信託受益証券	2,187,252,023	2,396,338,213
未収入金	3,000,000	1,460,000
流動資産合計	2,251,215,954	2,421,391,713
資産合計	2,251,215,954	2,421,391,713
負債の部		
流動負債		
未払解約金	359,649	1,455,146
未払受託者報酬	1,046,916	1,053,396
未払委託者報酬	15,966,120	16,064,951
その他未払費用	234,409	234,401
流動負債合計	17,607,094	18,807,894
負債合計	17,607,094	18,807,894
純資産の部		
元本等		
元本	1,321,332,797	1,359,149,735
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金()	912,276,063	1,043,434,084
(分配準備積立金)	540,623,244	520,450,432
元本等合計	2,233,608,860	2,402,583,819
純資産合計	2,233,608,860	2,402,583,819
負債純資産合計	2,251,215,954	2,421,391,713

(2) 【中間損益及び剰余金計算書】

(単位 : 円)

	第22期中間計算期間 自 2021年 3月 9日 至 2021年 9月 8日	第23期中間計算期間 自 2022年 3月 8日 至 2022年 9月 7日
営業収益		
受取利息	-	117
有価証券売買等損益	314,311,050	118,336,190
営業収益合計	314,311,050	118,336,307
営業費用		
支払利息	6,008	3,654
受託者報酬	990,994	1,053,396
委託者報酬	15,112,528	16,064,951
その他費用	235,181	234,681
営業費用合計	16,344,711	17,356,682
営業利益又は営業損失()	297,966,339	100,979,625
経常利益又は経常損失()	297,966,339	100,979,625
中間純利益又は中間純損失()	297,966,339	100,979,625
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額()	5,355,677	3,351,765
期首剰余金又は期首欠損金()	804,412,002	912,276,063
剰余金増加額又は欠損金減少額	73,646,956	68,919,053
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	-
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	73,646,956	68,919,053
剰余金減少額又は欠損金増加額	35,052,168	35,388,892
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	35,052,168	35,388,892
中間追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	-
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金()	1,135,617,452	1,043,434,084

(3) 【中間注記表】

(重要な会計方針の注記)

項 目	第23期中間計算期間 自 2022年3月8日 至 2022年9月7日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>親投資信託受益証券は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>
2. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>計算期間の取扱い 当中間計算期間は前期末が休日のため、2022年3月8日から2022年9月7日までとなっております。</p>

(中間貸借対照表に関する注記)

項 目	第22期 (2022年3月7日現在)	第23期中間計算期間 (2022年9月7日現在)
1. 当中間計算期間の末日における受益権の総数	1,321,332,797口	1,359,149,735口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 1.6904円 (1万口当たりの純資産額16,904円)	1口当たり純資産額 1.7677円 (1万口当たりの純資産額17,677円)

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

該当事項はありません。

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

項 目	第23期中間計算期間 (2022年9月7日現在)
1. 中間貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、中間貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	<p>(1) 有価証券（親投資信託受益証券） 「重要な会計方針の注記」に記載しております。</p> <p>(2) 派生商品評価勘定（デリバティブ取引） デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。</p>

	(3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。
--	---

(デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

(その他の注記)

項目	第22期 (2022年3月7日現在)	第23期中間計算期間 (2022年9月7日現在)
期首元本額	1,263,272,134円	1,321,332,797円
期中追加設定元本額	188,973,127円	88,853,676円
期中一部解約元本額	130,912,464円	51,036,738円

(参考)

「三井住友・年金プラン30」、「三井住友・年金プラン50」および「三井住友・年金プラン70」は、「国内株式マザーファンド(B号)」、「国内債券マザーファンド(B号)」、「外国株式マザーファンド(B号)」および「外国債券マザーファンド(B号)」受益証券を主要投資対象としており、中間貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同マザーファンドの受益証券です。

なお、以下に記載した状況は、監査の対象外です。

国内株式マザーファンド(B号)

(1) 貸借対照表

(単位：円)

	(2022年3月7日現在)	(2022年9月7日現在)
資産の部		
流動資産		
金銭信託	1,329,360	2,318,725
コール・ローン	62,702,229	66,277,332
株式	2,435,747,980	2,632,372,390
未収入金	15,458,856	20,930,334
未収配当金	3,034,000	1,298,700
流動資産合計	2,518,272,425	2,723,197,481
資産合計	2,518,272,425	2,723,197,481
負債の部		
流動負債		
未払金	14,370,708	60,285,765
その他未払費用	126	243
流動負債合計	14,370,834	60,286,008
負債合計	14,370,834	60,286,008
純資産の部		
元本等		
元本	1,418,766,598	1,420,826,651
剰余金		
剰余金又は欠損金()	1,085,134,993	1,242,084,822

元本等合計	2,503,901,591	2,662,911,473
純資産合計	2,503,901,591	2,662,911,473
負債純資産合計	2,518,272,425	2,723,197,481

(2) 注記表

(重要な会計方針の注記)

項目	自 2022年3月8日 至 2022年9月7日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>株式は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>
2. 収益及び費用の計上基準	<p>受取配当金の計上基準</p> <p>受取配当金は原則として、配当落ち日において、確定配当金額または予想配当金額を計上しております。なお、配当金額が未確定の場合は、入金日基準で計上しております。</p>

(貸借対照表に関する注記)

項目	(2022年3月7日現在)	(2022年9月7日現在)
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	1,418,766,598口	1,420,826,651口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 1.7648円 (1万口当たりの純資産額17,648円)	1口当たり純資産額 1.8742円 (1万口当たりの純資産額18,742円)

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

項目	(2022年9月7日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	<p>(1) 有価証券（株式） 「重要な会計方針の注記」に記載しております。</p> <p>(2) 派生商品評価勘定（デリバティブ取引） デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。</p>

(3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等
 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

(デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

(その他の注記)

(2022年3月7日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	1,471,870,163円
同期中における追加設定元本額	240,352,353円
同期中における一部解約元本額	293,455,918円
2022年3月7日現在の元本の内訳	
三井住友・年金プラン30	248,486,637円
三井住友・年金プラン50	585,977,128円
三井住友・年金プラン70	584,302,833円
合計	1,418,766,598円

(2022年9月7日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	1,418,766,598円
同期中における追加設定元本額	119,499,519円
同期中における一部解約元本額	117,439,466円
2022年9月7日現在の元本の内訳	
三井住友・年金プラン30	244,603,174円
三井住友・年金プラン50	578,795,178円
三井住友・年金プラン70	597,428,299円
合計	1,420,826,651円

国内債券マザーファンド(B号)

(1) 貸借対照表

(単位:円)

	(2022年3月7日現在)	(2022年9月7日現在)
資産の部		
流動資産		
金銭信託	26,369,788	51,929,489
コール・ローン	1,243,790,027	1,484,327,756
国債証券	157,588,726,072	208,952,491,084
地方債証券	5,881,034,500	5,855,603,400
特殊債券	15,590,392,517	15,257,674,168
社債券	36,860,900,500	35,586,912,800
未収入金	900,550,000	400,702,000
未収利息	284,816,691	370,067,709

前払費用	37,638,040	67,490,268
流動資産合計	218,414,218,135	268,027,198,674
資産合計	218,414,218,135	268,027,198,674
負債の部		
流動負債		
未払金	996,400,000	897,163,000
未払解約金	22,059,260	8,329,777
その他未払費用	4,556	5,640
流動負債合計	1,018,463,816	905,498,417
負債合計	1,018,463,816	905,498,417
純資産の部		
元本等		
元本	153,856,048,834	192,977,155,741
剰余金		
剰余金又は欠損金（ ）	63,539,705,485	74,144,544,516
元本等合計	217,395,754,319	267,121,700,257
純資産合計	217,395,754,319	267,121,700,257
負債純資産合計	218,414,218,135	268,027,198,674

(2) 注記表

(重要な会計方針の注記)

項目	自 2022年3月8日 至 2022年9月7日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>国債証券、地方債証券、特殊債券、社債券は個別法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>

(貸借対照表に関する注記)

項目	(2022年3月7日現在)	(2022年9月7日現在)
1. 当計算期間の末日における 受益権の総数	153,856,048,834口	192,977,155,741口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 1.4130円 (1万口当たりの純資産額14,130円)	1口当たり純資産額 1.3842円 (1万口当たりの純資産額13,842円)

（金融商品に関する注記）

金融商品の時価等に関する事項

項目	(2022年9月7日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券（国債証券、地方債証券、特殊債券、社債券） 「重要な会計方針の注記」に記載しております。 (2) 派生商品評価勘定（デリバティブ取引） デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。 (3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

（デリバティブ取引に関する注記）

該当事項はありません。

（その他の注記）

(2022年3月7日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	128,232,774,710円
同期中における追加設定元本額	31,083,220,760円
同期中における一部解約元本額	5,459,946,636円
2022年3月7日現在の元本の内訳	
三井住友・年金プラン30	943,975,063円
三井住友・年金プラン50	881,982,335円
三井住友・年金プラン70	292,062,536円
三井住友・DCバランスファンド（安定型）	111,336,775円
三井住友・DCバランスファンド（安定成長型）	211,836,590円
三井住友・DCバランスファンド（成長型）	69,292,300円
三井住友・DC国内債券アクティブ	312,775,597円
三井住友・日本債券年金ファンド	4,564,824,495円
S M A M・年金国内債券アクティブファンド（適格機関投資家専用）	2,659,218,767円
S M A M・バランスファンドVA安定型（適格機関投資家専用）	126,690,065円
S M A M・バランスファンドVA株40型（適格機関投資家専用）	1,278,339円
S M A M・バランスファンドVA株60型（適格機関投資家専用）	358,057円
S M A M・バランスファンドVA株80型（適格機関投資家専用）	152,022円
バランスファンドVA（安定運用型）＜適格機関投資家限定＞	77,060,020円
三井住友／FOFs用日本債F（適格機関投資家限定）	143,603,205,873円
合計	153,856,048,834円

(2022年9月7日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	153,856,048,834円
同期中における追加設定元本額	41,385,335,620円
同期中における一部解約元本額	2,264,228,713円

2022年9月7日現在の元本の内訳

三井住友・年金プラン30	1,003,676,153円
三井住友・年金プラン50	961,089,369円
三井住友・年金プラン70	347,965,404円
三井住友・DCバランスファンド(安定型)	102,808,029円
三井住友・DCバランスファンド(安定成長型)	205,604,605円
三井住友・DCバランスファンド(成長型)	65,619,924円
三井住友・DC国内債券アクティブ	315,806,375円
三井住友・日本債券年金ファンド	4,453,949,271円
S M A M・年金国内債券アクティブファンド(適格機関投資家専用)	2,946,984,275円
S M A M・バランスファンドV A安定型(適格機関投資家専用)	120,551,360円
S M A M・バランスファンドV A株40型(適格機関投資家専用)	1,312,609円
S M A M・バランスファンドV A株60型(適格機関投資家専用)	362,331円
S M A M・バランスファンドV A株80型(適格機関投資家専用)	155,587円
バランスファンドV A(安定運用型) < 適格機関投資家限定 >	74,742,106円
三井住友 / F O F s 用日本債 F (適格機関投資家限定)	182,376,528,343円
合計	192,977,155,741円

外国株式マザーファンド(B号)

(1) 貸借対照表

(単位:円)

	(2022年3月7日現在)	(2022年9月7日現在)
資産の部		
流動資産		
預金	3,486,029	4,400,678
金銭信託	393,400	590,673
コール・ローン	18,555,570	16,883,504
株式	1,233,989,971	1,330,828,530
未収配当金	1,036,569	1,272,929
流動資産合計	1,257,461,539	1,353,976,314
資産合計	1,257,461,539	1,353,976,314
負債の部		
流動負債		
その他未払費用	44	59
流動負債合計	44	59
負債合計	44	59
純資産の部		
元本等		
元本	380,072,102	372,271,380
剰余金		
剰余金又は欠損金()	877,389,393	981,704,875
元本等合計	1,257,461,495	1,353,976,255
純資産合計	1,257,461,495	1,353,976,255
負債純資産合計	1,257,461,539	1,353,976,314

(2) 注記表

(重要な会計方針の注記)

項目	自 2022年3月8日 至 2022年9月7日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>株式は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	<p>為替予約取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として、わが国における対顧客先物相場の仲値によっております。</p>
3. 収益及び費用の計上基準	<p>受取配当金の計上基準 受取配当金は原則として、配当落ち日において、確定配当金額または予想配当金額を計上しております。なお、配当金額が未確定の場合は、入金日基準で計上しております。</p>
4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>外貨建資産等の会計処理 「投資信託財産の計算に関する規則」第60条および第61条に基づいて処理しております。</p>

(貸借対照表に関する注記)

項目	(2022年3月7日現在)	(2022年9月7日現在)
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	380,072,102口	372,271,380口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 3.3085円 (1万口当たりの純資産額33,085円)	1口当たり純資産額 3.6371円 (1万口当たりの純資産額36,371円)

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

項目	(2022年9月7日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	<p>(1) 有価証券（株式） 「重要な会計方針の注記」に記載しております。</p> <p>(2) 派生商品評価勘定（デリバティブ取引） デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。</p>

(3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等
 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

(デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

(その他の注記)

(2022年3月7日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	452,002,050円
同期中における追加設定元本額	141,042,770円
同期中における一部解約元本額	212,972,718円
2022年3月7日現在の元本の内訳	
三井住友・年金プラン30	65,959,625円
三井住友・年金プラン50	161,709,068円
三井住友・年金プラン70	152,403,409円
合計	380,072,102円

(2022年9月7日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	380,072,102円
同期中における追加設定元本額	62,281,027円
同期中における一部解約元本額	70,081,749円
2022年9月7日現在の元本の内訳	
三井住友・年金プラン30	63,819,976円
三井住友・年金プラン50	155,797,256円
三井住友・年金プラン70	152,654,148円
合計	372,271,380円

外国債券マザーファンド(B号)

(1) 貸借対照表

(単位:円)

	(2022年3月7日現在)	(2022年9月7日現在)
資産の部		
流動資産		
預金	5,355,348	8,127,458
金銭信託	42,692	85,064
コール・ローン	2,013,656	2,431,424
国債証券	829,338,886	818,297,364
地方債証券	4,443,879	4,761,358
派生商品評価勘定	179,025	8,269,337
未収入金	289,562	45,728,476
未収利息	3,690,626	3,479,670

前払費用	911,272	3,073,351
流動資産合計	846,264,946	894,253,502
資産合計	846,264,946	894,253,502
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	513,525	4,987,518
未払金	396,425	46,200,679
流動負債合計	909,950	51,188,197
負債合計	909,950	51,188,197
純資産の部		
元本等		
元本	294,217,252	276,230,456
剰余金		
剰余金又は欠損金（ ）	551,137,744	566,834,849
元本等合計	845,354,996	843,065,305
純資産合計	845,354,996	843,065,305
負債純資産合計	846,264,946	894,253,502

(2) 注記表

(重要な会計方針の注記)

項 目	自 2022年3月8日 至 2022年9月7日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>国債証券、地方債証券は個別法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	<p>為替予約取引</p> <p>個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として、わが国における対顧客先物相場の仲値によっております。</p>
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>外貨建資産等の会計処理</p> <p>「投資信託財産の計算に関する規則」第60条および第61条に基づいて処理しております。</p>

(貸借対照表に関する注記)

項 目	(2022年3月7日現在)	(2022年9月7日現在)
-----	---------------	---------------

1. 当計算期間の末日における 受益権の総数	294,217,252口	276,230,456口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 2.8732円 (1万口当たりの純資産額28,732円)	1口当たり純資産額 3.0520円 (1万口当たりの純資産額30,520円)

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

項目	(2022年9月7日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券(国債証券、地方債証券) 「重要な会計方針の注記」に記載しております。 (2) 派生商品評価勘定(デリバティブ取引) デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。 (3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

(デリバティブ取引に関する注記)

(2022年3月7日現在)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(単位:円)

区分	種類	契約額等		時価	評価損益
			うち 1年超		
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	買建				
	デンマーク・クローネ	3,797,864	-	3,696,572	101,292
	オフショア・人民元	9,513,400	-	9,624,747	111,347
	小計	13,311,264	-	13,321,319	10,055
	売建				
	アメリカ・ドル	3,415,071	-	3,449,982	34,911
	オーストラリア・ドル	7,277,224	-	7,650,432	373,208
	イギリス・ポンド	3,101,796	-	3,038,232	63,564
	小計	13,794,091	-	14,138,646	344,555
合計		27,105,355	-	27,459,965	334,500

(2022年9月7日現在)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(単位:円)

区分	種類	契約額等		時価	評価損益
			うち 1年超		
	為替予約取引				
	買建				

市場取引以外の取引	アメリカ・ドル	87,254,156	-	92,252,218	4,998,062
	カナダ・ドル	2,524,477	-	2,605,024	80,547
	オーストラリア・ドル	12,191,165	-	12,389,418	198,253
	シンガポール・ドル	975,725	-	1,015,860	40,135
	イギリス・ポンド	10,701,568	-	10,676,723	24,845
	デンマーク・クローネ	4,025,196	-	3,995,733	29,463
	オフショア・人民元	23,513,467	-	24,214,332	700,865
	ユーロ	64,808,248	-	66,379,446	1,571,198
	小計	205,994,002	-	213,528,754	7,534,752
	売建				
	アメリカ・ドル	79,257,899	-	82,669,428	3,411,529
	カナダ・ドル	211,479	-	217,085	5,606
	オーストラリア・ドル	10,033,339	-	10,084,410	51,071
	シンガポール・ドル	868,654	-	914,274	45,620
	イギリス・ポンド	10,736,865	-	10,676,723	60,142
	イスラエル・シェケル	1,046,331	-	1,087,036	40,705
	ノルウェー・クローネ	280,127	-	284,240	4,113
	スウェーデン・クローナ	244,184	-	238,271	5,913
	オフショア・人民元	8,076,953	-	8,276,303	199,350
ユーロ	100,777,350	-	101,338,344	560,994	
小計	211,533,181	-	215,786,114	4,252,933	
合計	417,527,183	-	429,314,868	3,281,819	

(注) 1. 時価の算定方法

為替予約取引の時価の算定方法については以下のように評価しております。

- 1) 計算期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。

計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。

計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

- ・ 計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、発表されている対顧客先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの対顧客先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いております。
- ・ 計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い受渡日として、発表されている対顧客先物相場の仲値を用いております。

- 2) 計算期間末日において対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨については、計算期間末日の対顧客相場の仲値で評価しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引はありません。

(その他の注記)

(2022年3月7日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	280,289,940円
同期中における追加設定元本額	268,490,781円
同期中における一部解約元本額	254,563,469円
2022年3月7日現在の元本の内訳	

三井住友・年金プラン30	79,815,929円
三井住友・年金プラン50	115,909,191円
三井住友・年金プラン70	83,239,365円
バランスファンドVA(安定運用型) < 適格機関投資家限定 >	15,252,767円
合計	294,217,252円

(2022年9月7日現在)

開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	294,217,252円
同期中における追加設定元本額	27,536,465円
同期中における一部解約元本額	45,523,261円
2022年9月7日現在の元本の内訳	
三井住友・年金プラン30	75,123,454円
三井住友・年金プラン50	108,348,905円
三井住友・年金プラン70	78,560,283円
バランスファンドVA(安定運用型) < 適格機関投資家限定 >	14,197,814円
合計	276,230,456円

2【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

三井住友・年金プラン30

2022年9月30日現在

資産総額	2,285,706,993円
負債総額	2,304,798円
純資産総額（ - ）	2,283,402,195円
発行済口数	1,484,288,301口
1口当たり純資産額（ / ） （1万口当たり純資産額）	1.5384円 (15,384円)

三井住友・年金プラン50

2022年9月30日現在

資産総額	3,234,425,114円
負債総額	2,724,363円
純資産総額（ - ）	3,231,700,751円
発行済口数	1,953,868,748口
1口当たり純資産額（ / ） （1万口当たり純資産額）	1.6540円 (16,540円)

三井住友・年金プラン70

2022年9月30日現在

資産総額	2,323,009,173円
負債総額	3,151,445円
純資産総額（ - ）	2,319,857,728円
発行済口数	1,365,427,423口
1口当たり純資産額（ / ） （1万口当たり純資産額）	1.6990円 (16,990円)

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

ファンドの受益権は、社振法の規定の適用を受け、ファンドの受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券は発行されません。

イ 名義書換

該当事項はありません。

ロ 受益者名簿

作成しません。

八 受益者に対する特典

ありません。

二 受益権の譲渡および譲渡制限等

(イ) 受益権の譲渡

- a. 受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等に振替の申請をするものとします。
- b. 上記aの申請のある場合には、上記aの振替機関等は、当該譲渡にかかる譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記aの振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定に従い、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。
- c. 上記aの振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

(ロ) 受益権の譲渡制限および譲渡の対抗要件

譲渡制限はありません。ただし、受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

ホ 受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議の上、社振法に定めるところに従い、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

ヘ 償還金

償還金は、原則として、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者に支払います。

ト 質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付け、一部解約金および償還金の支払い等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等に従って取り扱われます。

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

イ 資本金の額および株式数

	2022年9月30日現在
資本金の額	20億円
会社が発行する株式の総数	60,000,000株
発行済株式総数	33,870,060株

ロ 最近5年間における資本金の額の増減 該当ありません。

ハ 会社の機構

委託会社の取締役は8名以内とし、株主総会で選任されます。取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行い、累積投票によらないものとします。

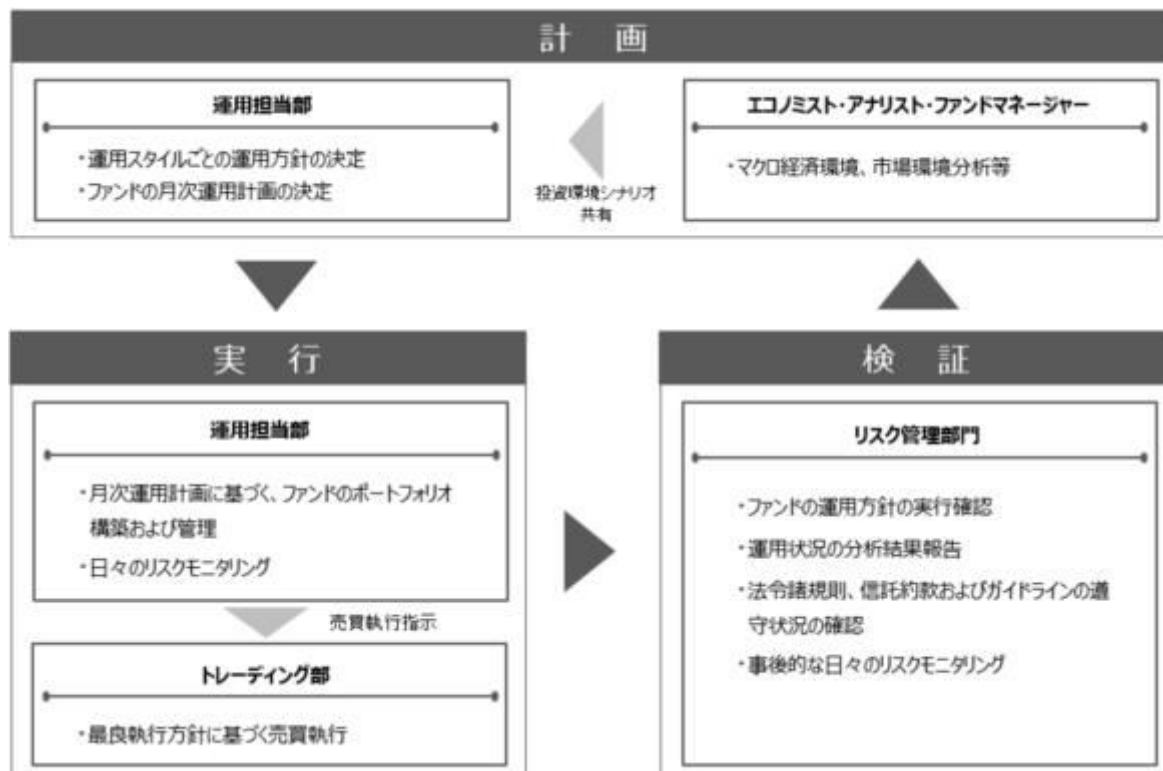
取締役の任期は、選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとし、補欠または増員によって選任された取締役の任期は、他の現任取締役の任期の満了する時までとします。

委託会社の業務上重要な事項は、取締役会の決議により決定します。

取締役会は、取締役会の決議によって、代表取締役若干名を選定します。

また、取締役会の決議によって、取締役社長を1名選定し、必要に応じて取締役会長1名を選定することができます。

二 投資信託の運用の流れ



2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者として投資運用業および投資助言業務を行っています。また、「金融商品取引法」に定める第二種金融商品取引業にかかる業務を行っています。

2022年9月30日現在、委託会社が運用を行っている投資信託（親投資信託は除きます）は、以下の通りです。

	本数(本)	純資産総額(百万円)
追加型株式投資信託	715	9,072,490
単位型株式投資信託	98	448,033
追加型公社債投資信託	1	24,818
単位型公社債投資信託	184	321,518
合計	998	9,866,861

3【委託会社等の経理状況】

- 1 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）並びに同規則第2条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づいて作成しております。
- 2 当社は、当事業年度（2021年4月1日から2022年3月31日まで）の財務諸表については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、有限責任 あずさ監査法人の監査を受けております。

(1)【貸借対照表】

	(単位：千円)	
	前事業年度 (2021年3月31日)	当事業年度 (2022年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	33,048,142	49,008,279
顧客分別金信託	300,036	300,041
前払費用	449,748	475,266
未収入金	132,419	103,809
未収委託者報酬	9,936,096	12,125,117
未収運用受託報酬	2,247,156	2,437,063
未収投資助言報酬	398,108	388,639
未収収益	39,975	36,700
その他の流動資産	6,981	18,458
流動資産合計	46,558,665	64,893,375
固定資産		
有形固定資産	1	
建物	1,509,450	1,433,442
器具備品	870,855	653,985
土地	710	710
リース資産	13,483	7,357

建設仮勘定	-	5,500
有形固定資産合計	2,394,500	2,100,996
無形固定資産		
ソフトウェア	1,347,889	2,766,476
ソフトウェア仮勘定	1,029,033	100,616
のれん	3,654,491	3,349,950
顧客関連資産	15,671,890	13,558,615
電話加入権	12,727	12,716
商標権	48	42
無形固定資産合計	21,716,080	19,788,417
投資その他の資産		
投資有価証券	22,866,282	14,212,354
関係会社株式	11,246,398	11,246,398
長期差入保証金	1,409,091	1,414,646
長期前払費用	116,117	77,936
会員権	90,479	90,479
貸倒引当金	20,750	20,750
投資その他の資産合計	35,707,619	27,021,065
固定資産合計	59,818,200	48,910,479
資産合計	106,376,866	113,803,855

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年3月31日)	当事業年度 (2022年3月31日)
負債の部		
流動負債		
リース債務	5,153	3,567
顧客からの預り金	20,077	6,045
その他の預り金	169,380	196,515
未払金		
未払収益分配金	1,646	1,969
未払償還金	43,523	152
未払手数料	4,480,697	5,545,582
その他未払金	270,290	48,893
未払費用		
未払消費税等	235,647	1,133,332
未払法人税等	762,648	2,455,291
賞与引当金	1,516,622	2,100,323
資産除去債務	-	7,192
その他の流動負債	9,710	40,396
流動負債合計	13,455,519	18,918,667
固定負債		
リース債務	9,678	4,525
繰延税金負債	2,566,958	1,279,409
退職給付引当金	5,258,448	5,084,506
その他の固定負債	40,950	4,620
固定負債合計	7,876,035	6,373,062
負債合計	21,331,554	25,291,730
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,000,000	2,000,000
資本剰余金		
資本準備金	8,628,984	8,628,984
その他資本剰余金	81,927,000	73,466,962

資本剰余金合計	90,555,984	82,095,946
利益剰余金		
利益準備金	284,245	284,245
その他利益剰余金		
配当準備積立金	60,000	-
別途積立金	1,476,959	-
繰越利益剰余金	10,281,242	3,834,794
利益剰余金合計	8,460,037	4,119,040
株主資本計	84,095,946	88,214,986
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	949,365	297,138
評価・換算差額等合計	949,365	297,138
純資産合計	85,045,311	88,512,124
負債・純資産合計	106,376,866	113,803,855

(2) 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度		当事業年度	
	(自	2020年4月1日	(自	2021年4月1日
	至	2021年3月31日)	至	2022年3月31日)
営業収益				
委託者報酬		50,610,457		66,139,024
運用受託報酬		9,450,169		9,652,634
投資助言報酬		1,270,584		1,256,334
その他営業収益				
サービス支 hands 手数料		200,807		199,046
その他		32,820		32,936
営業収益計		61,564,839		77,279,976
営業費用				
支払手数料		22,784,919		30,522,133
広告宣伝費		365,317		330,161
調査費				
調査費		3,061,987		3,196,921
委託調査費		7,810,157		12,192,048
営業雑経費				
通信費		95,163		67,600
印刷費		554,920		494,834
協会費		40,044		34,433
諸会費		29,473		30,488
情報機器関連費		4,562,612		4,767,504
販売促進費		23,614		31,930
その他		163,332		181,301
営業費用合計		39,491,542		51,849,358
一般管理費				
給料				
役員報酬		277,027		263,893
給料・手当		9,280,730		8,664,828
賞与		950,630		991,916
賞与引当金繰入額		1,501,855		2,100,323
交際費		11,815		12,301
寄付金		949		29,273
事務委託費		844,255		1,422,189
旅費交通費		21,023		16,863

租税公課	389,819	476,729
不動産賃借料	1,639,529	1,289,256
退職給付費用	790,144	632,559
固定資産減価償却費	3,040,894	3,133,951
のれん償却費	2,645,986	304,540
諸経費	608,206	256,994
一般管理費合計	22,002,869	19,595,622
営業利益	70,426	5,834,995

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2020年 4月 1日 至 2021年 3月 31日)	当事業年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月 31日)
営業外収益		
受取配当金	13,164	7,666
受取利息	2,736	1,836
時効成立分配金・償還金	88,335	43,406
原稿・講演料	2,603	2,587
投資有価証券償還益	57,388	383,608
投資有価証券売却益	162,941	911,268
為替差益	-	4,673
雑収入	72,933	81,640
営業外収益合計	400,104	1,436,686
営業外費用		
投資有価証券償還損	11,762	146,219
投資有価証券売却損	34,473	81,384
為替差損	766	-
雑損失	1,240	2,866
営業外費用合計	48,243	230,470
経常利益	422,288	7,041,212
特別損失		
固定資産除却損	1 54,493	83,651
減損損失	2 28,097,346	-
システム統合関連費用	3 -	375,636
早期退職費用	4 216,200	260,075
本社移転費用	127,044	-
その他特別損失	5,460	67,000
特別損失合計	28,500,544	786,362
税引前当期純利益又は 税引前当期純損失()	28,078,256	6,254,849
法人税、住民税及び事業税	1,549,173	3,101,482
法人税等調整額	693,192	965,673
法人税等合計	855,980	2,135,809
当期純利益又は 当期純損失()	28,934,237	4,119,040

(3) 【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		その他利益剰余金		
					配当準備積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	2,000,000	8,628,984	81,927,000	90,555,984	284,245	60,000	1,476,959	19,364,265
当期変動額								
剰余金の配当								711,271
当期純損失（ ）								28,934,237
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	-	29,645,508
当期末残高	2,000,000	8,628,984	81,927,000	90,555,984	284,245	60,000	1,476,959	10,281,242

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
	利益剰余金合計				
当期首残高	21,185,470	113,741,454	377,855	377,855	114,119,309
当期変動額					
剰余金の配当	711,271	711,271			711,271
当期純損失（ ）	28,934,237	28,934,237			28,934,237
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			571,510	571,510	571,510
当期変動額合計	29,645,508	29,645,508	571,510	571,510	29,073,997
当期末残高	8,460,037	84,095,946	949,365	949,365	85,045,311

当事業年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		その他利益剰余金		
					配当準備積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	2,000,000	8,628,984	81,927,000	90,555,984	284,245	60,000	1,476,959	10,281,242
当期変動額								
剰余金の配当								
欠損填補			8,460,037	8,460,037				8,460,037
当期純利益								4,119,040
任意積立金の取崩						60,000	1,476,959	1,536,959
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	8,460,037	8,460,037	-	60,000	1,476,959	14,116,037
当期末残高	2,000,000	8,628,984	73,466,962	82,095,946	284,245	-	-	3,834,794

	株主資本	評価・換算差額等
--	------	----------

	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	純資産合計
	利益剰余金 合計				
当期首残高	8,460,037	84,095,946	949,365	949,365	85,045,311
当期変動額					
剰余金の配当					
欠損填補	8,460,037	-			-
当期純利益	4,119,040	4,119,040			4,119,040
任意積立金の 取崩	-	-			-
株主資本以外の 項目の当期変動 額（純額）			652,227	652,227	652,227
当期変動額合計	12,579,078	4,119,040	652,227	652,227	3,466,812
当期末残高	4,119,040	88,214,986	297,138	297,138	88,512,124

[注記事項]

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

市場価格のない株式等以外

決算日の市場価格等に基づく時価法

（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法によっております。但し、建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 3～50年

器具備品 4～15年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

なお、主な償却年数は次のとおりであります。

のれん 14年

顧客関連資産 6～19年

ソフトウェア（自社利用分） 5年（社内における利用可能期間）

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等の特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員賞与の支給に充てるため、将来の支給見込額のうち、当事業年度の負担額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職金支給に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当事業年度において発生していると認められる額を計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用については、その発生時において一時に費用処理しております。

数理計算上の差異については、その発生時において一時に費用処理しております。

4. 収益及び費用の計上基準

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下、「収益認識会計基準」という。)等を適用しており、約束したサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該サービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び収益を認識する通常の時点は以下のとおりであります。

(1) 委託者報酬

委託者報酬は、投資信託の信託約款に基づき日々の純資産額に対する一定割合として認識され、確定した報酬を受け取ります。当該報酬は投資信託の運用期間にわたり収益として認識しております。

(2) 運用受託報酬

運用受託報酬は、対象顧客との投資一任契約に基づき、主に契約期間内の月末純資産平均価額に対する一定割合として認識され、確定した報酬を受け取ります。当該報酬は対象口座の運用期間にわたり収益として認識しております。

(3) 投資助言報酬

投資助言報酬は、対象顧客との投資助言契約に基づき、主に契約期間内の月末純資産平均価額に対する一定割合として認識され、確定した報酬を受け取ります。当該報酬は対象口座の助言期間にわたり収益として認識しております。

(会計方針の変更)

「収益認識会計基準」等を当事業年度の期首から適用し、約束したサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該サービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。当該会計基準等の適用が当事業年度の財務諸表に与える影響はありません。なお、収益認識会計基準第89-3項に定める経過的な取扱いに従って、前事業年度に係る「収益認識関係」注記については記載しておりません。

(貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額

	前事業年度 (2021年3月31日)	当事業年度 (2022年3月31日)
建物	102,329千円	210,548千円
器具備品	1,153,649千円	1,309,352千円
リース資産	2,830千円	6,073千円

2 当座借越契約

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行1行と当座借越契約を締結しております。当座借越契約に係る借入金未実行残高等は次のとおりであります。

	前事業年度 (2021年3月31日)	当事業年度 (2022年3月31日)
当座借越極度額の総額	10,000,000千円	10,000,000千円
借入実行残高	- 千円	- 千円
差引額	10,000,000千円	10,000,000千円

3 保証債務

当社は、子会社であるSumitomo Mitsui DS Asset Management(USA) Inc.における賃貸借契約に係る賃借料に対し、2023年6月までの賃借料総額の支払保証を行っております。

	前事業年度 (2021年3月31日)	当事業年度 (2022年3月31日)

Sumitomo Mitsui DS Asset Management (USA) Inc.	93,374千円	57,356千円
--	----------	----------

(損益計算書関係)

1 固定資産除却損

	前事業年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
建物	18,278千円	- 千円
器具備品	28,604千円	0千円
リース資産	- 千円	- 千円
ソフトウェア	7,610千円	83,651千円
ソフトウェア仮勘定	- 千円	- 千円

2 減損損失

前事業年度において、次のとおり減損損失を計上しております。

(単位：千円)

場所	用途	種類	減損損失
-	その他	のれん	28,097,346

当社は、資産と対応して継続的に収支の把握ができる単位が全社のみであることから全社資産の単一グループとしております。

当社は、当社を存続会社とし、大和住銀投信投資顧問株式会社を消滅会社とする吸収合併に伴って発生したのれんを計上しております。当該のれんについて下期以降の業績は上向いているものの、通期では業績計画を下回る結果となったことを踏まえて将来キャッシュ・フローを見直した結果、のれんの帳簿価額の回収が見込まれなくなったため、帳簿価額を回収可能価額まで減損し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、回収可能価額は使用価値としており、将来キャッシュ・フローを9.2%で割り引いて算出しております。当事業年度において計上した減損損失はありません。

3 システム統合関連費用

社内システム統合に伴うものであり、主にデータの移行費用などであります。

4 早期退職費用

早期希望退職の募集等の実施に関連して発生する費用であります。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

1.発行済株式数に関する事項

	当期首株式数	当期増加株式数	当期減少株式数	当期末株式数
普通株式	33,870,060株	-	-	33,870,060株

2.剰余金の配当に関する事項

配当金支払額等

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	一株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2020年6月29日 定時株主総会	普通株式	711,271	21.00	2020年 3月31日	2020年 6月30日

当事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

1.発行済株式数に関する事項

	当期首株式数	当期増加株式数	当期減少株式数	当期末株式数
普通株式	33,870,060株	-	-	33,870,060株

2.剰余金の配当に関する事項

基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生が翌事業年度になるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	一株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2022年6月28日 定時株主総会	普通株式	2,540,254	75.00	2022年 3月31日	2022年 6月29日

(リース取引関係)

オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年3月31日)	当事業年度 (2022年3月31日)
1年以内	1,194,699	1,166,952
1年超	3,497,258	2,323,090
合計	4,691,958	3,490,042

(金融商品関係)

1.金融商品の状況に関する事項

(1)金融商品に対する取組方針

当社は、投資運用業及び投資助言業などの金融サービス事業を行っています。そのため、資金運用については、短期的で安全性の高い金融資産に限定し、財務体質の健全性、安全性、流動性の確保を第一とし、顧客利益に反しない運用を行っています。また、資金調達及びデリバティブ取引は行っていません。

(2)金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である未収運用受託報酬及び未収投資助言報酬は、顧客の信用リスクに晒されています。未収委託者報酬は、信託財産中から支弁されるものであり、信託財産については受託者である信託銀行において分別管理されているため、リスクは僅少となっています。

投資有価証券については、主に事業推進目的のために保有する当社が設定する投資信託等であり、市場価格の変動リスク及び発行体の信用リスクに晒されています。関係会社株式については、主に全額出資の子会社の株式であり、発行体の信用リスクに晒されています。

営業債務である未払手数料は、すべて1年以内の支払期日であります。

(3)金融商品に係るリスク管理体制

信用リスクの管理

当社は、資産の自己査定及び償却・引当規程に従い、営業債権について、取引先毎の期日管理及び残高管理を行うとともに、その状況について取締役会に報告しています。

投資有価証券、子会社株式は発行体の信用リスクについて、資産の自己査定及び償却・引当規程に従い、定期的に管理を行い、その状況について取締役会に報告しています。

市場リスクの管理

投資有価証券については、自己勘定資産の運用・管理に関する規程に従い、各所管部においては所管する有価証券について管理を、経営企画部においては総合的なリスク管理を行い、定期的に時価を把握しています。また、資産の自己査定及び償却・引当規程に従い、その状況について取締役会に報告しています。

なお、事業推進目的のために保有する当社が設定する投資信託等については、純資産額に対する保有制限を設けており、また、自社設定投信等の取得・処分に関する規則に従い、定期的に取締役会において報告し、投資家の資金性格、金額、および投資家数等の状況から検討した結果、目的が達成されたと判断した場合には速やかに処分することとしています。

2.金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、市場価格のないものは、次表には含まれていません（注2）参照）。

前事業年度（2021年3月31日）

(単位：千円)

区分	貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	33,048,142	33,048,142	-
(2)顧客分別金信託	300,036	300,036	-
(3)未収委託者報酬	9,936,096	9,936,096	-
(4)未収運用受託報酬	2,247,156	2,247,156	-
(5)未収投資助言報酬	398,108	398,108	-
(6)投資有価証券			
その他有価証券	22,826,472	22,826,472	-
(7)長期差入保証金	1,409,091	1,409,091	-
資産計	70,165,105	70,165,105	-
(1)顧客からの預り金	20,077	20,077	-
(2)未払手数料	4,480,697	4,480,697	-

負債計	4,500,774	4,500,774	-
-----	-----------	-----------	---

当事業年度（2022年3月31日）

（単位：千円）

区分	貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	49,008,279	49,008,279	-
(2)顧客分別金信託	300,041	300,041	-
(3)未収委託者報酬	12,125,117	12,125,117	-
(4)未収運用受託報酬	2,437,063	2,437,063	-
(5)未収投資助言報酬	388,639	388,639	-
(6)投資有価証券 その他有価証券	14,172,545	14,172,545	-
資産計	78,431,686	78,431,686	-
(1)顧客からの預り金	6,045	6,045	-
(2)未払手数料	5,545,582	5,545,582	-
負債計	5,551,627	5,551,627	-

(注1)金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資 産

(1)現金及び預金、(2)顧客分別金信託、(3)未収委託者報酬、(4)未収運用受託報酬及び(5)未収投資助言報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

(6)投資有価証券

これらの時価について、投資信託等については取引所の価格、取引金融機関から提示された価格及び公表されている基準価格によっております。

負 債

(1)顧客からの預り金及び(2)未払手数料

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

(注2)市場価格のない金融商品の貸借対照表計上額

（単位：千円）

区分	前事業年度 (2021年3月31日)	当事業年度 (2022年3月31日)
その他有価証券 非上場株式	39,809	39,809
合計	39,809	39,809
子会社株式 非上場株式	11,246,398	11,246,398
合計	11,246,398	11,246,398

その他有価証券については、市場価格がないため、「(6) その他有価証券」には含めておりません。

子会社株式については、市場価格がないため、時価開示の対象とはしておりません。

また時価をもって貸借対照表計上額としている「(6) その他有価証券」は、全て投資信託で構成されております。そのため、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」第26項の経過措置を適用し、金融商品の時価等及び時価のレベルごとの内訳等に関する事項は記載しておりません。

(注3)金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

前事業年度（2021年3月31日）

（単位：千円）

区分	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	33,048,142	-	-	-
顧客分別金信託	300,036	-	-	-
未収委託者報酬	9,936,096	-	-	-
未収運用受託報酬	2,247,156	-	-	-
未収投資助言報酬	398,108	-	-	-
長期差入保証金	42,007	1,367,084	-	-
合計	45,971,548	1,367,084	-	-

当事業年度（2022年3月31日）

（単位：千円）

区分	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
----	------	---------	----------	------

現金及び預金	49,008,279	-	-	-
顧客分別金信託	300,041	-	-	-
未収委託者報酬	12,125,117	-	-	-
未収運用受託報酬	2,437,063	-	-	-
未収投資助言報酬	388,639	-	-	-
合計	64,259,140	-	-	-

(有価証券関係)

1. 子会社株式

前事業年度（2021年3月31日）

子会社株式（貸借対照表計上額 関係会社株式11,246,398千円）は、市場価格がないことから、記載しておりませ
ん。

当事業年度（2022年3月31日）

子会社株式（貸借対照表計上額 関係会社株式11,246,398千円）は、市場価格がないことから、記載しておりませ
ん。

2. その他有価証券

前事業年度（2021年3月31日）

(単位：千円)

区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額
(1) 貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの 投資信託等	16,097,433	14,397,606	1,699,827
小計	16,097,433	14,397,606	1,699,827
(2) 貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの 投資信託等	6,729,039	6,994,762	265,723
小計	6,729,039	6,994,762	265,723
合計	22,826,472	21,392,369	1,434,103

(注) 非上場株式等（貸借対照表計上額 39,809千円）については、市場価格がないことから、記載しておりませ
ん。

当事業年度（2022年3月31日）

(単位：千円)

区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額
(1) 貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの 投資信託等	9,299,062	8,672,725	626,337
小計	9,299,062	8,672,725	626,337
(2) 貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの 投資信託等	4,873,482	5,039,817	166,335
小計	4,873,482	5,039,817	166,335
合計	14,172,545	13,712,543	460,001

(注) 非上場株式等（貸借対照表計上額 39,809千円）については、市場価格がないことから、記載しておりませ
ん。

3. 事業年度中に売却したその他有価証券

前事業年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

(単位：千円)

売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
1,978,622	162,941	34,473

(単位：千円)

償還額	償還益の合計額	償還損の合計額
1,630,219	57,388	11,762

当事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位：千円)

売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
4,082,976	911,268	81,384

(単位：千円)

償還額	償還益の合計額	償還損の合計額
7,183,410	383,608	146,219

4. 減損処理を行った有価証券

前事業年度において、投資有価証券について1,560千円（その他有価証券1,560千円）減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合、及び30%以上50%未満下落し、回復可能性等の合理的反証がない場合に行っております。

当事業年度において、減損処理を行った有価証券はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度を設けております。また、確定拠出型の制度として、確定拠出年金制度を設けております。

2. 確定給付制度

(1)退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2020年 4月 1日 至 2021年 3月31日)	当事業年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月31日)
退職給付債務の期首残高	5,299,814	5,258,448
勤務費用	476,308	454,611
利息費用	-	1,013
数理計算上の差異の発生額	67,476	34,553
退職給付の支払額	585,151	595,013
過去勤務費用の発生額	-	-
合併による発生額	-	-
退職給付債務の期末残高	5,258,448	5,084,506

(2)退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年 3月31日)	当事業年度 (2022年 3月31日)
非積立型制度の退職給付債務	5,258,448	5,084,506
未認識数理計算上の差異	-	-
未認識過去勤務費用	-	-
退職給付引当金	5,258,448	5,084,506

(3)退職給付費用及びその内訳項目の金額

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2020年 4月 1日 至 2021年 3月31日)	当事業年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月31日)
勤務費用	476,308	454,611
利息費用	-	1,013
数理計算上の差異の費用処理額	67,476	34,553
その他	246,359	211,487
確定給付制度に係る退職給付費用	790,144	632,559

(注) その他は、その他の関係会社等からの出向者の年金掛金負担分及び退職給付引当額相当額負担分、退職定年制度適用による割増退職金並びに確定拠出年金への拠出額であります。

(4)数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表わしております。）

	前事業年度 (自 2020年 4月 1日 至 2021年 3月31日)	当事業年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月31日)
割引率	0.020%	0.130%

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前事業年度239,162千円、当事業年度237,296千円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(単位：千円)

前事業年度 当事業年度

	(2021年3月31日)	(2022年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	1,610,136	1,556,876
賞与引当金	464,389	643,119
調査費	247,208	279,809
未払金	206,090	284,070
未払事業税	66,891	139,522
ソフトウェア償却	90,431	107,998
子会社株式評価損	114,876	114,876
その他有価証券評価差額金	131,391	93,946
その他	35,930	28,056
繰延税金資産小計	2,967,346	3,248,274
評価性引当額（注）	218,966	189,102
繰延税金資産合計	2,748,380	3,059,171
繰延税金負債		
無形固定資産	4,798,732	4,151,648
資産除去債務	-	825
その他有価証券評価差額金	516,605	186,107
繰延税金負債合計	5,315,338	4,338,581
繰延税金資産（負債）の純額	2,566,958	1,279,409

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2021年3月31日)	当事業年度 (2022年3月31日)
法定実効税率	税引前当期純損失のため記載を省略しております。	30.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目		1.6
住民税均等割等		0.1
のれん償却費		1.4
その他		0.2
税効果会計適用後の法人税等の負担率		34.1

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「セグメント情報等」注記に記載のとおりであります。

(セグメント情報等)

前事業年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

1. セグメント情報

当社は、投資運用業及び投資助言業などの金融商品取引業を中心とする営業活動を展開しております。これらの営業活動は、金融その他の役務提供を伴っており、この役務提供と一体となった営業活動を基に収益を得ております。

従って、当社の事業区分は、「投資・金融サービス業」という単一の事業セグメントに属しており、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

2. 関連情報

(1) 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	委託者報酬	運用受託報酬	投資助言報酬	その他	合計
外部顧客への 営業収益	50,610,457	9,450,169	1,270,584	233,628	61,564,839

(2)地域ごとの情報

営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

(3)主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

当社は、投資・金融サービス業の単一セグメントであり、記載を省略しております。

4. 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

当社は、投資・金融サービス業の単一セグメントであり、記載を省略しております。

5. 報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はありません。

当事業年度(自 2021年4月1日 至2022年3月31日)

1. セグメント情報

当社は、投資運用業及び投資助言業などの金融商品取引業を中心とする営業活動を展開しております。これらの営業活動は、金融その他の役務提供を伴っており、この役務提供と一体となった営業活動を基に収益を得ております。

従って、当社の事業区分は、「投資・金融サービス業」という単一の事業セグメントに属しており、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

2. 関連情報

(1)製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	委託者報酬	運用受託報酬	投資助言報酬	その他	合計
外部顧客への 営業収益	66,139,024	9,652,634	1,256,334	231,982	77,279,976

(2)地域ごとの情報

営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

(3)主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

当社は、投資・金融サービス業の単一セグメントであり、記載を省略しております。

4. 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

当社は、投資・金融サービス業の単一セグメントであり、記載を省略しております。

5. 報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はありません。

(関連当事者情報)

前事業年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

1. 関連当事者との取引

(1)兄弟会社等

(単位：千円)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金、出資金又は基金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
親会社の 子会社	(株)三井住友銀行	東京都千代田区	1,770,996,505	銀行業	% -	投信の販売委託 役員の兼任	委託販売 手数料	3,728,851	未払 手数料	863,159
親会社の 子会社	SMBC日興証券(株)	東京都千代田区	10,000,000	証券業	% -	投信の販売委託 役員の兼任	委託販売 手数料	5,578,226	未払 手数料	1,070,559

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

投信の販売委託については、一般取引条件を基に、協議の上決定しております。

2. 親会社に関する注記

株式会社三井住友フィナンシャルグループ(東京証券取引所、名古屋証券取引所、ニューヨーク証券取引所に上場)

当事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

1. 関連当事者との取引

(1) 兄弟会社等

(単位：千円)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金、出資金又は基金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
親会社の 子会社	(株)三井住友銀行	東京都千代田区	1,770,996,505	銀行業	% -	投信の販売委託 役員の兼任	委託販売 手数料	4,727,024	未払 手数料	1,098,966
親会社の 子会社	SMBC日興証券(株)	東京都千代田区	10,000,000	証券業	% -	投信の販売委託 役員の兼任	委託販売 手数料	8,397,864	未払 手数料	1,661,614

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

投信の販売委託については、一般取引条件を基に、協議の上決定しております。

2. 親会社に関する注記

株式会社三井住友フィナンシャルグループ(東京証券取引所、名古屋証券取引所、ニューヨーク証券取引所に上場)

(1 株当たり情報)

	前事業年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
1株当たり純資産額	2,510.93円	2,613.28円
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失()	854.27円	121.61円

(注) 1. 前事業年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

当事業年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失の算定上の基礎は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
1株当たり当期純利益又は当期純損失		
当期純利益又は当期純損失()(千円)	28,934,237	4,119,040
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益又は 当期純損失()(千円)	28,934,237	4,119,040
期中平均株式数(株)	33,870,060	33,870,060

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

- イ 自己またはその取締役もしくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- ロ 運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- ハ 通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等(委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。)または子法人等(委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。)と有価証券の売買その他の取引または店頭デリバティブ取引を行うこと。
- ニ 委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。
- ホ 上記ハ、ニに掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

5【その他】

- イ 定款の変更、その他の重要事項
 - (イ) 定款の変更
該当ありません。
 - (ロ) その他の重要事項
該当ありません。
- ロ 訴訟事件その他会社に重要な影響を与えることが予想される事実
該当ありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

- イ 受託会社
 - (イ) 名称 三井住友信託銀行株式会社
 - (ロ) 資本金の額 342,037百万円(2022年3月末現在)
 - (ハ) 事業の内容 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

[参考情報：再信託受託会社の概要]

- ・ 名称 株式会社日本カストディ銀行
- ・ 資本金の額 51,000百万円(2022年3月末現在)
- ・ 事業の内容 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

□ 販売会社

名称	資本金の額（百万円） 2022年3月末現在	事業の内容
住友生命保険相互会社	639,000	保険業法に基づき、生命保険業を営んでいます。

住友生命保険相互会社の資本金の額の箇所には、基金および基金償却積立金の合計額を記載しておりません。

2【関係業務の概要】

イ 受託会社

信託契約の受託会社であり、信託財産の保管・管理・計算等を行います。

□ 販売会社

委託会社との間で締結された販売契約に基づき、日本における当ファンドの募集・販売の取扱い、投資信託説明書（目論見書）の提供、一部解約の実行の請求の受付け、収益分配金、償還金の支払事務等を行います。

3【資本関係】

（持株比率5%以上を記載しています。）

販売会社である住友生命保険相互会社は、委託会社株式を10.4%保有しています。

第3【その他】

1 目論見書の表紙から本文の前までおよび裏表紙の記載について

- (1) 「金融商品取引法第13条の規定に基づく目論見書である。」旨を記載することがあります。
- (2) 委託会社の金融商品取引業者登録番号を記載することがあります。
- (3) 委託会社のホームページのアドレスおよび他のインターネットのアドレス（これらのアドレスをコード化した図形等も含む）を記載することがあります。
- (4) 請求目論見書の入手方法および投資信託約款が請求目論見書に掲載されている旨を記載することがあります。
- (5) 目論見書の使用開始日を記載することがあります。
- (6) 投資信託の財産は受託会社において信託法に基づき分別管理されている旨を記載することがあります。
- (7) 請求目論見書は投資者の請求により販売会社から交付される旨および当該請求を行った場合にはその旨の記録をしておくべきである旨を記載することがあります。
- (8) 「ご購入に際しては、本書の内容を十分にお読みください。」との趣旨を示す記載をすることがあります。
- (9) 当ファンドのロゴおよび委託会社のロゴを記載することがあります。
- (10) ファンドの形態および属性、申込みにかかる事項、ユニバーサルデザインフォントマークを記載することがあります。
- (11) 写真、イラスト、図案およびキャッチコピーを採用することがあります。また、ファンドの管理番号等を記載することがあります。

2 目論見書は電子媒体等として使用される他、インターネット等に掲載されることがあります。

3 当ファンドの投資信託約款の全文を請求目論見書に掲載することがあります。

4 目論見書は、目論見書の別称として「投資信託説明書（交付目論見書）」または「投資信託説明書（請求目論見書）」と称して使用することがあります。

5 評価機関等から当ファンドに対する評価を取得し、使用することがあります。

- 6 有価証券届出書を個別に提出している複数のファンドの実質的な投資対象資産に共通性がある場合には、当該複数のファンドを一つの投資信託説明書(交付目論見書)で説明することがあります。また、有価証券届出書を個別に提出している複数のファンドにかかる投資信託説明書(交付目論見書)および投資信託説明書(請求目論見書)を一体のものとして使用することがあります。

独立監査人の監査報告書

2022年6月15日

三井住友DSアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 羽 太 典 明指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 菅 野 雅 子指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 佐 藤 栄 裕**監査意見**

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている三井住友DSアセットマネジメント株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの第37期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三井住友DSアセットマネジメント株式会社の2022年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、監査した財務諸表を含む開示書類に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。

当監査法人は、その他の記載内容が存在しないと判断したため、その他の記載内容に対するいかなる作業も実施していない。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 . 上記の監査報告書の原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。 2 . X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2022年4月19日

三井住友DSアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 菅野 雅子

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松井 貴志

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三井住友・年金プラン30の2021年3月9日から2022年3月7日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三井住友・年金プラン30の2022年3月7日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに

対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。

- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 . 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。 2 . X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2022年4月19日

三井住友DSアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 菅野 雅子

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松井 貴志

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三井住友・年金プラン50の2021年3月9日から2022年3月7日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三井住友・年金プラン50の2022年3月7日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに

対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。

- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 . 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。 2 . X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2022年4月19日

三井住友DSアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 菅野 雅子

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松井 貴志

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三井住友・年金プラン70の2021年3月9日から2022年3月7日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三井住友・年金プラン70の2022年3月7日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに

対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。

- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 . 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。 2 . X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

2022年11月22日

三井住友DSアセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	菅野 雅子
--------------------	-------	-------

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	松井 貴志
--------------------	-------	-------

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三井住友・年金プラン30の2022年3月8日から2022年9月7日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、三井住友・年金プラン30の2022年9月7日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（2022年3月8日から2022年9月7日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の中間監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。 2. XBR Lデータは中間監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

2022年11月22日

三井住友DSアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 菅野 雅子指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松井 貴志**中間監査意見**

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三井住友・年金プラン50の2022年3月8日から2022年9月7日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、三井住友・年金プラン50の2022年9月7日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（2022年3月8日から2022年9月7日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の中間監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。 2. XBR Lデータは中間監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

2022年11月22日

三井住友DSアセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	菅野 雅子
--------------------	-------	-------

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	松井 貴志
--------------------	-------	-------

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三井住友・年金プラン70の2022年3月8日から2022年9月7日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、三井住友・年金プラン70の2022年9月7日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（2022年3月8日から2022年9月7日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の中間監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。 2. XBR Lデータは中間監査の対象には含まれていません。